

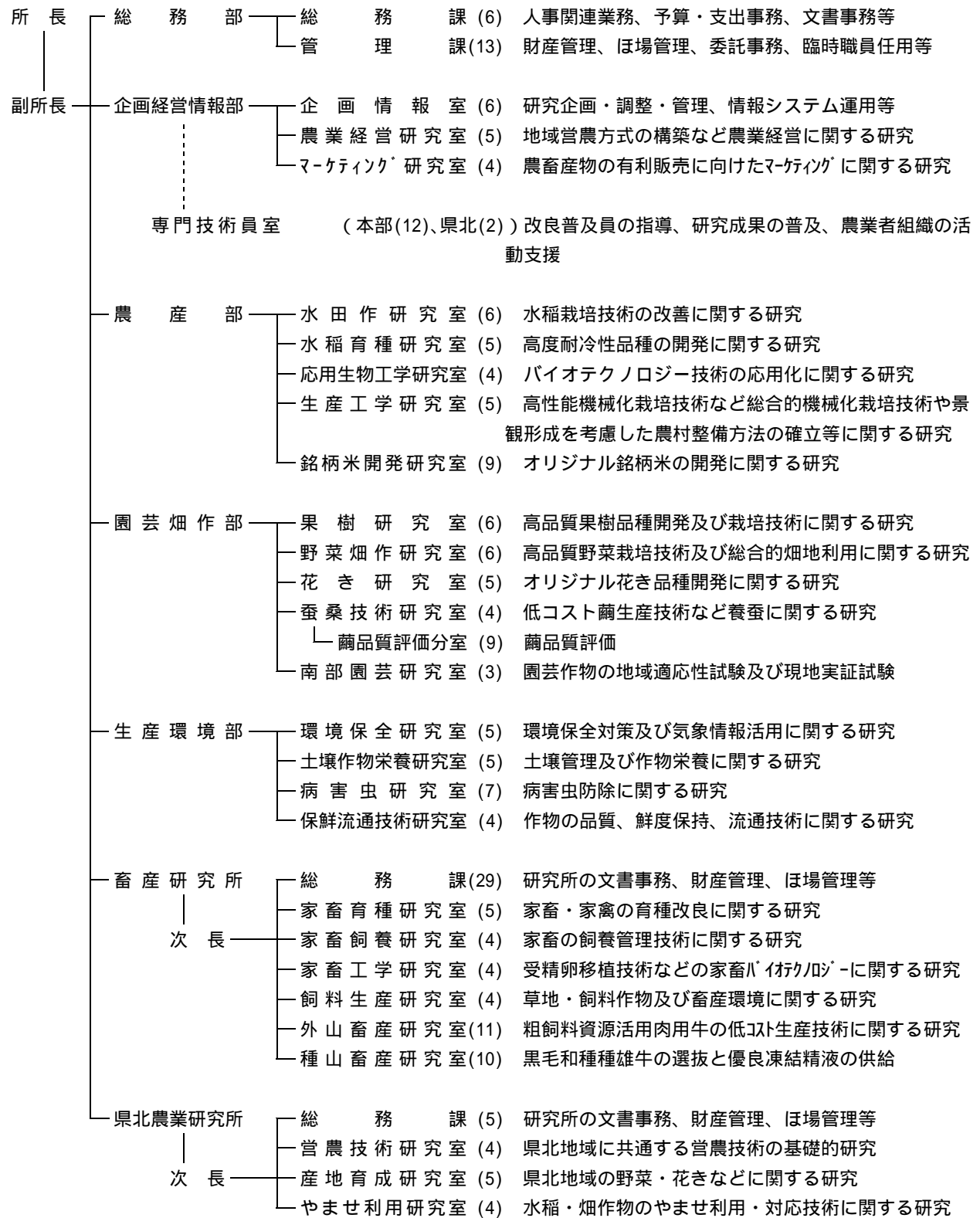
平成10年度

岩手県農業研究センター 年報

平成11年9月

I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数（平成10年4月1日現在）



	本部 (北上市)	銘柄米開発 研究室 (江刺市)	繭品質評価 分室 (盛岡市)	南部園芸 研究室 (陸前高田市)	畜産研究所 (滝沢村)	外山畜産 研究室 (玉山村)	種山畜産 研究室 (住田町)	県北農業 研究所 (軽米町)	合計
事務	12				4		1	2	19
技術	94	7	2	3	19	6	5	17	153
労務	9	2	7		25	5	4	3	55
合計	115	9	9	3	48	11	10	22	227

2 会議、委員会、部会等の運営

(1) 農業試験研究推進会議等の開催

ア 課題編成

(7) 研究会議

企画経営情報部

開催月日 平成10年6月29日
出席者 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

農産部

開催月日 平成10年7月1日
出席者 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

園芸畑作部

開催月日 平成10年6月26日
出席者 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

生産環境部

開催月日 平成10年7月3日
出席者 農業研究センター職員、専門技術員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

畜産研究所

開催月日 平成10年7月7日
出席者 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

県北農業研究所

開催月日 平成10年6月30日
出席者 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

(1) 専門部会

農産部会

開催月日 平成10年7月23日
出席機関 岩手統計情報事務所、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県農地管理開発公社、岩手県農業機械協会、岩手県酒造組合、岩手生物工学研究センター、岩手ブランド推進室、農政企画課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、工業技術センター、病害虫防除所、生物工学研究所、農業大学校、農業研究センター
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

園芸畑作部会

開催月日 平成10年7月22日
出席機関 岩手統計情報事務所、野菜・茶業試験場（盛岡）、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県果樹協会、岩手生物工学研

究センター、農政企画課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、工業技術センター、農業大学校、花きセンター、農業研究センター

協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

畜産部会

開催月日 平成10年7月21日

出席機関 岩手大学農学部、東北農業試験場、岩手統計情報事務所、家畜改良センター岩手牧場、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県畜産会、小岩井農牧、指導農業士、農政企画課、農業普及技術課、畜産課、農産物流通課、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、農業研究センター

協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

総合部会

開催月日 平成10年7月24日

出席機関 岩手統計情報事務所、岩手県農業会議、岩手県農協中央会、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、農地管理開発公社、岩手生物工学研究センター、岩手ブランド推進室、農政企画課、地域農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、農業研究センター

協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

(ウ) 調整会議

開催月日 平成10年8月4日

出席者 農政企画課長補佐、農業普及技術課長補佐、農村計画課国営対策主査、農村建設課長補佐、農業経済課長補佐、農産園芸課長補佐、畜産課長補佐、農産物流通課長補佐、岩手生物工学研究センター研究部長、農業大学校教授、盛岡農業改良普及センター次長、農業研究センター職員

協議事項 ・平成11年度要望課題に対する措置
・平成11年度に実施を予定する新規課題

(I) 推進会議

開催月日 平成10年9月11日

出席者 農政部長、農政部次長、農政企画課長、地域農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長、総合国営対策監、農村建設課長、農業経済課長、農産園芸課長、生産調整対策監、畜産課長、農産物流通課長、生物工学研究所長、農業大学校副校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員

協議事項 ・平成11年度試験研究課題の選定について
試験研究を要望された課題とその措置及び平成11年度実施予定新規課題
平成10年度要望された課題の措置及び実施状況
・平成10年度試験研究推進状況等について
重点研究課題の進捗状況
試験研究課題の中間評価
・上半期の主要活動及び今後の活動計画について

イ 成果検討

(ア) 研究会議

企画経営情報部

開催月日 平成10年12月14日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

農産部

開催月日 平成10年12月16日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

園芸畑作部

開催月日 平成10年12月10日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

生産環境部

開催月日 平成10年12月15日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

畜産研究所

開催月日 平成10年12月8日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

県北農業研究所

開催月日 平成10年12月8日

出席者 農業研究センター職員

協議事項 平成10年度試験研究成果

(1) 専門部会

農産部会

開催月日 平成10年12月24日

出席機関 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農地管理開発公社、岩手県農業機械協会、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県酒造組合、岩手生物工学研究センター、農政企画課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、農産物流通課、工業技術センター、病虫害防除所、生物工学研究所、農業大学校、農業研究センター

協議事項 ・平成10年度試験研究成果

園芸畑作部会

開催月日 平成10年12月18日

出席機関 岩手統計情報事務所、野菜・茶業試験場（盛岡）、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県果樹協会、岩手生物工学研究センター、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、農業大学校、工業技術センター、病虫害防除所、花きセンター、農業研究センター

協議事項 ・平成10年度試験研究成果

畜産部会

開催月日 平成10年12月17日

出席機関 岩手大学農学部、東北農業試験場、岩手統計情報事務所、家畜改良センター岩手牧場、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、家畜改良事業団、岩手県畜産会、小岩井農牧、指導農業士、農政企画課、農業普及技術課、農産物流通課、畜産課、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、農業研究センター

協議事項 ・平成10年度試験研究成果

総合部会

開催月日 平成10年12月21日

出席機関 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、岩手県農業会議、岩手県経済農業協同組合連合会、

岩手県農産物改良種苗センター、岩手県農地管理開発公社、岩手県植物防疫協会、岩手県農業卸商業協同組合、岩手生物工学研究センター、岩手ブランド推進室、農政企画課、地域農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、農業研究センター

協議事項 ・平成10年度試験研究成果

(ウ) 調整会議

開催月日 平成11年 1月27日

出席者 農政企画課長補佐、地域農業振興課長補佐、農業普及技術課長補佐、農村計画課長補佐、農村建設課長補佐、農業経済課長補佐、農産園芸課長補佐、畜産課長補佐、農産物流通課長補佐、岩手生物工学研究センター研究部長、農業大学校教授、盛岡農業改良普及センター次長、農業研究センター職員

協議事項 ・平成10年度試験研究成果
・主な研究成果と今後の取り組み

(I) 推進会議

開催月日 平成11年 2月 8日

出席者 農政部長、農政部次長、農政企画課長、地域農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長補佐、農村建設課長、農業経済課長、農産園芸課長、畜産課長、農産物流通課長、生物工学研究所長、農業大学校副校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員

協議事項 ・主要活動及び来年度活動計画について
農業研究センターの活動概況について
下半期の主要活動及び来年度活動計画について
・平成10年度試験研究成果と平成11年度試験研究計画について

ウ 設計会議

(ア) 企画経営情報部

開催月日	平成10年 5月 1日	平成11年 3月10日
出席者	部内職員	部内職員、県庁関係課
協議事項	平成10年度試験設計検討	平成11年度試験設計検討

(イ) 農産部

開催月日	平成10年 4月12日	平成11年 3月 9日
出席者	部内職員	部内職員、県庁関係課
協議事項	平成10年度試験設計検討	平成11年度試験設計検討

(ウ) 園芸畑作部

開催月日	平成10年 4月10日	平成11年 3月 8日
出席者	部内職員	部内職員、県庁関係課
協議事項	平成10年度試験設計検討	平成11年度試験設計検討

(I) 生産環境部

開催月日	平成10年 4月10日	平成11年 3月10日
出席者	部内職員	部内職員、県庁関係課
協議事項	平成10年度試験設計検討	平成11年度試験設計検討

(オ) 畜産研究所

開催月日	-	平成11年 3月 2日～ 3日
出席者	-	本部・研究所内職員、県庁関係課
協議事項	-	平成11年度試験設計検討

(カ) 県北農業研究所

開催月日	平成10年 5月 1日	平成11年 3月 4日
出席者	研究所内職員	本部・研究所内職員
協議事項	平成10年度試験設計検討	平成11年度試験設計検討

(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容
4月3日(金)	特別会議室	(第1回企画運営会議) (1) 農業業研究センター運営上の留意点について (2) 所内会議等の運営について (3) 平成10年度主要行事について
4月27日(月)	大会議室	(第1回全体会議) (1) 各研究室研究推進方針について (2) 共通事業及び行事について ・現地ふれあい農業研究センター ・21世紀型モデル農業実証試験地 ・参観デー ・研修及び資格取得 (3) 年間行事計画、規程集について (4) 報告事項 ・平成10年度農政推進方針について(農政企画課長補佐) ・農業普及技術課研究情報班業務について(農業普及技術課長補佐)
5月25日(月)	特別会議室	(第2回企画運営会議) (1) 農業ふれあい公園開園式について (2) 畜産研究所本館落成式について (3) 「新しい農業計画」について (4) 農業関係試験研究場所長会議について(全国、都道府県、東北) (5) AFR研究会への対応について (6) 要望課題の措置について (7) 研究成果発表会について (8) 報告事項 ・国際協力拠点構想委員会について ・県農業機械協会通常総会について
6月29日(月)	特別会議室	(第3回企画運営会議) (1) 参観デーについて (2) 畜産研究所本館落成式について (3) 要望課題の措置について (4) 全国場所長会議現地検討会について (5) 研究活動向上事業(大学院派遣・海外派遣)について (6) 試験研究機関フォーラム開催について (7) 筑波研究者交流事業について
7月30日(月)	遠野市	(第4回企画運営会議) (1) 試験研究推進会議について(本会議及び調整会議) (2) 東北農業試験研究会議企画部会幹事会について (3) 交通事故根絶討議結果について (4) 平成10年度9月補正予算について (5) 一般行政経費削減について (6) 実績顕著表彰等について (7) AFRについて (8) 帰国研修員フォローアップ調査について

開催月日	場 所	内 容
		(9) 事務事業評価について (10) 試験研究機関フォーラムについて (11) 報告事項 ・東北農業試験研究協議会総会等
8月31日(月)	特別会議室	(第5回企画運営会議) (1) 試験研究推進会議について (2) 参観デーについて (3) 平成10年度事務事業評価について (4) 平成11年度予算要求原案について (5) 報告事項 ・バイオテクノロジー研究調整会議等
9月28日(月)	特別会議室	(第6回企画運営会議) (1) 現地ふれあい農業研究センターについて (2) 新しい農業計画について (3) 食料・農業・農村基本問題調査会答申について (4) 東北農業試験研究推進会議企画部会について (5) 試験研究推進会議について (6) 参観デーについて (7) 第7回企画運営会議について (8) 報告事項 ・全国農業関係試験研究機関場所長会議現地検討会 ・第2、3回新しい農業計画策定会議
10月28日(水)	東北農業研究所	(第7回企画運営会議) (1) 試験研究推進会議について (2) 現地ふれあい農業研究センターについて (3) 特定課題調査検討プロジェクトチームについて (4) 試験研究課題一覧(テーマリスト)について (5) 農業研究センター運営に対する意見と今後の対応について (6) 農業普及技術課研究情報主査関係業務について (7) 農作物病害虫・雑草防除基準の編成について (8) 毒物・劇物等の管理及び事故等の対策要領について
11月30日(月)	特別会議室	(第8回企画運営会議) (1) 試験研究推進会議について (2) 平成11年度当初予算について (3) 平成11年度課題編成について (4) いわて・つくば研究者フォーラムについて (5) 大学院派遣・海外派遣について (6) 一日子供農業研究員について
12月22日(火)	特別会議室	(第9回企画運営会議) (1) 試験研究推進会議について (2) 知事への業務報告について

開催月日	場 所	内 容
		(3) いわて・つくば研究者フォーラムについて (4) 業務速報「フラッシュ情報」について (5) 研究表彰について
1月25日(月)	特別会議室	(第10回企画運営会議) (1) 知事への業務報告について (2) 試験研究推進会議について (3) 研究成果フォローアップについて (4) 研究成果の県外公表のガイドラインについて (5) 平成11年度当初予算について (6) 特定課題調査プロジェクト第5チームの編成について (7) 科学技術週間への取り組みについて (8) 東北農業試験研究推進会議本会議における意見交換について
2月22日(月)	特別会議室	(第11回企画運営会議) (1) 平成11年度課題編成について (2) 東北農業試験研究推進会議(評価・情報部会)について (3) 公開セミナーについて (4) 「コンピューター西暦2,000年問題」に係る関連機器等調査について
3月29日(月)	特別会議室	(第12回企画運営会議) (1) 平成11年度実施研究課題及び課題体系について (2) 試験成績等のとりまとめについて (3) 科学技術週間対応について (4) 農業技術開発と普及等に関する意向調査への対応について (5) 視察・調査に係る情報交換について

(3) 委員会等の運営

ア ほ場管理委員会

開催月日	場 所	内 容
4月10日(金)	研修室	(1) 平成10年度ほ場利用について (2) 平成10年度ほ場管理業務委託内容について (3) ほ場作業機械の使用調整と修理費、燃料費の負担確認について (4) 試験研究補助業務及び委託業務の指示・連絡調整体制について (5) 委託業務担当者の組織・連絡調整体制について (6) ほ場管理施設の管理方法について
8月26日(水)	中会議室	(1) 平成10年度前期委託業務変更内容の確認 (2) 平成10年度後期委託業務の変更希望について (3) ほ場管理費の執行状況と支出計画について (4) ほ場管理業務体制の再確認について (5) 作物残査処理及び稲わら等の収納方法について (6) 研究センター参観デーに向けてのほ場作業について

開催月日	場 所	内 容
10月19日（月）	1階小会議室	(1) 平成11年度ほ場管理予算の編成について (2) 平成11年度後期委託作業について (3) ほ場管理作業計画及び作業記録について
12月3日（木）	研修室	(1) ほ場の補修箇所及び補修方法について (2) ほ場作業日々雇用職員の作業期間の確認について (3) 平成10年度ほ場管理費の執行状況について (4) 平成11年度委託業務予算要求内容について
2月22日（月）	研修室	(1) 平成10年度委託業務の進捗と追加業務について (2) 平成10年度ほ場管理費の執行状況について (3) 平成11年度ほ場管理委託業務内容の確認 (4) 作物残渣置き場の設置場所の検討

イ 情報ネットワーク運営委員会

開催月日	場 所	内 容
4月24日（金）	（書面協議）	(1) 岩手県農業研究センターでの電子メール利用について
10月5日（月）	（書面協議）	(2) ホームページ作成ガイドライン及び試験研究データベースの構築について

ウ 特許審査委員会

開催月日	場 所	内 容
3月4日（火）	（書面協議）	(1) 「遺伝子組み替えりんご及びその作出法」についての勤務発明審査等

エ 水田転作営農プロジェクト

開催月日	場 所	内 容
7月23日（木）	1階小会議室	(1) そばの栽培について (2) 大豆現地調査について
11月12日（木）	1階小会議室	(1) 中間検討会（平成9年産転作小麦の調査結果について）

オ 家畜排泄物資源リサイクルプロジェクト

開催月日	場 所	内 容
5月13日(水)	一戸町 種市町	(1) 平成10年度活動計画について (2) 平成10年度分担別試験設計について (3) 優良事例調査 奥中山堆肥センター、一戸町堆肥センター
2月19日(金)	研修室	(1) 平成10年度研究進捗状況について (2) 今後の活動計画について

カ 農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会

開催月日	場 所	内 容
10月22日(木)	大会議室	雑草防除・成長調整剤部会 (1) 要望事項への回答について (2) 雑草防除基準の改訂について (3) 成長調整剤使用基準の改訂について <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 水稲 野菜・花き </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 畑作 果樹・桑 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 飼料・牧草 </div>
10月23日(金)	1階小会議室 2階小会議室 中会議室	病害虫部会 全体会議 (1) 病害虫防除基準編成方針について (2) 病害虫防除基準に係る要望事項について 第1分科会 (1) 病害虫防除基準の改訂案について <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 畑作物 飼料作物、牧草 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 鳥獣 稲 </div> 第2分科会 (1) 病害虫防除基準の改訂案について <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 野菜 果樹 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 花 土壌病害 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 桑、蚕 </div> 全体会議 (1) 各分科会の報告
10月28日(水)	県北農業研究所	農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会 (1) 農作物病害虫・雑草防除基準について

キ 参観デー運営委員会

開催月日	場 所	内 容
6月5日(金)	特別会議室	(1) 平成10年度岩手県農業研究センター参観デー実施内容について (2) 今後のスケジュールについて
6月22日(月)	中会議室	(1) 平成10年度岩手県農業研究センター参観デー実施内容について (2) 協賛行事等の実施について
7月13日(月)	特別会議室	(1) 本部参観デー実施内容及び進捗状況について (2) 協賛行事の実施について (3) 今後のスケジュールについて
7月30日(木)	特別会議室	(1) 本部参観デー実施内容について (2) 開催場所の調整について (3) 準備状況について
8月7日(金)	中会議室	(1) 本部参観デー実施内容及び実施場所の調整について (2) オープニングセレモニーについて (3) 準備状況について

ク 特定課題検討会

開催月日	場 所	内 容
11月30日(月)	中会議室	特定課題調査検討計画について (1) プロジェクト第1チーム「持続的農業導入の促進対策」 (2) プロジェクト第2チーム「中山間地域における地域資源活用対策」 (3) プロジェクト第3チーム「飼料用イネの生産・利用対策」 (4) プロジェクト第4チーム「バイオマスエネルギー(バイオガス)対策」

II 試験研究の推進

1 研究活動の概要

本センターでは「第7次試験研究推進構想」(平成9年4月策定)に基づき、

- 1 バイオテクノロジー等利用による商品性の高い独自品種の開発と家畜改良の推進
- 2 国際化に対応できる超省力・低コスト生産管理技術の開発
- 3 自動化、システム化等先端技術利用による革新的生産技術の開発
- 4 環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術の確立
- 5 地域特性を生かした商品価値の高いオリジナル農畜産物の加工技術の開発と有利な流通展開に向けた戦略の開発
- 6 中山間地域の農村資源を生かした地域活性化手法の開発
- 7 農村地域の多面的機能の評価手法の開発とその維持向上に配慮した農業農村基盤の総合的整備管理手法の開発
- 8 総合農業情報システムの活用による栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムの開発

など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

平成9年度に整備された本センターは、革新技術の開発とその迅速な普及を任務として、農業者が希望を持って意欲的に取り組める農業の実現に資することが求められている。この任務を効率的、効果的に果たしていくために、平成10年度は以下の4つの視点を基本姿勢として試験研究の推進を図ってきた。

「時」の視点：先駆者利益の追求、時代の要請への迅速に応える商品開発、開発技術の迅速な普及など

「人」の視点：消費者の立場からの見方・ニーズを意識した技術開発、生産者の実態(高齢化や女性労働力)に配慮した技術開発、研究員の資質向上など

「質」の視点：食味・品質を重視した技術開発、消費者の健康指向や環境保全に応える技術開発、地域特性を活用した技術開発など

「量」の視点：産地拡大のための技術開発、生産規模や生産量の拡大につながる技術開発など

2 研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

研究に係る企画調整(所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等)、センターに関する広報及び情報システムの整備・充実にあたった。

企画調整にあっては、所内諸会議(企画運営会議、全体会議等)や委員会(図書管理委員会等)等の運営、関係機関(国、県及び関係団体)との連絡調整(推進会議等)を行うとともに、これらを含む所内の研究推進体制の見直しを行った。また、産官学共同研究グループ「岩手農林研究協議会(AFR)」への参加やつくば研究者フォーラムと連動した農業研究フォーラムの開催など共同研究や研究協力の強化のための取り組みを行った。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参加デー(本部・畜産・県北)現地ふれあい農業研究センター(盛岡、花巻、北上、千厩、釜石振興局管内)及び各種セミナー等を実施した。また、あらたに研究成果のPRパンフレット「研究レポート」の創刊、科学技術週間行事としての春季一般公開、子供一日農業研究員、県庁における研究成果発表会などの取り組みを行った。

情報システム整備は事業計画の最終年となり、必要なハードウェアやソフトウェアの整備を終えたほか、先行してデータ整備を行っている各種データ(試験研究レポート、図書所蔵データ等)の充実を図った。今後はインターネットを活用し、より利用者が活用しやすいシステムとしてゆく。

農業経営研究室

地域農業構造の把握や稲作、畑作、畜産の経営方式、中山間地域活性化等に関する研究を実施している。

地域農業構造の把握では、農業センサカードによるデータベースを活用した「地域農業動向把握システム」を開発し沢内村を事例に活用事例を提示した。稲作経営に関しては直播技術導入に関する農家の技術評価の把握や基盤整備地区での受益者の営農意向把握を行った。畑作経営に関しては、豆そば用コンバインを導入した受託組織の活動実態を把握するとともに、大規模野菜作経営に向けたセル成形苗用全自動移植機の導入下限面積が7haであることを明らかにした。畜産経営に関しては黒毛和種放牧子牛の市場評価が低い分を出荷日齢を早めてその差を埋めることや系統の組み合わせにより市場評価を高める工夫が必要なことを提言した。

中山間地域活性化に関しては、農産物直売所の構成員数や地域的広がりによる品揃えの方法や組合員間の調整方法を明らかにするとともに、農村女性の起業活動には販路の開拓や施設設備への投資の支援が必要であることを提起した。

マーケティング研究室

県産農畜産物の販売戦略及び中山間地域活性化戦略の確立を目的に、農畜産物の市場動向分析、都市との交流による地域活性化方策等の研究を行っている。

農畜産物の市場動向分析では、八戸市、川崎市、武蔵野市の消費者アンケートから米の購入視点が「味」と「価格」が重視されるが、地域によって選択される銘柄が異なることを明らかにした。りんごの消費動向では盛岡市民を対象に調査し、若い世代ほど甘さよりも口当たりの良さを重視することや消費拡大を図るためには鮮度や食べ頃情報の提供が重要なこと、盛岡、水沢、一関の店舗で実施した、なばな「はるの輝」の購入意識調査から、なばなの販売促進には栄養成分のPRが必要なことや需要価格が146円程度であることを明らかにした。

都市との交流に関しては、八戸市、川崎市、武蔵野市市民を対象とした調査から「伝統工芸の体験」や「農家民宿」への人気が高いこと、また受け入れ先では、公的な宿泊施設を核としながら農家民宿を組み合わせることや地域の特色ある交流メニューを用意し、農家が積極的に交流を受け入れる体制づくりが必要なことを提起した。

(2) 農産部

水田作研究室

水稲の品種選定、省力・低コスト栽培技術確立、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究、及び原種・原々種の生産を行っている。

奨励品種決定調査では、奨励品種として中生の酒造好適米「岩南酒13号」を選抜するとともに、うるち5系統、酒造好適米1系統、もち1系統を有望と認め継続検討することとした。

省力・低コスト技術として期待される直播技術について、品種別栽培可能地帯や播種・肥培管理・雑草防除などの栽培法を指導技術として取りまとめた。また、効果の高い水稲除草剤3剤（初期剤1、初・中期一発処理剤2剤）を選定し防除基準に採用するとともに、水中拡散性に優れる水稲除草剤の省力散布法を普及に移した。

安定生産技術を確立するため、平成10年の水稲生育・作柄（作況指数97）・品質（1等米比率全国第3位、東北第1位）に影響した要因や、8月末の大雨による冠水（水稲登熟中期）の水稲の収量・品質に及ぼす影響を実態調査に基づいて解析した。

また、水稲原々種は3品種330kg、原種はうるち5品種17,620kg、もち2品種2,860kgを生産した。

水稲育種研究室

北上川上流、北部、沿岸地帯に適應する耐冷・良質・良食味品種、超低コスト稲作をめざした直播き用品種、及び酒造好適米、糯米等特殊用途米品種などの水稲品種育成に取り組んでいる。

主食用米系統では、次の2系統に地方番号を付し、平成11年度の奨励品種決定調査用の新配布系統とした。

岩手57号：岩手35号／山形45号，はえぬき　－中生・良質・多収・良食味－

岩手58号：越南149号，あこがれ／東北152号，まなむすめ　－晩生・多収・耐冷性極強－

多様な消費者の需要に応え、また高付加価値米等に有効な低アミロース米系統として、次の系統に地域番号を付し平成11年度の新配布系統とした。

岩手56号：奥羽343号／コガネヒカリ　－早生・低アミロース(アミロース含量10%程度)・耐冷性やや弱－

酒造好適米では、岩手県工業技術センターとの研究連携で、醸造適正の優れる岩手酒52号(秋田酒44号／東北141号，こころまち)を選抜してきた。本系統については、平成11年度も引き続き奨励品種決定本調査（現地試験含む）に供試し、栽培特性を調査するとともに、掛け米としての評価も含め、醸造適性試験を継続実施する。

直播き適応性のある品種育成のため、直播きによる生産力検定試験を実施したが、苗立ち性、耐倒伏性等が不十分であり、地方番号付与系統は選抜できなかった。

応用生物工学研究室

生物工学研究センターにおいてキチナーゼ遺伝子を導入した水稲（かけはし）の後代について、いもち病抵抗

性の検定を行い、抵抗性の付与が認められた3系統を選抜した。またキチナーゼ遺伝子を導入したりんご(ふじ)について糸状菌病害の抵抗性を検定し、斑点落葉病に対してジョナゴールド並の抵抗性を示す系統を見いだした。さらにピアラホスに抵抗性を示す薬剤耐性遺伝子導入りんご(ふじ、ジョナゴールド、6系統)を確認した。

ピーマン、トマト等の青枯病菌の罹病株に対して、抗体を用いたTPI法で検出・診断することができた。

いもち病真性抵抗性に関するDNAマーカーを検索し、*Pik*遺伝子に連鎖すると思われるマーカーを得た。

えぞりんどう採種用親系統の維持・増殖法を確立するため、親6系統の茎頂培養用培地を検討したところ、矢巾系及び松尾系のそれぞれ増殖に適する固形培地を見いだすことができた。りんどうの新品種「ポラーノホワイト」(栄養繁殖性)について、RT-PCR法でウイルス検定を行い、ウイルスフリー株を再選抜した。また、主要産地におけるウイルス病の発生実態も調査した。

スターチス・シヌアータ培養系品種の低コスト培養システムを確立するために、生工研センターで開発した基礎的技術について、発根・順化条件を改良し、培養期間の短縮化を図った。また培養容器、植え付け本数等を検討し、培養棚でより多くの個体を培養できる方法を明らかにした。

生産工学研究室

水稲の省力低コスト研究として、水耕ロングマット育苗技術について農林水産省農業研究センターに依頼研究員を派遣し、水耕の育苗環境、施肥、病害等広範囲な課題に取り組んだ。

省力低コスト研究のもう一つの柱である直播研究については、芽だし直播、打ち込み式直播、ラジコンヘリによる散播、既存の側条施肥田植機構を利用した直播機による区を設けて、様々なタイプの直播方式を検討し、指導事項としてとりまとめた。

近年、大区画ほ場整備の進展にともない、ほ場の均平化の経年変化が問題となっており、その均平化の実体と経年変化についてとりまとめた。ほ場の均平測定には、パソコンと自動追尾型光波測距儀を用いて、自動計測システムの開発に取り組んでいる。

また、生研機構等で開発された自動水管理システムの実証試験を行い、水位計の精度検討、無線通信システムによるデータの収集と遠隔操作システム用ソフトの検証等について取り組んだ。

同時に、大区画ほ場の中間管理機械として、ラジコンヘリや乗用管理機の下限面積や負担面積等についてとりまとめ、指導事項とした。

野菜作の機械化に関しては、キャベツ等の乗用移植機、収穫機、ダイコン収穫機などについて労働負荷等を加味した性能調査に取り組んだ。

銘柄米開発研究室

品種育成研究では、各種特性検定試験や生産力検定試験を経て、早生の粳種1、中生の粳種1、晩生の粳種2、晩生の低アミロース酒1の5系統を有望と認め、岩南20~24号の地方番号を付し、新配布系統とした。奨励品種決定調査では、「岩南酒13号」が大粒で心白の発現がよく、「美山錦」に優る酒造好適米品種として認められ、奨励品種とした。また、主食用米として、成熟期が中生の晩に属する「岩南7号」が品質・食味良好で、継続して検討中である。

栽培試験では、「ひとめぼれ」の簡易栄養診断のため、草丈・茎数・葉色などから幼穂形成期追肥の要否判定を行う基準を策定したほか、「ひとめぼれ」のタンパク質・アミロース含有率と玄米及び白米白度の関係を明らかにした。雑草防除関係の研究課題では県南部におけるスルホニルウレア系除草剤抵抗性アゼナ類の発生状況を調査し紹介するとともに、水田畦畔抑草剤を防除基準に採用した。また、泥炭層を含む水田におけるほ場整備直後の水稲生育の特徴を現地で調査し、行政に参考となる成果としてまとめた。

なお、ほ場抵抗性の極く強い系統、一定期間内の窒素吸収量と初容量の関係について解析した結果を研究開発に有効な成果としてとりまとめた。

(3) 園芸畑作部

果樹研究室

果樹研究室では、りんごの栽培試験及び品種改良を主体としているが、さらに、ぶどう、西洋なし、おうとうなど、多岐にわたる品目に係る試験を実施している。

りんごでは、新しい性台木JM7を利用した省力的なわい化栽培法の確立試験を行っているほか、「きおう」の安定生産、摘花剤や摘葉剤の実用化に関する試験を実施している。品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交配に取り組んでおり、現在207交配組み合わせ、14,000個体の中

から選抜を実施中である。なお、新品種「きおう」については、県内に広く植栽を奨めるため県下5ヶ所(二戸、宮古、紫波、江刺、一関)に展示圃を設置、各地域の適応性等の把握に取り組んでいる。

ぶどうでは、消費動向に対応した寒冷地向きの生食用新品種を主体に、垣根仕立てなど、省力・高品質栽培技術の開発を、現地試験を通じて取り組んでおり、紅色の大粒種である「安芸クイーン」を有望品種として認めた。

西洋なしでは、高品質生食用品種「ラ・フランス」を主体に、わい化栽培法及び生産安定技術の確立に向けて試験に取り組んでいる。

野菜畑作研究室

野菜、畑作物ともに、規模拡大及び水田転作強化に対応した作目再編、新栽培方式の確立に取り組んでいる。野菜栽培研究については、大規模野菜専作経営構築を主眼に、果菜類を中心とした省力・低コスト生産技術確立に関する試験に取り組んでいる。本年からは特に、トマト・ピーマンのセル苗直接定植技術試験に力点を置いている。また、水田転作に対応して、本年度より県南部におけるキャベツの5～6月穫り作型確立試験に着手した。現地試験では本年度より新たに「21世紀型農業経営モデル実証試験地」が設置されたが、当研究室においても北上、水沢、一関、遠野各振興局管内の現地実証に携わった。

畑作栽培研究では、実需者と生産者の双方から受け容れられる品種選定・栽培法確立が求められており、需要に即した高品質・長期安定生産を目的として、転換畑を含めた畑地の総合的利用技術試験に取り組んでいる。また、本年度より新規課題として、転換畑の持続的作付体系の組立実証及び春まき麦類の適応品種・栽培法試験に着手している。このうち後者の試験では、西南暖地で用いられている播性程度の低い品種についても供試している。

本年度の成果としては、県中南部における6月どりキャベツの施肥技術、輪作及び耐病性品種利用によるダイコン萎黄病の発生軽減、生育予測を用いた大豆の作期策定等、合計5つを成果としてとりまとめた。

花き研究室

花きの飛躍的な産地化をめざし、多様な消費動向に対応できる寒冷地型花き生産技術を開発するため、りんどう及びりんどうに次ぐ重点花き品目の品種育成と長期出荷作型の開発試験を実施している。

りんどうではスプレータイプ品種「ポラーノブルー」の最適株間、仕立て本数を明らかにした。また、夏播き育苗の定植期や栄養系鉢物品種の作型及び開花調節法を確立した。スターチス・シヌアータでは栄養系5品種を育成し、簡易な増殖法である挿し芽苗の育成法や長期出荷のための作型組み合わせ法を確立した。オリエンタルユリでは品質向上のためのプレルーティング処理時の湿度条件を明らかにした。

スプレーギクでは短日期における品質向上のための再電照法を明らかにし、小ぎくでは沖縄系小ぎく品種の栽培特性や、市販品種の母株管理法や電照反応性を明らかにした。

蚕桑技術研究室

新しい繭糸素材の開発、菌床しいたけ栽培、蚕病防除、人工飼料による省力育蚕技術、桑新品種の栽培に関する試験を実施している。

新しい繭糸素材の開発では、天蚕繭の繰糸技術、座繰り糸の製造方法を明らかにした。また、保存蚕品種を利用した交雑種4品種を用い、細織度生糸の繰糸方法を明らかにするとともに、生産繭及び生糸の性状を調査した。このうち2種の生糸を用いて高級織物製品を試作した。

菌床しいたけ栽培では、養蚕施設の菌床しいたけ栽培への利用事例を調査し、施設・家族労働力の周年利用、既存施設の活用がなされていることから、養蚕との複合作物として親和性が高いことが明らかになった。

人工飼料による省力育蚕技術として、KIT人工飼料を用いた1～3齢の無菌人工飼料育の現地農家での試験飼育を行い、良好な蚕作であった。

蚕病防除関連では、新薬剤の蚕に対する残留毒性試験、桑新品種の栽培では桑系統適応性検定試験を実施した。

なお、繭検定所の廃止に伴い、当研究室の分室として繭品質評価及び繭の繰糸試験を行う繭品質評価分室が設置された。

南部園芸研究室

県南部や沿岸地域の恵まれた気象条件を生かした野菜・花き園芸の高生産技術の開発研究とともに特色ある園芸産地形成のため地域実証研究を実施している。

花きに関する研究では、トルコギキョウの高品質生産として、夜冷短日育苗と定植後の短日処理を組み合わせ

ることで11月出しの高品質生産技術を明らかにした。また、10月出しの短日処理による品質向上については、定植後の処理のみで効果が得られるとともに、その品種別の品質特性を明らかにした。

スターチス・シヌアータでは、栄養系品種の育成とその特性を明らかにするとともに実生による夏秋出し作型技術を体系化した。また、ラークスパー生産の最大の課題である立枯病対策についての防除方法について知見を得た。

野菜に関する研究では、短日処理による促成いちご前進作型（秋出し）において小型ポット利用による苗養成及び収量、品質が安定する短日処理期間、定植時期を明らかにした。また、輪作体系の一環として雨よけハウスを利用したアスパラガス伏込み促成栽培の根株養成について体系化した。

(4) 生産環境部

環境保全研究室

農薬や化学肥料の環境負荷低減技術の開発、環境保全型農業の総合組立、生理活性物質や天敵、微生物等を活用した生態系活用型農業技術の開発、さらには、安全な農産物の生産技術の開発などに関する調査研究を行った。

環境負荷低減技術の開発については、施肥窒素の溶脱や農薬の水質への影響など環境動態調査に取り組んだ。雫石川水系におけるいもち病防除剤の残留実態について試験研究成果（行政）に移した。

環境保全型農業の総合組立については、雫石、玉山など県内6地域において、いもち病の発生を回避する有機質肥料の施用条件の解明に取り組むとともに、地域別の気象条件と発生量の解析、有機質肥料の施用条件と箱施用剤の効果の持続性との関係解明に取り組んだ。また、ほうれんそうのいわゆる有機栽培における収量性、生育障害要因の実態解明に取り組んだ。

生態系活用型農業技術の開発については、早春なばなのコナガに対し性フェロモンが有効であることを明らかにし普及に移すとともに、天敵を利用したトマトのオンシツコナジラミの防除技術の確立に取り組んだ。また、ホウレンソウ萎ちょう病に対する非病原性フザリウム菌と移植栽培との併用の有効性について現地実証を行った。

安全な農産物の生産技術の開発については、きゅうり、トマトなどを対象とした農薬の残留性について調査を行った。

なお、農業研究センター本部地域における30年間の気象観測値について平年値を作成した。

土壌作物栄養研究室

農耕地土壌の保全対策、土壌情報のシステム化、土壌蓄積養分の有効利用、低投入・高品質生産のための土壌・施肥管理技術、畜産由来資源の評価・利用、作物の生育予測・栄養診断に関する研究を実施した。

土壌環境基礎調査のとりまとめを行い、県内主要農耕地土壌の20年間の土壌生産環境の変化を解析するとともに、新たに実施する土壌モニタリング調査地点を選定した。土壌特性を図示できるメッシュ生産環境情報システムを実用化し、適地適作図作成につながる潜在的生産力の評価法を明らかにした。また、環境に配慮した土壌管理指針作成の基本となる「土壌環境・作物分析の手引き」を作成した。

省力で、環境負荷を低減する施肥技術として、肥効調節型肥料による果菜の育苗時全量施肥法に関する試験を開始した。また、果樹に対する秋施肥の効果を明らかにした。作物の生育・栄養診断では、水稻の分光反射特性を利用した近接リモセン等による生育・栄養診断手法について継続検討し、園芸品目の液汁による簡易栄養診断手法について検討を開始した。畜産由来資源の評価・利用で検討している円形発酵槽から生産されるオガクズ牛ふん堆肥は、安定した成分特性を示し、1ト/10a程度の施用では問題のないことを明らかにした。

安全で、栄養価の高いほうれんそうの生産技術の開発を部内4研究室の共通課題とし取り上げ、内部品質と土壌環境の関係を検討した。

病害虫研究室

生態系の生物相制御機構から選抜された病害虫防除手段として、斑点米カメムシ類やアブラムシ類に対する昆虫寄生性糸状菌の防除効果、及び、りんご主要害虫とストックのコナガに対する性フェロモン剤の防除効果について検討しそれぞれの有用性を確認した。さらに、高品質・安定生産を図りながら病害虫を総合管理して低投入防除技術を組み立てるため、病害虫発生予察の精度向上や省力調査技術、各種病害虫の発生生態と省力防除法、薬剤耐性（抵抗性）病害虫の検定、新農薬の効果検定及び品種の病害虫抵抗性検定を実施した。また、施設栽培での温湿度コントロールによる物理的病害防除法を検討した。

これらの中から、りんごのハダニ類防除体系の改訂、粒剤のセルトレイ施用によるキャベツ害虫防除、新農薬

による各種作物の病害虫防除法について成果公表し、県防除基準作成の資とした。また、水稻育苗期細菌病の多発診断指標、ハウレンソウ萎ちょう病に対する品種耐病性簡易検定、イネ葉鞘褐変病の発生予測について成果公表し、発生予察につながる指導技術とした。

なお、県内の病害虫発生動向把握の手段と普及現場からの診断依頼や防除法の要望が多い、トマト黄化えそウイルスによる野菜・花き病害の発生実態と症状の特徴、チビクロバネキノコバエのりんどう定植株への加害実態、トルコギキョウ産地に見られる発育不良株の発生実態を成果として公表した。さらに県単研究費によって生態の不明な新奇病害虫の防除法について検討している。

保鮮流通技術研究室

農産物の品質評価技術、高鮮度流通技術及び地域特産加工食品開発の研究を行った。

品質評価技術では、現地の葉とらずりんご「完熟ふじ」の食味には、糖度よりも蜜入程度が大きく関与していることが明らかとなった。雨よけトマトの少量土耕栽培では、慣行栽培に比較して糖度やビタミンC量が高まる傾向もみられ、給液方法等の改善により高品質トマトの生産が可能であると考えられた。また、山菜等の栄養成分及び機能性成分（抗酸化性）について明らかにした。

高鮮度流通技術では、りんご「きおう」は冷蔵（0℃）+MA包装段ボール箱により、約50日の貯蔵が可能であることを明らかにした。ゆり切り花では、収穫後の花の生長は低温ほど緩慢であることが明らかとなった。西洋なし「ラ・フランス」は冷温高湿貯蔵（温度 -1.5 ± 0.5 ℃、相対湿度95%以上）により、翌年の4月頃まで、6ヶ月間の長期貯蔵が可能であることが明らかとなった。10月以降に出荷する秋取りブロッコリーは、MA包装段ボール箱による鮮度保持効果が高く、従来の発泡スチロール箱に代替できることを明らかにした。

地域特産加工食品開発では、浅漬用特産野菜の「金芭蕉」について収穫時期と辛味品質との関係について調査した。高品質りんごジュースを試作し、消費者等に対してアンケート調査を実施した。漬物組合と共同で芭蕉菜浅漬の氷温貯蔵試験を実施した。また、高品質そば切りの製造条件について検討した。

(5) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出：直接検定の1日当たり増体量（DG）は1.29kg（選抜牛1.29kg）であり、16頭を選抜（選抜率47%）した。間接検定は5種雄牛について実施したが増体は優れた（DG1.19～1.25kg）ものの、肉質に優れる種雄牛は作出されなかった。

新技術を活用した優良種畜の作出：高能力牛由来の分割胚移植による黒毛和種一卵性双子を2組（雄・雌各1組）生産し、増体・肉質同時検定を実施中である。

ランドレース種の系統造成：従来の産肉性を中心とした選抜形質に加えて、肢蹄の強健性を取入れた「飼いやすい」豚の系統を造成中であり、本年度は第5世代の能力調査・選抜及び第6世代生産のための計画交配を実施した。第5世代の1日当たり増体量は雄0.98kg、雌0.89kgであった。

高品質肉用鶏の作出：軍鶏×（有色コーニッシュ×岩手地鶏）により改良基礎群を作出し改良を進めており、本年度は第2世代の生産と能力調査を実施した結果、1日平均増体量は8週齢までは対照区の軍鶏より大巾に優れたが、14週齢以降は極端に劣った。しかし、16週齢時の体重は軍鶏に凌駕して順調に改良が進められている。

家畜飼養研究室

乳牛の改良は進み高能力牛に変換されつつある。しかし、酪農経営における労働は過重で3Kの代表になっていることから、酪農家を重労働から解放して「ゆとり」ある環境保全型の省力酪農経営を実現するため、高能力牛の省力管理に主体を置き取り組んでいる。

超省力管理：自動（ロボット）搾乳機、自動給餌機及び、自動糞尿処理施設を導入した。自動（ロボット）搾乳機については、平成10年6月から24頭の乳用牛を試験牛として試験を開始したところ、開始後6週で、極端に乳房形状の悪い牛を除いた約90%の牛が自動搾乳されるようになり、従来、毎日3～6時間を要していた搾乳時間が、1時間以内に短縮されるようになり、労働の質も極めて軽い作業となっている。自動（ロボット）搾乳機の付帯施設として整備した自動給餌機及び、自動糞尿処理施設については、平成11年4月から試験を開始する予定となっている。

環境保全：21世紀に向けた省資源型・環境保全型酪農経営を構築するために、搾乳施設から排出される汚水の処理について、酪農家が容易に導入出来る、設備費の安価な簡易汚水処理施設の開発に取り組んで来たが、最終

処理水のBOD、SS、細菌及び、窒素等についても排水基準値以下になることを確認した。今後は、ロボット牛舎に設置された同型施設と合わせ経年変化について、追跡調査を実施することとしている。

放牧管理：新農業基本方針に基づいた、21世紀に向けた環境保全型酪農経営を構築するため或いは、中山間地の農村の振興対策の一環として、平成10年度から「制限放牧を組み入れた高能力牛の飼養管理技術」の確立試験に取り組んでいる。

家畜工学研究室

牛の改良及び増殖に胚移植技術の利用を更に高めるには、移植可能胚の安定的生産、性判別胚の凍結技術の確立及び核移植技術等の開発により、生産性の向上を図る必要があるため次の研究を行った。

供胚牛へ給与飼料の低エネルギーと高エネルギーによる胚回収成績に及ぼす影響の検討：高エネルギーで回収胚数及び正常胚率が高い傾向が得られた。過剰排卵処置前の主席卵胞を含めた大型卵胞の吸引除去は、発情後5日目に吸引し24時間以内に処置を開始すると採胚効率が向上することが明らかになった。雌雄産み分け技術利用開発では、PCR法による性判別胚率84.5%、雌雄判明胚の分娩産子との一致率は100%、ダイレクト法凍結胚の受胎率20～30%の成績が得られた。

家畜のDNA解析：遺伝情報を解明し、育種研究の促進、効率化に資するため、次の研究を行った。肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析では、新たなソフトウェアを用いて日増体重、枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑において、それぞれの形質と有意に連鎖する染色体領域が明らかになった。

豚肉の品質に関する解析：赤肉割合など19形質において、23の量的形質候補が検出された。

飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のための試験に取り組んでいる。

とうもろこしの品種選定：北海道農業試験場育成の2系統、草池試験場の3系統、長野中信農業試験場の2系統について検討し、系統による黒穂病、根腐病耐性の弱さを指摘した。

ソルガム：ソルゴー型ソルガム「風立」と「天高」を8：2の種子量で混播栽培することにより、倒伏無しで多収が可能なることを明らかにした。また、繊維の消化性の高い兼用型ソルガム「葉月」は、ロールペールラップサイレージ調製にも適し、家畜の嗜好性にも優れていることを確認した。

草地更新：耕起整地後、雑草が出揃った時点で除草剤散布と牧草種子の播種を同日に行うことにより、除草剤散布回数を減らしながら、雑草発生が少ない草地化が可能なることを認めた。

粗飼料調製：ロールラップサイレージによる粗飼料の円滑な流通をはかるために、青森、福島と協力のもとに、東北地方におけるロールラップサイレージの簡易品質評価基準を提示した。

家畜糞尿処理：円形発酵槽によるオガクズ入り良質堆肥生産技術を明らかにすると共に、ロックウール脱臭装置の効果、更にキノコ培養残渣が脱臭素材としてオガクズに優ることを明らかにした。

外山畜産研究室

中山間地における公共草地の利用促進を中心とした粗飼料の生産体系、肉用牛の放牧管理技術を確立し肉牛の低コスト経営による安定化を推進する。

このため、近年利用低下が危惧されている公共放牧地の有効利用のため黒毛和種の放牧促進のため管理の省力化と子牛の発育促進技術に取り組んだ。草地・林地の環境保全機能を損なわない畜産的利用技術として、産業の枠を越えた技術開発試験を実施している。

黒毛和種放牧牛の集団繁殖・子牛育成技術の開発試験：現地適用試験として2年間の実績から 音声による省力的な集畜誘導率は80頭規模の現地実証で2年目には強制的な馴致なしで70%以上の集畜率 放牧子牛の発育に対する子牛専用草地と補助飼料給与の効果を見れば、80頭規模の現地実証では0.75～0.73kgであった。大規模現地実証の場合は、小規模実験の成果よりも集畜誘導率・子牛の発育共に減少が見られたが、労力は看視作業で2～3割、発情牛捕獲・保定作業で7割以上の省力化が出来た。

放牧利用によるシバ型草地の長期安定利用試験や広葉樹林帯の水土保全試験：林地・草地の長期にわたる経年推移を明らかにした。

種山畜産研究室

黒毛和種牛群育種改良推進事業の一環として、本県産黒毛和種種雄牛候補23頭を選定し直接検定を実施、年度

内に15頭終了、残り8頭については検定中で平成11年6月に終了する、全頭終了により検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し間接検定候補牛を選抜する。

また、平成6年度の直接検定により選抜された「和秋福」「第9安春」「恒王4」「正長金」「菊安波」の5頭について間接検定を実施し以下の成績が得られた。

ア．1日当たり増体量(kg)：和秋福(0.98)>第9安春(0.91)>菊安波(0.85)>正長金(0.84)恒王4(0.78)

イ．ロース芯断面積(cm²)：第9安春(50.7)>和秋福(50.4)>菊安波(48.6)>正長金(48.0)>恒王4(44.8)

ウ．脂肪交雑(BMS)：第9安春、和秋福(2.6)>正長金(2.5)>恒王4(2.4)>菊安波(2.2)

エ．肉質等級4以上の割合(%)：和秋福(100)>正長金(88)>恒王4(75)>第9安春(71)>菊安波(63)であった。

種雄牛の凍結精液は、検定済み種雄牛など9頭から22,214本(うち販売本数11,664本)、待機牛25頭から保存用として41,869本、日本短角種間接検定交配用1頭から120本、合計64,203本を生産した。

平成10年度における民間牛馬の寄託放牧頭数は、牛354頭(内子付き71頭)、馬5頭であった。

入牧から8月までの牛の人工授精による受胎率は、87.0%(授精頭数118頭、不明49、受胎頭数60)、放牧期間の子牛のDGは0.65kg、0.70kgであった。

(6) 県北農業研究所

営農技術研究室

土壌管理、機械化、病害虫防除などの営農技術の開発や自然生態系活用型の農業技術の開発を目指し、作物担当研究室と連携した研究を実施している。

水稲関係では、有機物施用が水稲生育や跡地土壌に与える影響の調査や水田蓄積リン酸の有効活用によるリン酸減肥実証研究などを実施した。

畑作関係では、新需要穀類の機械化体系の確立に取り組むとともに、野菜関係では、主に葉菜類を主体に、傾斜地における機械化移植や中間管理(防除、培土等)技術の確立試験や機械収穫の実用化に向けた研究を実施した。なお、こうした中での研究成果として、「野菜栽培管理ビーグルの作業特性」を追捕とした。

一方、病害虫については、地域における発生状況の把握や予察法による効率防除、環境保全型防除技術の確立を目指した研究に取り組み、「県北地域のネギコガを主とする害虫防除法」を本年度の成果として取りまとめるとともに、病害虫研究室との共同で研究を実施し、「粒剤のセルトレイ施用によるキャベツ害虫防除法」を成果とした。

なお、ほうれんそうについては、保鮮流通技術研究室等との共同で研究を実施し、「ほうれんそう内部品質に及ぼす土壌及び栽培要因の影響」を成果とした。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花き及び養蚕の地域適応性技術の確立と実証並びに開発技術の現地移転実証に関する研究を実施している。

野菜の優良品種選定試験は、スイートコーン、レタス、キャベツ、ほうれんそう、だいこんの5品目で実施し、平成10年度はキャベツ、ほうれんそう及びだいこんの各1品種を「推奨品種」として普及に移した。

野菜の現地実証試験として、大野村で「野菜の省力機械化体系を基幹とした大規模畑作技術」の課題の中でキャベツの生育の斉一化及び緑肥を導入した輪作体系の実証を行った。また、九戸村でねぎの長期出荷のための前進作型を検討し、8月出荷作型の技術内容を明らかにした。

花きでは、デルフィニウムの品種選定と摘心処理法、秋出しパンジー安定栽培技術、花壇苗周年生産技術の検討を行ったほか、法面保護及び景観形成のための有望品目を収集し、66品種について栽培特性調査を行った。

花きの現地実証試験として、やませ地帯に適応した花き品目の省力安定生産技術の確立を目指し、久慈市でトルコギキョウの10~11月出し作型、小ぎくのお盆出荷作型、ラークスパーの春出し作型について実証したほか、九戸村でスプレーギクの長期継続出荷作型の実証を行った。

養蚕については、県北地域に適応する桑3品種を植栽し、生育量調査等を行った。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通作物(小麦、大豆等)、雑穀類の栽培法や品種の選定及び葉たばこの省力化に関する研究を実施している。

水稲では、良食味・耐冷性に優れた「かけはし」の腹白粒発生軽減対策を指導事項とした。また、県北地域に最も適する系統として酒造好適米「岩手酒52号」を選定した。

小麦、大豆等の普通畑作物では、県北地域に適応する多収・良食味品種の選抜・育成を目標に、国や北海道農試で育成した系統を導入しての試験を実施するとともに、雑穀類のうち、アマランサスでは、優良品種・系統を選定した。

一方、葉たばこに関連する調査研究では、緊急な課題となっている廃プラ処理について、生分解性マルチ「マタービー」が有効であることを指導事項とした。

3 平成10年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究項目 研究室	農業 構造	農業 農村 整備	基礎 バイ テク	応用 バイ テク	家畜 バイ テク	水田 利用	生産 シス テム	畑地 利用	果樹	野菜	花き	蚕糸 昆虫	生産 環境	畜産 環境	保鮮 流通	乳用 牛	肉用 牛	中小 家畜	草地 飼料	合計
企画経営情報部																				37
農業経営研究室	15	5																		20
マーケティング研究室	15	2																		17
農産部																				148
水田作研究室						33														33
水稻育種研究室						30														30
応用生物工学研究室				13							1									14
生産工学研究室		3				8	7	1		3			1							23
銘柄米開発研究室						48														48
園芸畑作部																				106
果樹研究室									24											24
野菜畑作研究室								18		14										32
花き研究室											23									23
蚕桑技術研究室												12								12
南部園芸研究室											8	7								15
生産環境部																				121
環境保全研究室													24							24
土壌作物栄養研究室													37							37
病虫害研究室													41							41
保鮮流通技術研究室															19					19
畜産研究所																				69
家畜育種研究室																	7	6		13
家畜飼養研究室															9					9
家畜工学研究室					7															7
飼料生産研究室													3						19	22
外山畜産研究室					2												5		6	13
種山畜産研究室					1											4				5
東北農業研究所																				92
営農技術研究室								9					17							26
産地育成研究室										14	14	1								29
やませ利用研究室						12		25												37
合計	30	10		13	10	131	7	53	24	31	46	20	120	3	19	9	16	6	25	573

(2) 試験研究課題一覧

主 要 研 究 課 題	小課題・細目課題	研究期間	研 究 室
〔農業構造1〕 1 技術開発方式の確立 (1) 新技術の導入効果予測 (2) 技術の体系化方策 2 効率的な農業生産方式の確立 (1) 新技術の定着化方策	ア 大区画湛水直播による低コスト水稲技術の開発 (ア) 直播栽培を導入した大規模稲作技術体系の総合実証 a 実証技術の経営評価	6～10	農業経営
	ウ 岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立 (ア) 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 a 輪作作物の高収益条件の解明	9～11	農業経営
	(イ) 機械化輪作体系の実証と評価 a 経営及び地域に対する経済性の評価	9～13	農業経営
	エ 北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 (ア) 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証 a 良質粗飼料生産・調製・供給システムの経営経済評価	10～13	農業経営
	オ 大規模果樹りんご経営における省力、低コスト生産技術 (現地支援研究：果樹園大規模化の方策) (ア) 省力技術の効果予測	7～10	マーケティング
	ア 大区画湛水直播による低コスト水稲技術の開発 (ア) 岩手県における直播導入地域の実態把握と新技術定着方策の確立 a 新技術の定着条件の解明とその方策	6～10	農業経営
	イ 北上山系地域における新規導入作物を組み入れた高品質機械化輪作体系技術の実証 (ア) 高収益作物と小麦・そば・新規導入作物の高品質機械化輪作体系の実証 a 実証技術の経営評価と定着方策	7～11	農業経営
	ウ 岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立 (ア) 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 a 露地野菜の省力機械化技術の適用条件の解明	9～12	農業経営
	ア 大規模果樹りんご経営における省力、低コスト生産技術 (体系化総合試験：大規模りんご園における		

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 効率的生産システムの確立方策	機械化作業体系の現地実証と経営評価)		
	(ア) 実証技術の経営評価	6~10	マーケティング
	イ 北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立		
	(ア) 北上山地における貯蔵粗飼料生産・調製・供給システムの構築		
	a 玉山地域における粗飼料生産・利用の実態調査と今後の展開方向の解明	9~11	農業経営
	ア 北上山地における大規模草地の高度利用による黒毛和種放牧牛の集団繁殖・育成管理技術の確立		
	(体系化総合試験：北上山地における黒毛和種繁殖経営の体系化現地実証)		
	(ア) 黒毛和種放牧牛群の省力管理及び低コスト草地管理技術の現地実証と経営経済的評価	6~10	マーケティング
	(イ) 黒毛和種繁殖牛の放牧を基幹とした複合経営農家の経営経済評価	8~10	マーケティング
	イ 大規模水田地帯における転作営農の確立		
(ア) 集団転作取り組み地区における転作営農システムの実態解明			
a 集団的土地利用方式と転作作物の栽培実態の解明	10~11	農業経営	
(イ) 地域に適合した転換畑の持続的作付け体系の組立実証			
a 有機物投入による転換畑の持続的作付け体系の実証			
(a) 小麦 - そば - 大豆 2年3作体系の実証	10~11	農業経営	
エ 大規模水田営農モデルの策定 (21世紀型農業経営モデル実証試験地)	10~12	農業経営	
〔農業構造2〕 1 農業構造の分析と予測方式の確立 (1) 農業動向の実態解析 (2) 農業動向の予測方式 3 地域農業マネジメント手法の確立 (2) 地域農業計画手法 (3) 地域農業を支援する組織機能の整備手法	ア 地域農業計画診断システムの開発に関する研究	9~11	農業経営
ア 大区画ほ場整備地区における園芸(さといも)・水稻複合型集落営農モデルの実証 (21世紀型農業経営モデル実証試験地：北上市)	10~12	農業経営	
ア 作業外部化等による畜産生産方式の解明 (ア) コントラクター等作業外部化の動向及び特徴の把握	9~11	マーケティング	

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
	(イ) 中山間地域における労働力補完組織の成立条件の解明 (ウ) 労働力補完組織を軸とした地域畜産生産方式の解明 イ 家畜排泄物のリサイクル技術の開発 (ア) 良質堆きゅう肥の流通システムの開発	9～11 9～11 9～11	マーケティング マーケティング マーケティング
〔農業構造3〕 1 経営管理方式の確立 (1) 経営管理手法 (2) 経営管理能力の向上方策 (3) 経営形態別の経営管理方式	ア 企業の経営体の展開条件と支援方策 イ 花き専作経営成立条件と経営管理方式 (ア) 花き専作経営実態の把握 (イ) 露地と施設を組み合わせた花き専作経営の方向 (ウ) 施設化による花き専作経営の方向	9～11 9～11 9～11 9～11	農業経営 マーケティング マーケティング マーケティング
〔農業構造4〕 1 農産物需給の分析と予測方式の確立 (1) 農畜産物市場、流通動向の実態分析 (2) 農畜産物需給の予測手法 2 いわてブランドの確立方策と産地対応方策の解明 (3) 流通チャネルの強化方策 (4) 長期安定生産出荷方策	ア 農畜産物の市場動向分析 (ア) 米 (イ) 野菜 (ウ) 花き (I) 畜産 ア オリジナル水稲品種の銘柄確立に向けた生産販売方策の解明 (ア) 稲作の生産構造の把握と適正な品種配置の手順 (イ) オリジナル水稲品種に係る市場評価調査 イ 広域合併農協の農産物販売方策	9～12 8～10 8～10 10～11	マーケティング マーケティング マーケティング マーケティング
〔農業農村整備2〕 1 農村資源、機能の評価法の確立 (1) 農業・農村の多面的な価値の評価と活用方策	ア ほ場整備地区における多面的効果測定法の開発 (ア) ほ場整備地区における事業発現状況の確認	10～12	農業経営
〔農業農村整備3〕 2 農村活性化方策の確立 (1) 中山間地域の類型化と展開方向の解明	ア 中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 (ア) 地域特性を生かした高付加価値農業の展開条件の解明		

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 地域資源を活用した起業の成立条件の解明	a 新しい需要動向に対応した農業生産の高付加価値化	9~10	農業経営
	b 1.5次産業化による高付加価値生産の成立条件	10~11	農業経営
	d 農業生産の川下進出による高付加価値化の展開条件	9~10	農業経営
	ア 中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 (ア) 地域資源の多面的活用による起業の成立条件の解明	9~10	農業経営
	a 地域資源の利活用による企業化方策の解明		
(4) グリーン・ツーリズムの成立条件の解明	ア 都市との交流による地域活性化方策の解明 (ア) 都市・農村ネットワークの効果と評価	9~12	マーケティング
(5) 農山村の価値に立脚した農村・都市交流の展開条件の解明	(イ) グリーン・ツーリズムの成立条件と推進方策の解明	9~12	マーケティング
〔応用バイオテクノロジー1〕			
1 生工研等で開発された高度・先端的な基礎バイオテクノロジー研究成果の作物育種栽培、微生物利用への応用技術の開発			
(1) 各種抵抗性等優良形質の導入系統の有用性、諸特性の評価	ア 耐病性関連遺伝子導入稲の特性評価 イ 耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価 ウ bar遺伝子導入りんごの薬剤耐性評価 エ ピーマン病原ウィルスの検出・診断技術の利用 オ なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	9~13 9~13 9~13 10~13 10~13	応用生物学 応用生物学 応用生物学 応用生物学 応用生物学
2 生物工学的育種法の効率的な研究技術の確立			
(1) 生物工学的手法による効率的な育種法開発	ア DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立 イ プロトプラスト培養による稲育種技術の開発 ウ 稲の薬培養を利用した育苗技術の効率化	9~13 9~13 9~13	応用生物学 応用生物学 応用生物学
〔応用バイオテクノロジー2〕			
1 生物工学的手法を駆使した遺伝子資源等利用活用技術の確立			
(4) 優良原々種等の効率的な維持、増殖保存技術の開発	ア りんどう採種用親系統の維持・増殖技術の確立 (ア) えぞりんどうの葉片培養による大量増殖法の確立	9~13	応用生物学

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
	(イ) えぞりんどうの茎頂培養による大量増殖法の確立	9～13	応用生物工学
	(ウ) りんどうのウイルスフリー化技術の確立	9～13	応用生物工学
	イ りんごのウイルスフリー樹の作出及び検定法の確立	10～12	応用生物工学
〔家畜バイオテクノロジー1〕			
1 胚移植技術実用化の確立			
(1) 良質胚大量確保技術の開発	ア 大型卵胞除去が過剰排卵処理に与える影響	8～10	家畜工学
	イ 受精卵移植技術実用化確立試験	9～13	家畜工学
(2) 受胎率向上技術の開発	ア 胚移植技術を取り入れた効率的な繁殖経営の実証	9～13	外山畜産
(4) 分割2胚移植による双子生産技術の確立	ア 分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立	9～13	家畜育種
3 クローン牛の生産技術の開発	ア 核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発	10～15	家畜工学
(1) ドナー核及びレシーピエント卵作出技術の確立			
(2) 再構築胚の培養技術の確立			
(3) 再構築胚の凍結保存技術の確立			
(4) クローン性の検証技術の確立			
4 畜産物生産の効率化のための性別別技術の開発			
(2) ウシ胚性別別のためのPCR技術の確立	ア 家畜雌雄生み分け技術利用促進	8～10	家畜工学
〔家畜バイオテクノロジー2〕			
1 DNAマーカー利用による新しい育種手法の開発			
(1) 牛の経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	ア DNAマーカーを指標とした牛の育種手法の開発	7～12	家畜工学
(4) DNAマーカーを指標とした豚の育種手法の検討	ア 家畜のDNAマーカーによる選抜技術の開発	6～10	家畜工学
〔水田利用1〕			
1 環境に負荷の少ない良質・良食味・耐病性・安定生産オリジナル水稲新品種の開発			
(1) 耐冷性、耐病性に優れる良質、極良食味品種の育成・開発	ア 品種特性調査	2～12	銘柄米開発
	イ 交配	2～12	銘柄米開発
(北上川中・下流域に適應する耐病性・耐冷性に優れる極良食味品種の開発)	ウ 初期世代養成	2～12	銘柄米開発
	エ 世代促進	2～12	銘柄米開発
	オ 個体選抜	2～12	銘柄米開発
	カ 系統選抜	2～12	銘柄米開発

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 少照条件下で登熟性に優れる品種・系統の育成・開発	キ 特性検定調査 (ア) いもち病真性抵抗性検定 (イ) 葉いもち圃場抵抗性検定 (ウ) 穂いもち圃場抵抗性検定 (エ) 穂発芽性検定 (オ) 食味官能試験 (カ) 食味成分分析	2～12	銘柄米開発
	ク 生産力検定調査 (ア) 生産力検定予備試験 (イ) 生産力検定本試験(粳・酒) (ウ) 生産力検定本試験(糯)	2～12	銘柄米開発
	ケ 系統適応性検定試験	S39～13	銘柄米開発
	コ 育成地間相互交換系統適応性検定試験	2～12	銘柄米開発
	ア 登熟性に優れる品種・系統の探索	2～12	銘柄米開発
	イ 少照条件下で登熟性に優れる新系統・品種の育成	2～12	銘柄米開発
	ア いもち病抵抗性極強系統の育成	2～12	銘柄米開発
	イ 高度耐病性集積系統の育成	2～12	銘柄米開発
	ア 超多収系統育成組合せ親の特性調査	2～12	銘柄米開発
	イ 中晩成熟期の超多収系統の育成 (ア) 育成系統の施肥反応試験	2～12	銘柄米開発
(5) 奨励品種決定調査(予備、本調査、現地調査)	ア 奨励品種決定予備調査	S29～13	銘柄米開発
	イ 奨励品種決定本調査	S29～13	銘柄米開発
	ウ 奨励品種決定現地調査	S29～13	銘柄米開発
2 気象変動に耐えうる良質・良食味・耐冷性・安定生産オリジナル水稻新品種の開発			
(1) 耐冷性・低温登熟性に優れる良質・良食味早生品種の育成・開発	ア 品種特性調査 (ア) 東北地域の奨励品種比較試験 (イ) 品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成	7～12 S59～12	水稻育種 水稻育種
	イ 交配	S59～12	水稻育種
	ウ 初期世代養成	S59～12	水稻育種
	エ 世代促進	S59～12	水稻育種
	オ 個体選抜	S62～12	水稻育種
	カ 単独系統	S62～12	水稻育種
	キ 特性検定調査 (ア) いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定 (イ) 葉いもち圃場抵抗性検定 (ウ) 穂いもち圃場抵抗性検定 (エ) 障害型耐冷性検定 (オ) 食味官能試験 (カ) 食味成分分析 (キ) 穂発芽性検定 (ク) 玄米の貯蔵条件と品質・食味保持限界	1～12 S48～12 S62～12 S59～12 S60～12 3～12 S62～12 10～12	水稻育種 水稻育種 水稻育種 水稻育種 水稻育種 水稻育種 水稻育種

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 高度耐冷性を有する品種系統の育成・開発 (3) 低温登熟性に優れる品種・系統の育成・開発 (5) 奨励品種決定調査(予備、本調査、現地調査) 3 新栽培技術、新規需要・用途に対応したオリジナル水稲新品種の開発 (1) 新栽培技術(直播、不耕起等)適応品種の育成・開発 (2) 新規需要等対応品種の育成・開発	ク 生産力検定調査	S58～12	水稲育種
	(ア) 生産力検定予備調査	S58～12	水稲育種
	(イ) 生産力検定予備試験系統群	S58～12	水稲育種
	(ウ) 生産力検定本試験	S58～12	水稲育種 やませ利用
	(I) 生産力検定本試験系統群	S58～12	水稲育種
	ケ 水稲系統適応性検定試験	S52～12	水稲育種 やませ利用
	コ 不良環境地帯向け品種の育成	S59～12	水稲育種
	ア 高度耐冷性を有する系統の検索	2～12	水稲育種
	イ 高度耐冷性集積系統の育成	2～12	水稲育種
	ア 低温登熟性に優れる品種系統の探索	2～12	水稲育種
	イ 低温登熟性に優れる品種系統の育成	2～12	水稲育種
	ア 奨励品種決定予備調査	S29～13	水田作
	イ 奨励品種決定本調査	S29～13	水田作 やませ利用
	ウ 奨励品種決定現地調査	S29～13	水田作 やませ利用
	ア 直播適応性品種の育成開発		
(ア) 超低コスト適応品種(直播用)組合せ親の特性調査			
a 反復直播により選抜したイネ直播用品種の特性評価	2～12	水稲育種 銘柄米開発	
(イ) 超低コスト適応品種の育成			
a 直播生産力検定試験	3～12	水稲育種 銘柄米開発	
ア 新規需要対応品種の育成			
(ア) 新規需要対応品種組合せ親の特性調査	2～12	水稲育種 銘柄米開発	
a 外国稲の特性調査			
b 変異源処理による有用変異の探索			
(イ) 新規需要対応品種の育成	2～12	水稲育種 銘柄米開発	
(ウ) 酒造好適米品種開発に係わる加工適性試験	8～12	水稲育種 銘柄米開発	
〔水田利用2〕			
1 大区画圃場における超低コスト・効率生産技術の開発			
(1) 育苗・移植作業の超省力化技術の開発	ア 水稲ロングマット水耕苗の育苗・移植技術の確立	7～13	水田作
(2) 規模拡大に対応した超省力・低コスト栽培技術の開発(直播等)	ア 大区画湛水直播による低コスト稲作技術の確立	6～13	水田作 生産工学

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室	
(4) 大区画圃場における安定生産のための生育診断・制御技術の開発 2 環境に負荷の少ない低コスト・省力生産技術の開発 (1) 環境に負荷の少ない省力・省資材生産技術の開発 (2) 水田雑草の発生生態の解明と効率的防除技術の確立	(1) 寒冷地直播における出芽・苗立ち安定化と栽培技術体系			
	a 出芽・苗立ち安定化要因の解明と対応技術	6～10	水田作	
	c 寒冷地直播栽培における作期策定	6～10	水田作	
	d 大区画直播栽培における栽培管理技術	7～10	水田作	
	(9) 直播栽培を導入した大規模稲作技術体系の総合実証			
	a 大規模稲作技術体系の現地実証	6～10	水田作	
	(I) 農業キーテクノロジー等確立実証	9～11	水田作	
	ア 泥炭層を含む水田における圃場整備後の水稲生育(調査)	10	銘柄米開発	
	ア 新資材の効果の解明	1～13	水田作	
	イ 新肥料の肥効と施肥技術の確立	S59～13	銘柄米開発	
(2) 水田雑草の発生生態の解明と効率的防除技術の確立	ア 新除草剤の効果の解明	S34～13	水田作 銘柄米開発	
	(7) 雑草防除大規模試験		水田作 銘柄米開発	
	(4) 無人ヘリ散布による水田除草剤(NC355顆粒水和剤)の実用性		水田作	
	イ 多年生雑草の生態と防除法	S48～13	銘柄米開発	
	ウ 水田雑草の発生分布および生態調査	S34～13	水田作 銘柄米開発	
	エ 省力的畦畔雑草管理技術の確立	S34～13	水田作	
	3 水稲の生理・生態に即応した耐冷・多収・品質・食味向上安定生産技術の確立 (1) 新品種・系統の良質・良食味安定生産技術の確立	ア 有望品種・系統の栽培特性	S51～13	
		(7) 「岩手酒52号」・「岩南酒13号」・「岩南酒15号」の栽培特性	10～11	水田作
		(4) 「岩南7号」・「岩南酒13号」・「岩南酒15号」の栽培特性	10～11	銘柄米開発
		イ 生育・栄養診断指標の策定	S51～13	
(7) 「ひとめぼれ」の生育・栄養診断指標の策定		10	銘柄米開発	
(2) 産米品質の評価と良質・良食味米生産技術の確立		ア 岩手県産米の品質・食味向上要因の評価技術の開発に関する研究		
		(7) 玄米白度決定要因調査	9～13	水田作 銘柄米開発
		(4) 品質および食味関連成分の地域別・年次別変動要因調査	9～13	水田作 銘柄米開発
		(9) 主要な品質判定機および食味分析機器の特徴調査	9～13	水田作 銘柄米開発

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室	
(3) 気象変動下における安定生産のための水稲生理・生態の解明	ア 水稲低温時における気象生態反応の解明 (ア) 既存の生育・作柄診断モデルの適応性検定	S63～13	水田作 銘柄米開発	
	イ 低温年における障害不稔発生のモデル化 (ア) 危険期判定手法の開発 (イ) 不稔発生のモデル化	1～11 8～11	水田作 水田作	
(4) 気象変動に対応した良質・良食味安定栽培技術の確立	ア やませ利用型稲作、畑作農業技術の確立 (ア) やませ気象条件下における作物の気象反応と安定生育相の解明 a 地域別生産力向上要因の解明 (a) 良質・良食味品種の安定多収現地実証	7～13	やませ利用	
	(イ) 県北型高品質米生産技術の確立 a 「かけはし」の栽培法 (c) 苗質・移植時期と品質 (d) 栽培密度と品質 (e) 追肥時期・量と品質	4～13 10～12 10～12 10～12	やませ利用 やませ利用 やませ利用	
	b 「ユメコガネ」の栽培法 (b) 現地試験	8～13 10～12	やませ利用 やませ利用	
	(ウ) 耐冷性安定栽培法の確立 a 水稲冷害回避技術の実証	9～13	やませ利用	
	イ 良質・良食味米生産技術の実証	S58～13	水田作	
	(1) 気象・土壌と水稲生育の解析	ア 水稲作況調査と水稲作柄成立要因の解析	S34～13	水田作 銘柄米開発 やませ利用
		イ 優良品種の気象反応試験	S34～13	水田作 銘柄米開発 やませ利用
		ウ 土壌・施肥管理と水稲の生育反応 (ア) 要素反応試験 (イ) 土壌リン酸の有効活用	S34～13	水田作 銘柄米開発 やませ利用 銘柄米開発
	(3) 高度診断技術の応用による栽培管理エキスパートシステムの開発	ア 高度な診断技術・栽培管理知識を集約した「担い手の農家技術支援エキスパートシステム」の開発	9～13	水田作
	(4) リモートセンシング等手法を用いた水稲生育の広域診断技術の確立	ア 広域水温のモニタリング	8～11	水田作 銘柄米開発
イ 登熟診断技術の確立		10～13	水田作	
{ 水田利用3 }				
1 大区画ほ場基盤整備技術の確立 (2) 高精度均平化技術の確立	ア 均平化の経年変化測定	8～10	生産工学	

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室	
(3) ほ場条件に対応した水管理システムの確立 2 高生産性水田整備・管理技術の確立 (1) 大規模・大区画ほ場における生産管理のシステム化 3 水田高度利用技術の確立 (2) 大区画圃場整備に対応した低コスト・省力技術体系の確立	ア 地下かんがい、地下排水方式の確立	9～13	生産工学	
	イ 用排水の自動化と水循環方式による水利用方式の確立	9～13	生産工学	
	ウ 暗渠排水の最適被覆材の選定	9～13	生産工学	
	ア 農道ターン方式の確立	9～13	生産工学	
	イ 畦畔被覆資材・方法の確立	9～13	生産工学	
	ア 大区画圃場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立			
	(ア) 大規模圃場における知識集約型機械の利用技術の開発	9～13	水田作	
	(イ) 高度な診断技術・栽培管理知識を集約した「担い手農家技術支援エキスパートシステム」の開発	9～13	生産工学	
	イ 新省力技術 (ア) 新育苗資材の実用化と新機械の利用性能の解明 b 新調節剤、新除草剤の効果の解明	9～13	やませ利用	
	〔水田利用4〕 1 革新技術導入や農地利用集積等多様な担い手の組織化による効率の高い地域営農方式の確立 (1) 栽培管理作業の自動化・高度機械化省力管理技術の確立 (3) 革新的農業技術の組立実証 研究的業務 水稲の優良種子生産技術	ア 灌排水操作自動制御システムの確立 (ア) 大規模稲作経営肥培管理自動制御システムの実用化	7～11	水田作
ア 革新的技術の実証と評価 (ア) 大区画水田における米の低コスト生産技術の実証		10～12	水田作 生産工学	
ア 水稲原々種生産		S29～13	水田作	
イ 水稲原種生産		S29～13	水田作	
〔生産システム1〕 1 大区画ほ場に対応した高性能機械化技術の開発 (1) 大区画水田ほ場に適応した利用技術の開発	ア 大区画ほ場における知識集約型機械の開発と利用技術の開発 (ア) ほ場均平度自動測定システムの開発・改良 (イ) レーザーブル利用高精度・高能率均平技術の開発 (ウ) ラジコンヘリ利用による水稲栽培技術の開発 a 水稲栽培汎用管理技術の確立	9～13 8～12 9～13	生産工学 生産工学 生産工学	

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
<p>2 省力・大規模生産に対応した高性能機械化技術の開発</p> <p>(1) 水田農業の総合的な機械化栽培技術の確立</p> <p>(3) 野菜・花き等機械化技術の開発</p> <p>3 低コスト生産に対応した高度農業機械化技術の開発</p> <p>(4) 作業環境改善及び労働強化低減技術の確立</p>	<p>ア 水稲ロングマット水耕苗の育苗・移植技術の確立</p> <p>ア 未利用資源の活用技術開発</p> <p>(ア) 山村地域活性化のための技術開発</p> <p>a 土地利用型野菜における省力機械化体系の確立(西根町)</p> <p>(a) 野菜移植機に対応した栽培体系と傾斜地適応性確立</p> <p>(b) 野菜収穫機(キャベツ等)の現地適応性確立</p> <p>(c) 連作障害回避のための短期輪作体系</p> <p>(イ) 傾斜地で利用可能な農業機械の開発</p> <p>b 歩行型全自動野菜移植機の傾斜地適応性の確立</p> <p>(ウ) 作業機械、新資材の利用技術の確立</p> <p>ア 労働強度・機械作業安全性の解析と改善技術の確立</p> <p>イ 東北地域における農地周辺の省力的雑草管理と法面保護技術の確立</p>	<p>7~13</p> <p>7~10</p> <p>7~10</p> <p>7~10</p> <p>7~10</p> <p>9~13</p> <p>10~12</p>	<p>生産工学</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p>
<p>〔畑地利用1〕</p> <p>1 高収益作物を組み入れた作目の再編による輪作技術・機械化栽培体系の確立</p> <p>(2) 革新的農業技術・経営実証(大規模営農における作付方式の合理化)</p> <p>(4) 新規導入作物を組み入れた高品質機械化輪作技術の実証</p>	<p>ア 革新的農業技術・経営実証</p> <p>ア 高収益作物・新規導入作物・普通畑作物等による機械化輪作栽培と高品質、安定生産技術</p> <p>(ア) 高品質途大豆を組み入れた作付け体系の安定生産技術</p> <p>a 土壌病害虫の低減効果の評価</p> <p>b 大豆高品質生産及びコスト低減技術</p> <p>ア 地域に対応した作目再編方策の確立</p> <p>(ア) 新規導入作物の定着条件の把握と展開方策</p> <p>a 土地利用の実態と展開方向</p> <p>(イ) 新規導入作物等の作付体系と連作障害の被害軽減実態調査</p> <p>(ウ) 機械化輪作栽培体系と高品質、安定生産技術の確立</p>	<p>7~</p> <p>7~11</p> <p>7~10</p> <p>7~10</p> <p>7~10</p>	<p>やませ利用</p> <p>野菜畑作</p> <p>やませ利用</p> <p>営農技術</p> <p>やませ利用</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(5) 北部沿岸農地開発地域における大規模野菜作経営の実証	a 高品質機械化栽培体系の確立 b アマランサス、そばを組み入れた作付体系の安定生産技術の実証 c 新規導入作物の利活用技術拡大と評価 d 機械化輪作体系の現地実証 ア 農地開発地における持続型高収益野菜モデル経営の実証 (ア) 継続実施可能な有機物施用方法の検索 (イ) 高収益土地利用型野菜等を組み入れた畑輪作体系の確立	10～	やませ利用
〔畑地利用2〕 2 普通作物等の高品質・安定多収生産技術の開発 (2) 露地野菜等の機械化輪作栽培技術の確立 (5) 工芸作物の省力低コスト栽培技術体 4 畑作物（園芸作物及び普通畑作物）の生育情報及び生育環境情報の活用による生育診断・制御技術の開発 (1) 生育環境条件と生育情報の解析 (3) 植物生育調節剤等の実用化	ア 輪作作物の機械化栽培技術の確立 ア たばこ作低コスト超省力機械化体系現地実証 イ 鋤込み可能マルチの葉たばこ栽培への適応性 ア 畑作物の生育相及び気象反応の解明 (ア) 小麦作況調査 (イ) 大豆作況調査 ア 新資材の実用化	9～13 7～ 10～13 S49～13 S29～13	野菜畑作 やませ利用 やませ利用 野菜畑作 やませ利用 野菜畑作 やませ利用
〔畑地利用3〕 1 中山間地域等地域適応性の優れた特産作物の新品種育成と選定 (1) 中山間地域の多様な気象条件の適し安定品目の探索と品種選定 (2) 環境負荷の少ない低投入型農法に適した耐病害虫、耐環境特性の改良 (3) オリジナリティの高い地域特産作物の品質検定と改良・育成	ア 普通作物等の多収良質品種の育成 (ア) 小麦奨励品種決定調査 (イ) 大豆奨励品種決定調査 (ウ) 大豆系統適応性検定試験 (I) 県北部における小麦の春播栽培技術の適応性 ア 麦類の奨励品種決定調査 イ 豆類の奨励品種決定調査 ウ 岩手ブランド新需要穀類の品種育成と評価 ア 地ビール醸造用二条大麦の品種選定 (ア) 地ビール産地に適した優良品種の選定	S56～ S29～ S45～ 10～ S29～13 S29～13 7～12 7～12	やませ利用 やませ利用 やませ利用 やませ利用 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用 野菜畑作

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
<p>(5) 各種作物の検定調査</p> <p>3 輪作・機械化に適した新品種の育成と選定</p> <p>(1) 品種・系統の地域輪作への適応性検定試験</p> <p>(2) 機械化適応性の実証評価</p> <p>(3) 機械化輪作に適した新品種の選定</p> <p>研究的業務</p> <p>一般畑作物の優良種子生産技術</p>	<p>(イ) 地ビール醸造用二条大麦の栽培体系の確立</p> <p>イ やませ利用型稲作、畑作農業技術の確立</p> <p>(ア) やませ気象に適応した畑作物安定品目の検索と作型開発</p> <p>a 大豆無培土試験</p> <p>b 新需要穀類の栽培展示</p> <p>c アマランサス新系統（短稈）の地域適応性と栽培法</p> <p>d あわの栽培法</p> <p>ウ 畑作物の革新的作型の確立</p> <p>(ア) 本県における春まき麦類の適応性</p> <p>ア 麦類耐寒雪性特性検定試験</p> <p>イ 大豆立枯性病害抵抗性特性検定試験</p> <p>ウ ばれいしょウイルス病抵抗性特性検定試験</p> <p>(イ) 新作物の導入と有用野生植物の栽培化技術</p> <p>a 新作物の探索と特殊作物の保存</p> <p>(a) 地域振興作物の特性評価</p> <p>ア ばれいしょ系統適応性検定試験</p> <p>イ 小豆系統適応性検定試験</p> <p>ア 大規模機械化栽培に適した大豆新品種の選定及び栽培実証</p> <p>イ 地域に適合した転換畑の持続的作付け体系の組立実証</p> <p>ア 主産国に負けない高い製パン・製めん特性を持った小麦品種の選定と評価</p> <p>ア 一般畑作物原々種生産</p> <p>イ 一般畑作物原種生産</p>	<p>9～</p> <p>10～12</p> <p>S29～13</p> <p>S62～13</p> <p>S28～13</p> <p>5～</p> <p>S47～13</p> <p>S40～13</p> <p>7～12</p> <p>10～12</p> <p>7～12</p> <p>S29～13</p> <p>S29～13</p>	<p>やませ利用</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>やませ利用</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p> <p>野菜畑作</p>
<p>〔果樹1〕</p> <p>1 革新的技術開発による超省力・多収・高品質果実生産技術の確立</p> <p>(1) りんごの新しい性台木利用によるショートサイクル栽培技術の確立</p>	<p>ア 大規模りんご栽培地帯における省力・低コスト・高品質果実の生産技術〔現地支援研究〕</p> <p>(ア) 果樹園大規模化の方策</p> <p>a 大規模りんご経営の実態と展開方向</p> <p>b 省力技術体系の効果予測〔技術開発試験〕</p> <p>(イ) 栽培技術の革新による超省力、低コスト、高品質生産技術の開発</p>	<p>6～10</p>	<p>果樹</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(3) ぶどう大粒種等の省力・低コスト栽培技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> a 盛岡系わい性台木等の利用による革新的省力栽培技術開発 b 大規模りんご園の新・改植にともなう早期成園化技術の開発 c 誘導ケーブル式無人防除機利用による臨機防除体系及び各種果樹用機械の体系化 d わい性樹園の新・改植にともなう障害回避法の開発 <p>〔体系化総合試験〕</p> <ul style="list-style-type: none"> (ウ) 大規模りんご園における機械化等作業体系の現地実証と経営評価 <ul style="list-style-type: none"> a 低樹高栽培による超省力、低コスト、良品生産体系化現地実証 b 実証技術の定着条件の解明 イ 果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発 (ア) りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発 (イ) りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト、超省力、高品質生産技術の解明 (ウ) 葉とらずりんご等を主体とした省力・低コスト・高品質生産技術の確立 イ 転作田を活用した、ぶどう新品種導入による高品質・安定生産・省力栽培法の確立実証 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ぶどう新品種導入による、高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証 <ul style="list-style-type: none"> a 新品種の栽培実証試験 b 新仕立て法による省力栽培技術の開発と実証展示 c 高品質安定生産実証試験 	<ul style="list-style-type: none"> 9～12 9～13 10～14 10～12 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹 果樹 果樹 果樹
〔果樹2〕 1 岩手オリジナル高品質果樹品種の開発 (1) ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	<ul style="list-style-type: none"> ア ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 国育成系統適応性 (イ) 国内外導入品種の選抜 (ウ) いわて特産中～晩生種の交配育成 イ 先端技術応用による優良品種の開発育成 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 良品質・高生産を目的としたウィルスフリー樹の作出 	<ul style="list-style-type: none"> 1～13 S57～13 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹 果樹

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) キャンベル、紅伊豆等に優る耐寒性中・大粒早熟性ぶどう品種の開発	ア キャンベル、紅伊豆にかわる耐寒性大衆し好品種の育成及び選抜 (ア) 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験(第6～8回ぶどう系統適応性試験) (イ) 国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜) (ウ) 耐寒性中・大粒種ぶどうの交配育成	4～13 1～13 1～13	果樹 果樹 果樹
〔果樹3〕 1 樹体生理に即応した安定生産技術の確立 (2) 高品質、多収のための生育調節技術の開発 (4) 樹体生理と施肥反応の解明	ア りんごの植調剤 (ア) りんごの摘花(果)剤の選抜と実用化 (イ) 除草剤の効果的使用法 (ウ) 摘葉剤の選抜 イ ぶどうその他果樹に対する植調剤 (ア) ぶどうの結実促進 (イ) ぶどう園等除草剤の効果的使用法 ア 新資材、肥料等の実用化試験 (ア) 有機入り肥料の施肥効果	1～13 1～13 S57～	果樹 果樹 果樹
〔野菜1〕 1 省力生産システムの開発 (1) 省力・低コスト大量苗生産システムの確立 (2) 作業技術と栽培法の改善による省力化	ア 園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発 (イ) 新接ぎ木法に対応した養生・順化技術の確立 ア 園芸作物の経営基盤を強固にする省力・低コスト生産技術の開発 (ア) セル成型苗等省力・低コスト生産技術の開発 a ハウスきゅうりの省力・低コスト栽培技術 b 雨よけトマトの省力・低コスト栽培技術 c ハウスピーマンにおける省力・低コスト栽培技術 d いちご苗の小型化に対応した省力育苗・栽培法の確立 (イ) 大規模野菜生産技術の確立 a 夏秋きゅうりの大規模生産技術の確立 b 雨よけトマトの大規模生産技術の確立 c ピーマンの省力型品種の選抜	9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 南部園芸 野菜畑作 南部園芸 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(3) 機械化生産システム確立とそのため の栽培管理の改善 (4) 新資材等活用による低コスト・安 定生産技術の開発 2 大規模野菜生産技術の確立 (3) 大規模野菜生産技術の確立	イ 稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証 (ア) きゅうりの少量土耕栽培技術の開発実証	10～12	野菜畑作
	ウ 沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証 (ア) いちご栽培の省力低コスト栽培の確立 a いちごベンチアップ栽培実証	10～12	南部園芸
	ア 作業機械等に対応した栽培法改善技術の開発 (ア) 定植機、収穫機等に対応したキャベツの栽培法の確立 a 定植苗の斉一化 b 本畑での生育の斉一化	9～13	産地育成
	イ 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 (ア) 機械化輪作体系の成立条件と導入対策 a 路地野菜の省力機械化技術の適用条件の解明 (イ) 省力機械化体系に適した栽培技術の開発 a 定植機、収穫機等に対応したキャベツの栽培法の確立 (ウ) 機械化畑輪作体系の作物生産に対する評価 a 機械化輪作体系の作物生産に対する評価	9～13	産地育成 営農技術 生産工学
	ア 新資材、新肥料、除草剤の実用化 (ア) 新肥料の肥効試験	S59～	野菜畑作 南部園芸 産地育成
〔野菜2〕 1 市場競争力のある特徴的品種・品目の育成 (1) バイテク技術対応によるオリジナル品種の育成	ア 野菜の優良栄養繁殖系品種の育成 イ 市場性の高い岩手銘柄えだまめ品種の育成 ウ えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖 エ ニューなばな「春の輝」の前進作型の開発	1～13 S58～13 8～13 7～13	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 南部園芸

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(3) 主要品目の地域適応性の高い優良品種の選定	ア 地域適応性に優れた品種の選定 (ア) スイートコーン (イ) レタス (ウ) キャベツ (エ) ほうれんそう (オ) だいこん	1～ S63～ S63～ S62～ S62～	産地育成 産地育成 産地育成 産地育成 産地育成
2 長期的な高位安定生産と持続的な産地形成技術の確立			
(2) 持続的産地維持のための好適作付体系の確立	ア 土地利用型作物の高品質安定生産技術の実証 イ 転作田への高収益作物の導入促進のための野菜の栽培実証	10～12 10～12	野菜畑作 野菜畑作
(4) 耕種的方法による長期安定生産技術の確立	ア 大区画圃場整備地区における園芸・水稲複合型集落営農モデルの実証 (ア) 転作田の高度活用によるさといもの安定生産技術	10～12	野菜畑作
〔野菜3〕			
1 周年生産技術の確立			
(1) 新作物型、栽培法確立による出荷期間延長技術	ア 園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の確立 (ア) 低温処理等による付加価値型苗生産技術の開発 a 短日処理によるいちご促成作型の開発 c なばなの春化处理苗の低コスト生産技術の開発 イ キャベツの5～6月穫り作型の確立 ウ 藤崎地区における灌漑による野菜や花きを取り入れたモデル経営の実証 (ア) 短日処理によるいちご秋冬出し作型の実証	9～13 7～ 10～12 10～12	南部園芸 南部園芸 野菜畑作 南部園芸
2 地域環境資源を活用した栽培技術の確立			
(4) 中山間地帯資源活用、新品目の導入、栽培技術の開発	ア 県北中山間地域に置ける園芸品目の省力高品質生産技術の確立(九戸村) (ア) ねぎの省力、高品質生産技術の確立 a セル成型苗の機械移植に対応した栽培法 b 長期出荷のための前進作型の開発 イ 県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立 (ア) 花き栽培施設を利用した山菜促成栽培の実証	7～10 10～14	産地育成 産地育成

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(5) 気象変動に対応した栽培技術、生育予測技術の確立	ア 野菜における生育ステージ別気象要因と生育特性の解明 (ア) だいこん抽苔回避温度調査 (イ) 果菜類の作況調査	9～13 S57～	産地育成 野菜畑作
〔花き1〕 1 花きオリジナル品種の育成 (1) バイテク等先端技術を応用した育種法の開発 (2) 交雑育種法等による新品種育成 2 寒冷地適応新商材の開発と主要切花品の銘柄化技術 (1) 地帯別銘柄花きの定着化 (2) 新規需要鉢物等高需要新商材の開発 (3) 新花き品目の寒冷地適応生産技術の確立 (4) 切花主要品目の寒冷地適応優良品種の選抜 (5) 法面等の省力的管理及び景観形成に適應する品目、品種の選定	ア 園芸作物優良形質遺伝子導入系統の有用性及び特性の評価・調査 (ア) スターチス・シヌアータの優良培養系統の特性検定 ア 重点品目の品種開発 (ア) りんどうの品種育成 (イ) ニュータイプ小ぎくの品種育成 (ウ) ゆりの品種育成 イ りんどう種子生産対策事業 ア やませ地帯に適應した花き品目の省力安定生産技術の開発（久慈市） (ア) トルコギキョウの長期収穫体系の確立 (イ) 需要期に対応した小ぎく栽培技術の開発 (ウ) ちどりそうのセル成型育苗法と作期開発 イ 寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術 (ア) 宿根草等の鉢物化技術の確立 ア 県北中山間地域における園芸品目の省力高品質生産技術の開発（九戸村） (ア) 花きの省力、高品質生産技術と省力的花き品目の開発・実証 a スプレーギクの省力育苗法 b スプレーギクの品種選定と高品質生産技術の開発 c 切枝花木の省力生産技術の開発・実証 ア 新規地域特産作物等の大量増殖、農地における斜面の整備・多目的利用技術の開発 (ア) 有望品目の選定及び優良系統の収集 (イ) 地域特産品目の省力、低コスト、高品質生産技術の確立 (ウ) 景観に配慮した斜面、法面保護技術の確立 ア 寒冷地における法面の省力的管理・景観形成に関する植物種の選定	8～13 S49～13 1～13 5～13 7～10 10～14 7～10 7～11 7～10	花き 南部園芸 花き 花き 花き 花き 産地育成 花き 南部園芸 産地育成 産地育成 産地育成

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
〔花き3〕 1 需要期に供給できる開花調節技術の確立と新作物開発 (1) 生理、生態特性解明による主要切り花品目の開花調節技術の確立 2 周年生産技術の確立 (1) 地帯別気象特性を活用した周年生産技術の開発	ア 生理、生態特性による主要品種、切り花品目の開花調節機能の解明 (ア) りんどうの生育、開花制御要因の解明 (イ) りんどうのセル成型育苗の管理指標策定 (ウ) りんどうの作況調査 (エ) トルコギキョウの生育、開花制御要因の解明 イ 地域資源の高度活用技術の開発 (ア) りんどうの効率的増殖育苗技術の開発 ウ 花き銘柄産地構築のための長期継続出荷技術の開発研究 (ア) りんどうの高品質安定生産技術の開発 a りんどうの株養成期間短縮栽培 b りんどうの栄養系品種の高品質安定生産及び不時出荷の技術の開発 (イ) りんどうの高品質促成栽培技術の確立 (ウ) きく類の長期出荷技術の開発 a 小ぎく、スプレーギクの作期拡大技術の確立 (エ) 地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術 a トルコギキョウの冷涼気象要因と地帯別生育特性の解明及び秋出し高品質生産技術の確立 b スターチスの冷涼気象要因と地帯別生育特性の解明及び秋出し高品質生産技術の確立	 9～13 7～13 S58～13 9～13 9～11 6～13 10～14 9～13 9～13 	 花き 花き 花き 花き 花き 南部園芸 南部園芸 花き
	ア 寒冷地施設利用花き生産のスリーシーズン化に向けた、高品質安定生産技術の確立 (ア) 気象条件を利用した作期拡大技術 a スターチスの秋冬切り栽培法の確立 b トルコギキョウの春切り作型の確立 (イ) 不良環境下における品質向上技術 a 秋冬切りストックの品質向上技術 b プレルーティングによる抑制ゆりの品質向上技術の開発 イ 岩手、沖縄両県の気象特性を生かした小ぎく、りんどうの連携長期出荷技術 (ア) 沖縄育成小ぎく品種の栽培法 (イ) りんどう新需要創出作型開発 (ウ) 花き類の苗交流による新需要創出作型開発	9～11 8～10	花き 南部園芸 花き 花き

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
<p>(2) 新資材等を活用した周年生産技術の開発</p> <p>(4) 露地と施設の組合せによる周年生産技術の確立</p>	<p>ウ 花き銘柄産地構築のための長期継続出荷技術の開発研究</p> <p>(ア) 施設の高度利用技術による花き周年生産化技術</p> <p> a ラークスパー等の越冬、抑制作型における良品生産技術の確立</p> <p> b スターチスの二度切り作型における培養苗利用技術の確立</p> <p> c フリージア球根冷蔵による促成作型の確立</p> <p>(イ) 地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術</p> <p> a トルコギキョウの秋冬出し高品質生産技術の確立</p>	9～13	南部園芸
	<p>エ 地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術</p> <p>(ア) デルフィニウムの品種選定と栽培技術の確立</p> <p> a 品種選定試験</p> <p> b ベラドンナ系の摘心処理法の検討</p>	9～13	産地育成
	<p>ア 新資材、新肥料、除草剤の実用化</p> <p>(ア) 新肥料の肥効試験（トルコギキョウ有機石灰、花き有機肥料）</p>	S59～	産地育成
	<p>ア 21世紀型農業経営モデル実証試験</p> <p>(ア) 県北中山間地域における花き品目（りんどう等）導入による農業経営の確立実証（一戸町小友地区）</p>	9～14	産地育成
<p>〔蚕糸昆虫1〕</p> <p>1 地場産業向け加工用素材生産技術と利用法確立</p> <p>(1) 新用途素材加工利用法開発</p> <p>(3) 新素材繭の効率的生産技術</p> <p>(4) 野蚕の優良系統育成、繭の効率生産技術</p>	<p>ア オリジナル蚕繭の操糸技術</p> <p>イ 座繰り糸・つむぎ糸等の生産・加工技術</p> <p>ア 需要動向を見極めた高く売れる特殊用途繭糸の生産・加工技術開発</p> <p>(ア) 高価格絹糸の需要動向調査、特徴ある蚕品種の収集及び特殊用途繭糸の試作</p> <p>ア 天蚕の優良系統育成</p>	10～12 10～12 9～10 1～	蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術
<p>〔蚕糸昆虫2〕</p> <p>1 食品、バイオマス素材等への利用技術開発</p> <p>(3) 養蚕資源の他用途利用技術開発</p>	<p>ア 養蚕施設・資源を高度に利用した作目導入のための調査研究</p> <p>(ア) 菌床きこ栽培</p>	10～12	蚕桑技術

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
2 昆虫機能活用研究 (3) 蚕を活用した環境評価法	ア 蚕による農薬・生理活性物質のモニタリング手法の開発 (ア) 新薬剤の蚕への残留毒性 イ 捕食性天敵昆虫の大量増殖と利用技術 (ア) 蚕を飼料素材としたテントウムシの人工飼育	S57～13 9～11	蚕桑技術 蚕桑技術
〔蚕系昆虫3〕 1 多回育蚕技術の開発 (1) 1～4齢人工飼料簡易飼育技術の開発と総合組立実証 (2) 無菌人工飼料育技術 2 桑の省力安定生産技術確立 (3) 地域適応性品種選定と用途別桑の栽培法確立	エ 人工飼料育を導入した多回育による高品質安定化 (ア) 5A格の繭安定生産技術の実証 ウ 稚蚕期の無菌人工飼料育実証 ア 系統適応性検定試験 イ 地域適応性品種選抜と栽培法確立 ウ 地域適応性桑品種の育成と短期選抜 エ 桑の生育診断	10～12 10～13 S44～13 6～11 9～13 S55～	蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術 産地育成 蚕桑技術
〔生産環境1〕 1 生産環境の保全、安全管理技術の開発 (1) 肥料の動態の把握と環境負荷を低減する施肥技術の開発 (2) 農薬の環境動態の把握と環境汚染防止対策技術の開発 (3) 健全食品生産技術の開発（農薬残留対策） (4) 生物環境保全技術の開発 (5) 環境保全型農業の総合組立	ア 施肥窒素溶脱抑制技術の確立 (ア) ライシメータ試験 (イ) 場内ほ場試験 イ 農業環境収支適正化確立事業 ウ 肥効調節型肥料の導入技術の確立 (イ) 野菜類の全量育苗箱施肥技術の確立 イ 農薬水質影響調査 (イ) 水質影響低減技術の開発 ア 農薬残留対策調査（作物残留） イ 農薬残留安全追跡調査 エ 農薬安全使用等啓発事業 (ア) 防除農薬散布暦の安全性確認調査 オ 土壌汚染防止対策技術の確立 ア 水質汚染防止対策技術の確立 ア 水稲における環境保全型農業の総合組立 (ウ) 水稲有機栽培等の地域別可能性と収量水準の策定 イ 野菜における環境保全型農業の総合組立 (イ) ほうれんそうにおける有機栽培技術 ウ 作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	3～11 9～13 10～12 10～14 S46～ 10～ 6～11 S62～ 1～ 10～12 10～11 9～	環境保全 営農技術 土壌作物栄養 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 営農技術

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
<p>2 農業のもつ多面的機能の維持・向上技術の開発</p> <p>(1) 土壌環境評価利用技術の開発(土壌環境基礎調査)</p> <p>(2) 生産環境情報システムの開発と実用化</p> <p>3 気象資源の評価・利用技術および気象災害回避技術の開発</p> <p>(3) 農業気象情報の管理と活用技術の開発</p>	<p>ア 土壌環境・地力変化基礎調査</p> <p>(ア) 定点土壌実態調査</p> <p>(イ) 定点土壌管理実態調査</p> <p>(ウ) 定ほ場調査</p> <p>(I) 精密ほ場調査</p> <p>イ 環境保全型有機質資源施肥基準設定調査</p> <p>(ア) 土壌モニタリング調査</p> <p>(イ) 有機物連用試験</p> <p>a 水稻の有機物施用基準設定調査</p> <p>b 畑地の有機物施用基準設定調査</p> <p>c 有機物施用に伴う養分収支調査</p> <p>ア メッシュ土壌情報の高度化と稲作環境評価技術の開発</p> <p>(ア) リモセン技術等によるメッシュ生産環境情報の高度化</p> <p>ア 農業気象観測とメッシュ気象図の活用方策の確立</p> <p>(ア) 農業気象観測</p> <p>(イ) アメダスによる評価</p> <p>イ 気象情報データベースの作成・管理</p> <p>ウ メッシュ気象情報を活用した作物栽培管理技術</p> <p>エ 農産物の栄養成分に寄与する栽培条件の解明</p>	<p>S54～</p> <p>S54～</p> <p>S51～</p> <p>S59～</p> <p>10～14</p> <p>10～14</p> <p>8～11</p> <p>9～</p> <p>9～</p> <p>9～</p> <p>7～13</p>	<p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>環境保全</p> <p>環境保全</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p>
<p>〔生産環境2〕</p> <p>1 土壌生態系を活用した土壌管理技術の開発</p> <p>(2) 土壌生態を指標とする土壌診断技術の確立</p> <p>(3) 連作障害を回避する新栽培技術の開発</p>	<p>ア 土壌生態系を指標とする土壌診断技術の確立</p> <p>(ア) グルコース吸収速度を中心とした土壌診断技術の確立</p> <p>イ 微生物生態改善技術の確立</p> <p>(ア) メチオニンによる微生物相の改善と土壌病害の抑制</p> <p>ア 連作障害発生要因の解明</p> <p>(ア) 作付け体系及び土壌管理と土壌生態系の関係の解明</p> <p>(ウ) りんごの改植障害回避法の確立</p> <p>イ 東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の開発</p>	<p>8～11</p> <p>8～11</p> <p>8～11</p> <p>6～10</p> <p>10～14</p>	<p>環境保全</p> <p>環境保全</p> <p>環境保全</p> <p>環境保全</p> <p>営農技術</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
<p>2 生物間相互作用を利用した生物防除技術の開発</p> <p>(1) 天敵昆虫を利用した害虫の生物防除法の開発</p> <p>(2) 微生物を利用した害虫の防除技術の開発</p> <p>(3) 拮抗微生物等を利用した病害防除技術の開発</p> <p>(4) 作物生育促進性根圏微生物を利用した土壌病害虫の制御技術の開発</p> <p>3 作物の防御機能を利用した病害虫の制御技術の開発</p> <p>(1) 交差抵抗性誘導菌による主要病害防除技術の開発</p> <p>(2) フェロモン等生理活性物質を利用した害虫防除技術の開発</p>	<p>ウ 各種資材の評価と土壌病害の被害低減効果の検討</p> <p>(ア) 微生物資材等の効果の検討</p>	5~	環境保全
	<p>エ フザリウム病の発生実態の解明</p>	8~11	病害虫
	<p>オ 土地利用型輪作体系における生産性向上制限要因の解明</p>	9~13	病害虫
	<p>ア 寄生蜂による園芸作物の鱗翅目害虫の防除技術の確立</p> <p>(ア) 寄生蜂によるコナガ防除技術の確立</p>	8~12	病害虫
	<p>イ 天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立</p> <p>(ア) 寄生性天敵オンシツツヤコバチによるコナジラミ類の防除法(トマト)</p>	9~12	環境保全
	<p>ア 昆虫寄生糸状菌を利用した害虫防除技術の確立</p> <p>(ア) 斑点米カメムシに対する有効糸状菌の探索と効率的施用技術の開発</p>	8~12	病害虫
	<p>(イ) ピーマンのアブラムシ類に対する有効糸状菌の探索と施用技術の開発</p>	5~12	病害虫
	<p>ア 有用拮抗微生物の探索と評価</p> <p>(イ) 生物的防除資材の利用法の確立</p>	5~13	病害虫
	<p>ア 作物生育促進性根圏微生物の利用技術の開発</p> <p>(ア) 非病原性フザリウム等の利用による生育促進効果の検討</p>	8~11	環境保全
	<p>ア 交差抵抗性誘導菌の利用技術</p> <p>(ア) 非病原性フザリウムを利用したハウレンソウ萎ちょう病の制御技術組み立てと現地実証</p>	8~12	環境保全
	<p>イ 多系品種利用による病害防除技術の開発</p> <p>(ア) レース分布及び病害抵抗性を利用した低投入型もち防除技術の確立(ササニシキBL)</p>	8~11	病害虫
	<p>ア フェロモンを利用した害虫防除技術の確立</p> <p>(ア) 性フェロモンおよび天敵利用を基軸としたりんごとももの減農薬防除の確立</p>	8~12	病害虫
	<p>(イ) 性フェロモンを利用したアブラナ科野菜のコナガの総合防除技術の確立</p> <p>(ウ) 性フェロモンを利用したストックの害虫防除技術の確立</p>	8~12	環境保全
	<p>(ウ) 性フェロモンを利用したストックの害虫防除技術の確立</p>	9~13	病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(3) 植物が生成する生理活性物質等を利用した作物抵抗力向上技術の開発	ア 対抗植物及び作物固有の線虫増殖特性を利用したネグサレセンチュウの制御技術 (ア) 密度低下に有効な輪作作物の探索と有用性の評価	4～11	環境保全
〔生産環境3〕 1 未利用資源等を活用した低コスト土壌基盤改善技術の開発 (1) 土壌蓄積養分有効利用技術の開発	ア 水田土壌における蓄積養分効率的利用法 (ア) 水田土壌における土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立 (イ) 水田土壌における土壌中可給態窒素・交換性カリ含量と作物生育との関係解明 (ウ) 土壌蓄積リン酸利用による施肥リン酸減肥技術 イ 畑土壌における蓄積養分有効利用法 (ア) 畑土壌における土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立 (イ) 畑土壌における土壌中可給態窒素含量と作物生育との関係解明	9～13 9～13 8～11 9～13 9～13	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養
(2) 畜産由来資源の有効活用技術の開発	ア 良質堆厩肥の有効利用技術の確立 (ア) 畜産由来資源の特性解明と有効活用技術の確立 (イ) 家畜糞尿施用による地下水汚染防止技術の確立 イ 有機質資材等の施用管理技術の確立 (ア) 有機質資材の水田での窒素発現特性 (イ) 有機質資材中窒素の水稲利用把握 (ウ) 有機質資材施用による水質への影響 (エ) 有機質資材の環境保全型施用技術総合実証	9～13 10～14 9～13	土壌作物栄養 土壌作物栄養 営農技術
(3) 土壌基盤改善技術の開発	ア 不良土壌基盤の簡易改良技術の開発 (ア) 大区画ほ場整備にともなう地力むらの実態と施肥管理技術 (イ) 下層土改良による畑土壌の生産力の向上 (ウ) 開発農地の土壌管理技術の確立 a 新規造成畑の早期熟畑化実証(場内) b 北部沿岸開発農地における土壌熟化を主体とした畑輪作体系の実証	9～ 9～ 9～ 9～ 10～	土壌作物栄養 土壌作物栄養 営農技術 営農技術
2 高位安定生産土壌の維持管理システムの開発 (1) 簡易土壌診断・栄養診断法の開発と要素欠乏・過剰対策の確立	ア リモートセンシング技術等による生育栄養診断技術の開発	8～12	土壌作物栄養

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 水田土壌の生産力維持管理技術の確立	イ 農作物の要素欠乏及び過剰対策の確立 (ア) 要素反応と施肥改善(施肥反応と気象)	S38 ~ 9 ~	土壌作物栄養 営農技術
	(イ) 微量要素欠乏対策 ア 水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	S54 ~ 7 ~ 14	土壌作物栄養 環境保全
(3) 畑土壌、樹園地、桑園の生産力維持管理技術の確立	ア 露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立 (ア) レタス高生産性土壌管理実証 (ウ) りんどうの土壌管理指針作成 a りんどう生産環境実態調査 b りんどう土壌管理指針作成	6 ~ 10 ~ 14	土壌作物栄養 土壌作物栄養
	イ 果樹・桑等の永年作物の土壌管理技術の確立 (イ) りんご園の土壌管理・有機物施用指針策定	10 ~ 14	土壌作物栄養
(4) 施設園芸における土壌管理技術の確立	ア 施設野菜栽培土壌の塩類集積予防対策と土壌管理技術の確立 (ア) 施設栽培における有機物施用基準の策定	5 ~ 14	土壌作物栄養
3 高品質安定生産のための生産環境管理技術の開発			
(1) 作物栄養の気象・土壌反応の解明	ア 水稻の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 (ア) 水稻栄養の気象・土壌反応(作況) (イ) 水稻作物栄養モデルの作成 a 中性品種 b 晩生品種	S47 ~ 8 ~ 12	土壌作物栄養 土壌作物栄養
	イ 野菜、花きの生育予測、栄養診断技術の確立 (ア) 主要野菜作物の作況調査 (イ) 主要畑作物栄養の気象・土壌反応	S57 ~ 1 ~	土壌作物栄養 土壌作物栄養
(3) 環境制御による好適栽培技術の確立	ウ りんご、桑等永年作物の生育予測、栄養診断技術の確立 (ア) りんごわい性樹の栄養診断法	9 ~ 14	土壌作物栄養
	エ 作物栄養生育予測技術の開発と対応技術 (ア) 生育診断予測と対応技術 a 生育栄養診断指標の作成	S51 ~	営農技術
	イ 規模拡大に対応した超省力栽培技術の開発(直播等) (ア) 寒冷地直播における出芽・苗立ちの安定化要因の解明と対応技術 (イ) 大区画直播栽培における施肥管理技術 (ウ) 直播栽培を導入した大規模稲作技術体系の総合実証	6 ~ 10 7 ~ 10 6 ~ 10	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養

主 要 研 究 課 題	小課題・細目課題	研究期間	研 究 室
(4) 合理的施肥のための新肥料の開発	ウ 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 (ア) 省力機械化に対応した施肥技術の改良 (イ) 機械化畑輪作導入技術の環境的評価 ア 合理的施肥のための新肥料の開発 (ア) 新肥料の実用化	10～12 9～13 S59～	営農技術 土壌作物栄養 土壌作物栄養
〔生産環境4〕 1 農作物の品質低下や生産阻害要因となる各種病害虫の防除法の確立 (1) 重要病害虫の発生生態と防除技術の確立	ア 病害虫発生予察 (ア) 普通作物病害虫発生予察 (イ) 園芸作物病害虫発生予察 イ 水稻の重要病害虫の発生生態と防除技術 (ア) 育苗期に発生する種子伝染性イネ細菌病制御技術の開発 (イ) 寒冷地における苗立阻害関与菌の解明 エ 果樹類の重要病害虫の発生生態と防除技術確立 (ウ) りんごのハダニ類の発生生態と防除法 (エ) りんごのカメムシ類の発生生態と防除法	S16～ S35～ 7～10 6～10 9～13 9～13	病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫
(2) 難防除病害虫の発生生態と防除技術の確立	ア 土壌病害、線虫防除技術の確立 (イ) ピーマン青枯病の防除法 ウ トマト黄化えそ病防除技術の開発	7～ 10～12	病害虫 病害虫
(3) 新奇病害虫の防除対策確立	ア 中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発 (イ) リンドウこぶ症の原因究明 (ウ) リンドウチビクロバネキノコバエの防除技術 (エ) ネギ小菌核病の発生実態 (オ) ホウレンソウべと病のレース検定 (カ) トマト根腐萎ちょう病の診断と防除 (キ) サトイモ根腐病の防除技術 (ク) ダイコン白斑病の防除技術 (ケ) 水稻着色米関与菌の解明と防除対策	9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13 9～13	病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫
2 主要病害虫の発生予察法の確立と病害虫防除管理システムの開発 (1) 主要病害虫の発生予察法の開発	ア 水稻病害虫発生予察支援システムの確立 (イ) 高度情報処理によるイネいもち病の発生予察法の改善 (ウ) 画像処理手法による病害虫の広域的診断評価技術の開発	8～11 9～11	病害虫 病害虫
イ 新奇侵入病害虫の診断法と発生生態解明		9～	病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
(2) 診断および密度推定に基づく病害虫管理手法の開発	イ 野菜花卉病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 (カ) りんどう病害虫総合防除体系の確立と実証	10~14	病害虫
	ウ りんご病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 (ア) 斑点落葉病発生予察システムの開発	3~12	病害虫
(3) 高品質安定生産に向けた省力防除技術の開発	ア 水稲病害虫の防除要否判定技術の確立 (ア) いもち病の追加防除要否判定技術	8~11	病害虫
	イ 生物工学的病害診断手法の発生動態解明への応用性の評価 (ア) 種子伝染性細菌病の種子汚染程度把握手法	9~13	病害虫
(4) 農薬抵抗性発現病害虫の実態と対策の確立	ア 水稲主要病害虫の省力防除技術の確立 (ア) 残効性の長い育苗箱施用剤によるいもち病防除技術	6~11	病害虫
	イ りんご病害虫の省農薬防除体系の確立 (ア) 生育期前半の体系化防除 (ウ) 主要病害の防除回数削減実証	3~ 10~12	病害虫 病害虫
(5) 農薬の作用性・機能の解明と実用化	ウ 野菜病害虫の体系防除技術の確立と実証 (イ) 野菜病害防除体系の改善	5~13	病害虫
	エ 無人防除機等の新技術開発と実用化 (イ) RCヘリを利用した野菜病害虫防除技術	8~	病害虫
3 効率的な低投入型主要病害虫総合防除技術の開発	ア 薬剤耐性菌検定 (ア) イネばか苗病菌 (イ) リンゴ斑点落葉病菌	S53~ 5~	病害虫 病害虫
	イ 薬剤抵抗性発現害虫の実態と対策 (ア) りんごのハダニ類	9~13	病害虫
(1) 病原菌のレース変動実態と予測技術の開発	ア 新農薬の効果検定と防除基準作成	S49~ 9~13	病害虫 営農技術
(2) 主要作物品種の病害虫抵抗性評価と利用技術の開発	ア レース分布及び病害抵抗性を利用した低投入型いもち病防除技術の確立(レ-ス検定)	8~11	病害虫
(3) 環境管理による施設野菜等の病害虫防除技術の確立	ア あずきウィルス病抵抗性検定試験	S53~	病害虫
	イ とうもろこし煤紋病抵抗性検定試験 ウ ソルガム煤紋病抵抗性検定試験	S33~ S37~	病害虫 病害虫
	エ イネいもち病圃場抵抗性変動要因の解明 ア 灰色かび病、葉かび病等の温湿度コントロールによる制御技術 (ア) 果菜類(トマト)	8~11 9~11	病害虫 病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
指導事業 1 革新的農業技術・経営実証モデル事業 2 肥料費低減対策推進事業			
〔畜産環境1〕 1 寒冷地に対応した低コスト糞尿処理技術の確立 (1) 低コストな良質堆肥生産技術の確立 (2) 低コストな汚水処理技術の確立 2 畜舎施設の衛生環境改善技術の確立 (1) 畜舎及び糞尿処理施設の臭気低減技術の確立	ア 副資材を活用した良質堆肥生産技術の確立 ア 酪農汚水簡易処理施設の開発 ア 家畜排泄物脱臭装置による臭気低減技術の確立	9~11 9~11 8~11	飼料生産 家畜飼養 飼料生産
〔保鮮流通1〕 1 農畜産物の品質評価技術および高品質農畜産物生産技術の確立 (1) 農産物の品質評価指標の解明と評価法の確立 (2) 農産物の非破壊品質評価法の確立 (3) 栽培条件と収穫後品質変化との関係の解明 (4) 農産物の栄養成分向上に寄与する栽培条件の解明 2 農産物の流通技術の確立 (2) 農産物の鮮度保持技術の開発 (3) 農産物の低コスト貯蔵技術の開発	イ 農産物品質評価手法の開発 (ア) 葉とらずりんごの品質評価手法の開発 ア 近赤外等利用による品質評価法の開発 ア 栽培条件が収穫後農産物の品質保持性に及ぼす影響の解明 (ア) 有機肥料施用が雨よけトマトの栄養成分含量と日持ち性に及ぼす影響の解明 ア 農産物の各種栄養成分含量と土壤環境条件との関係の解明 (イ) 雨よけトマトの各種栄養成分含量と土壤環境条件との関係の解明 (ウ) ほうれんそうの内部品質向上のための有機物施用等土壤管理技術の確立 エ 岩手特産物の作型・栽培環境の違いによる栄養成分含量の変動 ア MA包装資材等の利用による農産物の低コスト貯蔵・流通技術の開発 (ア) りんご早生品種の保鮮技術の開発 (ウ) 前処理剤利用によるゆり切り花の短期氷蔵技術の開発 (エ) りんどうの需要期対応のための短期貯蔵技術の開発 ア 農産物の低温代謝生理の把握と好適予冷貯蔵条件の解明 (ア) 氷温貯蔵による西洋なし「ラ・フランス」の長期貯蔵法の開発 (イ) ぶどう大粒種の高品質貯蔵技術の開発	10~14 9~12 9~12 10~13 9~12 6~10 7~10 9~12 7~10 9~11	保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
	(ウ) 砕氷封入によるブロッコリー栄養成分保持技術の確立 イ 低コスト環境制御装置による農産物の高鮮度貯蔵技術の開発	9~10 10	保鮮流通技術 保鮮流通技術
〔保鮮流通2〕 1 農産物高度利用のための加工技術の確立 (1) 農産物加工適性の評価技術の確立 (3) 地場農産物の特性を高度に利用した加工食品の開発 指導事業 地域特産物発掘導入事業	ア 栽培条件と農産物加工適性との関係の解明 イ 農産物加工品の品質評価法の確立 (ア) 既存特別表示食品の成分等実態分析 (イ) 地域推奨品認証対象品の成分等分析 ア 地域特産物を利用した加工食品の開発 イ 浅漬等農産物加工品の低コスト・高品質貯蔵技術の開発 (イ) 芭蕉菜浅漬の高品質氷温貯蔵法の開発 (ウ) 伝統そばの高品質製造技術の開発 ウ 加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証(21世紀農業経営モデル実証試験地)	9~12 7~12 7~12 9~12 9~12 10 10~12 6~12	保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術
〔乳用牛1〕 1 胚移植及び情報解析技術を活用した高能力牛の生産技術の確立 (1) 胚移植技術を応用した高能力牛の造成 (3) 高能力牛の混合飼料給与、放牧飼養に対する特性解明 (4) 牛群検定等情報の解析 2 高能力牛群管理技術の確立 (1) 牛群構成に適応した群分け技術の確立 (2) 放牧飼養を組み合わせた群管理技術の確立	ア 胚移植技術を応用した高能力牛の造成 (ア) 胚移植技術を活用した乳成分改良牛群の調査 (イ) 高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立 ア 高能力牛のTMR給与体系における食品製造粕の有効活用 ア 乳用牛群検定情報利用技術 ア 高能力牛群管理システムの確立 (ア) 高能力牛群に適応した飼養管理技術の確立 ア 制限放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	8~12 10~16 10~12 5~ 4~12 10~16	家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
〔乳用牛2〕 1 簡易・低コスト・省力管理施設の開発 (2) 簡易乾乳・分娩施設の開発 2 省力群管理施設の利用技術の確立 (2) 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の開発	ア 高能力牛群管理システムの確立 (ア) 低コスト施設における牛群省力管理技術の確立 イ 酪農污水簡易処理施設の開発 ア 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立	4~12 9~11 9~13	家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養
〔肉用牛1〕 1 産肉能力検定方法の確立による優良種雄牛の作出とその効率利用技術の確立 (1) 黒毛和種産肉能力検定 (3) 日本短角種産肉能力検定 (5) 効率的な精液生産技術の開発	ア 黒毛和種産肉能力検定(直接法) イ 黒毛和種産肉能力検定(間接法) ウ 県有種雄牛の能力調査 ア 日本短角種産肉能力検定(直接法) イ 日本短角種産肉能力検定(間接法) ア 精液の希釈方法を中心とした高位凍結処理技術の確立	S62~ S62~ 9~13 S45~ S48~ 9~11	種山畜産 種山畜産 種山畜産 家畜育種 家畜育種 種山畜産
〔肉用牛2〕 1 育種価推定システムの確立と分割胚移植技術の活用による優良種畜の大量確保技術の開発 (2) 超音波肉質測定装置を活用した種畜評価技術の確立の開発 (3) 分割胚移植双子による優良種雄牛作出技術の確立	ア 血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立 ア 分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立	9~13 9~13	家畜育種 家畜育種
〔肉用牛3〕 3 肥育素牛の能力に合致した肥育技術の開発 (1) 肥育素牛の早期能力判定技術の開発	ア 黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の開発	8~13	家畜育種
〔肉用牛4〕 1 夏山冬里飼養方式の確立や子牛の生産性向上等による優良子牛の低コスト生産技術の開発 (1) 放牧を組み入れた低コスト黒毛和種生技術の確立 (5) 山間高冷地における省力的衛生管理法の開発	(北上山地における大規模草地の高度利用による放牧牛の集団繁殖・育成管理技術の確立) ウ 川井村青松牧野における褐毛和種親子放牧の放牧子牛育成技術の開発 ア 放牧牛の位置センシング等による省力安全放牧システムの開発	10~12 7~11	外山畜産 外山畜産

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
〔養豚１〕 1 新たな選抜形質・選抜手法確立による寒冷地向き優良交雑豚生産のための純粋種豚の系統造成 (2) 繁殖性に及ぼす遺伝・飼養環境要因の解明と評価法の確立 (3) 豚の産肉性および肉質特性評価法の確立	ア 高能力、高品質、斉一性の高いランドレース種の系統造成 ア 家畜のDNAマーカーによる選抜技術の開発	5～12 6～10	家畜育種 家畜育種
〔養鶏１〕 1 先端技術の活用による寒冷地向き高品質肉用鶏の開発と飼養技術の確立 (2) 在来の日本鶏を活用した高品質肉用鶏の作出	ア 岩手地鶏、軍鶏の効率的利用による高品質鶏の作出 イ 高能力・高品質ロード種の維持 ウ 優良鶏性能調査 エ 岩手地鶏保存事業	8～12 7～ 2～ S62～	家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種
〔草地飼料１〕 1 地域適応性に優れた粗飼料の草種・品種の選定 (1) とうもろこし系統適応性検定試験 (2) とうもろこし奨励品種決定基本調査 (3) とうもろこし市販品種特性比較試験 (4) 採草用適草種・品種の選定試験 2 地域適応性に優れた草種・品種の安定生産技術の確立 (1) 利用目的に適合した草種・品種の組合せ技術の確立	ア とうもろこし系統適応性検定試験 ア とうもろこし奨励品種決定基本調査 ア とうもろこし市販品種特性比較試験 ア 採草用牧草の品種選定試験 (ア) オーチャードグラス (イ) アルファルファ (エ) チモシー (新品種導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術) ア 採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 (ア) 新品種導入による標高別採草地の草種・品種の新組み合わせ選定 (イ) 簡易牧草種子追播機による草生改良技術 イ 良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証 ウ 黒毛和種放牧牛の省力的牛群・繁殖管理及び草地管理技術の開発 (イ) 子牛専用草地の草種選定 エ 採草地の不耕起草生変換技術の確立	S55～13 S54～13 S54～13 8～10 8～10 8～10 9～13 10～13 10～13 6～10 10～14	飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	研究室
〔草地飼料2〕 1 牧草・飼料作物の低コスト生産・調製技術の確立 (1) 草地・飼料畑における強害雑草防除技術の確立 (2) 牧草・飼料作物の低コスト肥培管理技術の確立 (4) 高品質粗飼料の調製技術の確立 (5) 粗飼料の簡易品質評価法の確率 2 飼料作物の生育及び生産環境情報の活用による生育診断・制御技術の開発 (1) 牧草・飼料作物の気象感応試験 3 低・未利用資源の高度利用技術の開発 (3) 粗飼料資源である野草の有効利用技術の開発	ア 牧草・飼料作物の耕種的方法による雑草防除技術 イ 草地におけるムギダニ防除法の確立 ア 糞尿施用とうもろこし畑の簡易診断基準の確立 イ 飼料作物簡易播種技術の確立 ア 草種の組み合わせによる適期収穫調製体系の確立 ア 黒毛和種放牧牛の省力的牛群・繁殖管理及び草地管理技術の開発 (ア) ロールベールラップサイレージの簡易品質評価法の確立 ア 牧草の気象感応試験 ア シバムギの生態特性の解明	8～10 10～11 10～14 10～12 8～10 6～10 S41～13 8～12	飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産
〔草地飼料3〕 1 高標高、傾斜地に適した粗飼料の草種・品種の選定 (3) 放牧子牛専用適草種の選定 2 粗飼料生産基盤強化技術の確立 (2) マクロシードペレット利用による簡易牧草導入技術の確立 3 粗飼料安定生産技術の確定 (2) シバ型草地の長期安定利用技術の確立 (3) 急傾斜地草地の維持管理技術の確立 (4) 日本短角種の放牧条件による山林原野の有効活用と水土保全技術の確立	ア 放牧子牛専用適草種の選定 ア 野草地へのマクロシードペレット利用による簡易草地改良 ア 半自然草地の遷移機構 (ア) 北上山地しば草地の長期安定利用技術の確立 イ 黒毛和種放牧牛の省力的牛群・繁殖管理及び草地管理技術の開発 (ア) ラジコントラクターを利用した放牧地の生産性向上技術の開発 (イ) 鶏糞の有効利用技術の確立 ア 中山間広葉樹林帯における肉用牛の水土保全型放牧技術の確立	6～10 6～10 1～10 6～10 9～11 6～10	外山畜産 外山畜産 外山畜産 外山畜産 外山畜産 外山畜産

(3) 要望課題の実施

凡例 平成9年度： A1 = 平成10年度実施予定、A2 = 平成11年度以降実施予定

B1 = 現在実施中、B2 = 県以外の研究機関

C = 既知見あり、D = 実施できない

平成10年度： A1 = 平成11年度実施予定、A2 = 平成12年度以降実施予定

B1 = 現在実施中、B2 = 県以外の研究機関 (a = 年度内とりまとめ、b = 1 ~ 2年後とりまとめ、c = しばらくかかる) (B1-a、B2-c等と表記する)

C = 既知見あり、D = 実施できない

区分	部会名	No	整理	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
							H 9	H 10	
総合(経営)		1	20	中山間地域における集落の盛衰類型化及びデータベース化	地域農政推進室	農業経営	B1	B1-a	
総合(経営)		2	80	飼料生産請負組織(コントラクター)の成立条件	大船渡地域農業改良普及センター	農業経営 飼料生産	B1 C	B1-b	
総合(経営)		3	97	普通畑作物を基幹とした受託農家・組織の育成方策の確立	畑作振興課	農業経営 野菜畑作	A1 B1	B1-a B1-a	
総合(経営)		4	17	県産米の主要消費地における評価値の算出とその向上対策の検討	農蚕課	マーケティング	A1	B1-b	
総合(経営)		5	26	広域合併農協の農畜産物販売戦略	水沢地方振興局 農林部	マーケティング	A1	B1-b	
総合(経営)		6	28	低コスト堆肥利用システムの明確化	水沢地方振興局 農林部	マーケティング	A1	B1-b	
総合(経営)		7	95	グリーン・ツーリズム実施の効果に関する事例分析	久慈地域農業改良普及センター	マーケティング	A1	B1-a	
総合(経営)		8	123	果実の市場動向分析	江刺地域農業改良普及センター	マーケティング	A1	B1-a	
総合(経営)		9	103	高度な農地集積推進方策の解析	花巻地域農業改良普及センター	農業経営	C		
農産		1	16	流通面において優れた特性をもつ新しい水稲品種の育成開発	農蚕課	水稲育種	A2	A2	
農産		2	65	直播きに適応した品種の開発	水沢地域農業改良普及センター	水稲育種 銘柄米開発	B1 B2	B1-b B2	

区分		整理 No	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名						H 9	H 10	
農産	3	89	ブレンド特性に優れた県北に適する水稲品種の育成	久慈地域農業改良普及センター	水稲育種	B1	B1-b	
農産	4	132	酒造好適米の開発	J A 経済連	水稲育種 銘柄米開発	B1 B2	B1-b B2	
農産	5	133	中生糯品種の開発	J A 経済連	銘柄米開発 水稲育種	B1 B2	B1-b B2	
農産	6	15	長期保存による県産水稲オリジナル品種等の食味変化の解明	農蚕課	水稲育種	A1	B1-b	
農産	7	37	「かけはし」の出穂メカニズムの解明	盛岡地域農業改良普及センター	やませ利用 水田作	B1	C	平成9年度試験研究成果(普及)
農産	8	88	「かけはし」の腹白防止に関する研究	久慈地域農業改良普及センター	やませ利用 水田作	A1 B1	B1-c B1-c	
農産	9	131	「かけはし」の品質平準化技術の確立	J A 経済連	水田作 水稲育種 やませ利用	A1 B1 C	B1-b B1-b	
農産	10	66	「ひとめぼれ」の栄養診断基準の策定	水沢地域農業改良普及センター	銘柄米開発 土壌作物栄養	B1 C	B1-a	
農産	11	11	消毒済み種子の発芽試験法の開発	農蚕課	病虫害 水田作	B1 C	B1-c	
農産	12	58	水稲種子大量消毒に係る薬剤の選定と発芽調査方法	岩手県農産物改良種苗センター	病虫害 水田作	B1 C	B1-c	
農産	13	36	リン酸減肥による効率的な施肥法の確立	盛岡地域農業改良普及センター	土壌作物栄養 営農技術	B1 C	B1-b	
農産	14	12	水稲直播栽培技術体系の確立	農蚕課	水田作 生産工学 土壌作物栄養 農業経営	A1 B1 C	A1 B1-a	要望事業の不採択
農産	15	134	無代播き移植技術の適応性検討	J A 経済連	生産工学	B1 C	B1-b	

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
農産	16	31	節水を考慮した稲作栽培技術の確立	両盤土地改良事業所	生産工学	A2 B1 C	A2 B1-c	
農産	17	23	大区画ほ場における水管理について	花巻土地改良事業所	生産工学	B1 C	B1-c	
農産	18	33	薬害の少ない水田初期除草剤の実用化について	盛岡地域農業改良普及センター	水田作 銘柄米開発	B1 C	B1-b	
農産	19	57	砂質土(漏水田)で使用でき、効果の高い水田除草剤の登録	釜石地域農業改良普及センター	水田作 銘柄米開発	B1 C	B1-c	
農産	20	10	水稲刈り取り適期の簡易判定機器等の開発	農蚕課	水田作	A2 B1 C	A2 B1-a	
農産	21	38	良食味米生産にむけた食味分析の評価法	盛岡地域農業改良普及センター	水田作 銘柄米開発	B1 C D	B1-b	
農産	22	35	水田畦畔草刈りの省力化「人に優しい草刈り機」の開発 畦畔づくり機械利用による草刈作業の省力化	盛岡地域農業改良普及センター	生産工学	A1 B1 C	A2 B1-c	要望事業の不採択
農産	23	54	水田畦畔の保全管理	北上地域農業改良普及センター	生産工学	A1 B1 C	A2 B1-c	要望事業の不採択
農産	24	71	水田畦畔管理の省力化技術の確立	水沢地域農業改良普及センター	生産工学	A1 B1 C	A2 B1-c	要望事業の不採択
農産	25	25	水田畦畔の緑化について	水沢地方振興局 農林部	生産工学 花き 水田作 産地育成	A1 B1 B2 C	A2 B1-c B1-b B2	要望事業の不採択
農産	26	3	泥炭土壌における圃場整備後の不等沈下の対策手法の確立	農地建設課	生産工学	A2 C	B1-b	現地で問題あり実施

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
農産	27	30	泥炭土層を含む水田の改良工法の確立	胆江土地改良事業所	生産工学	A2 C	B1-b	現地で問題あり実施
農産	28	32	中山間地域における、基盤整備技術の確立	両盤土地改良事業所	生産工学	A1 A2 D	A2 A2	要望事業の不採択
農産	29	40	新たな乾燥方法による食味向上技術の開発	盛岡地域農業改良普及センター	生産工学	C		
農産	30	24	大区画ほ場の形状について	花巻土地改良事業所	生産工学	C		
農産	31	5	「岩手県における農業用排水路の凍上対策工法設計基準」の見直しについて	農地建設課	生産工学	D		
園芸畑作	1	74	開花期の長期低温の程度による障害の発生予測について(りんご)	遠野地域農業改良普及センター	果樹	B1 C	C	平成9年度試験研究成果(指導)
園芸畑作	2	100	経済効率の高いりんごわい化改植推進のための低コスト工法技術の開発と統一積算マニュアルの作成	畑作振興課	果樹 生産工学	B1 C	C	平成9年度試験研究成果(指導)
園芸畑作	3	101	りんごわい化栽培におけるわい性樹の経済年数の基準及び改植時期の目安の作成	畑作振興課	果樹 農業経営	B1 C	B1-c	
園芸畑作	4	115	りんご「きおう」の裂果防止技術	二戸地域農業改良普及センター	果樹	B1	B1-b	
園芸畑作	5	117	りんご栽培におけるかん水の多目的利用	二戸地域農業改良普及センター	果樹 営農技術	A1 C	B1-c	
園芸畑作	6	105	寒冷地におけるぶどうの雨よけハウス栽培技術の確立	花巻地域農業改良普及センター	果樹	A1 C	B1-b	
園芸畑作	7	104	西洋なし「ラ・フランス」の摘花・果の省力化	花巻地域農業改良普及センター	果樹	B1	B1-c	

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要 望 機 関	回 答 研 究 室	措 置 状 況		備 考 (方針変更理由)
部 会 名	No					H 9	H 10	
園芸畑作	8	114	雨よけおうとうの植調剤による低木化法の確立	岩泉地域農業改良普及センター	果樹	B1 C	C	平成9年度試験研究成果(普及)
園芸畑作	9	55	柿の安定生産技術の確立	釜石地域農業改良普及センター	果樹	B1 C	B1-b	
園芸畑作	10	7	県北・県央・県南地帯における畑地かんがい栽培のためのかん水基準の策定及び畑地かんがい効果の実証	農地建設課	野菜畑作 土壌作物栄養 営農技術	A1 C	B1-c	
園芸畑作	11	29	菌床しいたけ栽培技術の確立	水沢地方振興局 農林部	野菜畑作	B2 D	B1-c	養蚕施設を活用し 実施
園芸畑作	12	21	革新的農業技術・経営実証(集落的営農における栽培体系の検討) ・ なすのロックウール耕栽培技術 ・ 経営収支の解明について	一関地方振興局 農林部	野菜畑作 農業経営 南部園芸	A2 B2 C	A2 B2	
園芸畑作	13	22	革新的農業技術・経営実証(集落的営農における栽培体系の検討) ・ きゅうり、トマトの少量土耕培地耕栽培方法の実証と経営収支の解明	一関地方振興局 農林部	野菜畑作 農業経営 南部園芸	A2 B2 C	A1 B1-c B2	現地で問題あり実 施
園芸畑作	14	111	革新的農業技術の確立 ・ 施設果菜類専作経営確立のための岩手型隔離床栽培システムの開発	一関地域農業改良普及センター	野菜畑作	A2 B2 C	A1 B1-c B2	現地で問題あり実 施
園芸畑作	15	128	トマトの5段花房以上の安定生産	J A 経済連	野菜畑作	B1 C	B1-b	
園芸畑作	16	53	さといもの高位安定生産技術の確立	北上地域農業改良普及センター	野菜畑作 病害虫	A1 B1 C	B1-b B1-b	

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要 望 機 関	回 答 研 究 室	措 置 状 況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
園芸畑作	17	129	早穫りキャベツの栽培方法	J A 経済連	野菜畑作 南部園芸	A1 B1 C	B1-b B1-b	
園芸畑作	18	46	キャベツのすす斑症の発生原因と対策	盛岡地域農業改良普及センター	野菜畑作 病害虫 土壌作物栄養 産地育成	A2 C	A2	
園芸畑作	19	116	キャベツの「スス斑病」防止技術	二戸地域農業改良普及センター	野菜畑作 病害虫 土壌作物栄養 産地育成 営農技術	A2 C	B1-c	現地で問題あり実施
園芸畑作	20	91	夏播きほうれんそうの安定生産対策	久慈地域農業改良普及センター	産地育成 営農技術 環境保全	A1 B1 C	B1-b B1-b	
園芸畑作	21	86	新資材（スピニアウト）の野菜・花き類に対する実用化	農村振興課	野菜畑作 花き	B2 C	B2	
園芸畑作	22	96	組織培養による栄養繁殖系野菜の大量増殖法	農蚕課 農産物改良種苗センター	応用生物学	B2 C	B2	
園芸畑作	23	18	水稲と小麦の輪作体系確立のための小麦の栽培技術の確立	農蚕課	野菜畑作 やませ	A1 C	B1-c	
園芸畑作	24	27	春まき小麦栽培体系の確立	水沢地方振興局 農林部	野菜畑作	A1 C	B1-b	
園芸畑作	25	70	春まき小麦の岩手県オリジナル品種の開発及び栽培技術の確立	水沢地域農業改良普及センター	野菜畑作	A1 C D	B1-b	
園芸畑作	26	138	春まき小麦の安定生産技術の確立	畑作振興課	野菜畑作	A1 C	B1-b	
園芸畑作	27	120	ビール麦（醸造用2条大麦）の有望品種の選定と安定生産技術の組立	一関地域農業改良普及センター	野菜畑作	B1 C	B1-b C	平成9年度試験研究成果(指導)

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
園芸畑作	28	90	そばの500kg穫りの技術確立	久慈地域農業改良普及センター	野菜畑作 やませ利用	C ----- D		
園芸畑作	29	112	りんどう極早生品種(露地7月初旬咲き)の育成	一関地域農業改良普及センター	花き	B1	B1-c	
園芸畑作	30	49	りんどう苗の効果的ジベレリン処理の方法	盛岡地域農業改良普及センター	花き	B1 ----- C	B1-a	
園芸畑作	31	50	りんどう育苗中の管理について	盛岡地域農業改良普及センター	花き	B1 ----- C	B1-b	
園芸畑作	32	92	りんどうの早期株養成に関する研究	久慈地域農業改良普及センター	花き	B1 ----- C	B1-b	
園芸畑作	33	108	りんどうの日焼けのメカニズム解明	花巻地域農業改良普及センター	花き	B1 ----- C	B1-b	
園芸畑作	34	84	鉢物りんどう「いわて乙女」の作期拡大技術の開発	花きセンター	花き	A1	B1-b	
園芸畑作	35	107	りんどう株腐れの原因究明と防除対策	花巻地域農業改良普及センター	病害虫	B1	B1-c	
園芸畑作	36	82	きく類の母株管理指標の策定(作業暦の作成)	花きセンター	花き 産地育成	A2 ----- B1 ----- C	A1 ----- B1-b ----- B1-a	
園芸畑作	37	127	小ぎくの需要期出荷に向けた栽培法	J A 経済連	花き	A2 ----- B1	B1-b ----- B1-b	計画を前倒し実施
園芸畑作	38	51	トルコギキョウの連作障害対策	盛岡地域農業改良普及センター	花き 病害虫	B1	B1-a	
園芸畑作	39	81	植物生長調節剤の効果の解明	花きセンター	花き	A1 ----- B1 ----- C	B1-a	
園芸畑作	40	48	アリウム・ギガンチウムの早生種及び晩生種の育成	盛岡地域農業改良普及センター	花き	C ----- D		

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
園芸畑作	41	75	景観形成作物の栽培マニュアル及び特性評価	大船渡地域農業改良普及センター	花き 産地育成 南部園芸	B1 B2 C	B1-b B2	
園芸畑作	42	76	沿岸砂丘地におけるハーブ栽培検討	大船渡農業改良普及センター	南部園芸	D		
園芸畑作	43	77	トルコギキョウ、スターチス・シヌアータの総合的灰色かび病対策の確立	大船渡農業改良普及センター	南部園芸 病害虫	B1 C	B1-b	
園芸畑作	44	13	簇中環境の簡易診断の開発と改善マニュアルの作成	農蚕課	蚕桑技術	C D		
園芸畑作	45	14	稚蚕飼育管理の省力（無人）化技術の開発	農蚕課	蚕桑技術	A1 B1 C	B1-b C	平成9年度試験研究成果(研究)
園芸畑作	46	47	雨よけほうれんそうの雑草対策	盛岡地域農業改良普及センター	野菜畑作	C		
園芸畑作	47	56	なばな「はるの輝」の露地栽培での早期出荷	釜石地域農業改良普及センター	南部園芸	C		
園芸畑作	48	94	2 齢蚕児の長距離輸送配蚕が蚕の生理と繭質に与える影響	久慈地域農業改良普及センター	蚕桑技術	C		
総合（生産環境）	1	8	いもち病の発生を指標にした水稻の有機栽培の地域別可能性と収量水準	農蚕課	環境保全 土壌作物栄養 病害虫	A1 B1	B1-b C	平成9年度試験研究成果(研究)
総合（生産環境）	2	34	水稻籾枯細菌病・苗立枯細菌病の防除方法	盛岡地域農業改良普及センター	病害虫	B1 C D	B1-a	
総合（生産環境）	3	64	水稻育苗箱施用資材の限界の明確化	水沢地域農業改良普及センター	病害虫 土壌作物栄養	B1 C	B1-c	
総合（生産環境）	4	135	いもち病防除の体系	J A 経済連	病害虫	B1	B1-b	

区分		整理 No	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名						H 9	H 10	
総合(生産環境)	5	41	岩手県北部における効果的な防除方法の開発(水田)	盛岡地域農業改良普及センター	営農技術 病害虫	B1 ----- C	B1-c	
総合(生産環境)	6	122	新りんご選果システム(非破壊糖度測定システム等)で得られるデータを利用したりんごの高品質栽培と流通戦略	江刺地域農業改良普及センター	土壌作物栄養 果樹	B1	B1-b	
総合(生産環境)	7	69	りんご病害虫防除の回数削減化にむけて技術マニュアルの策定	水沢地域農業改良普及センター	病害虫	B1 ----- C	B1-c	
総合(生産環境)	8	1	主要野菜病害の簡易診断法の構築	農村振興課 農蚕課	病害虫	A2 ----- B1 ----- C	A2 ----- B1-c	
総合(生産環境)	9	43	病害虫診断マニュアルの作成	盛岡地域農業改良普及センター	病害虫	B1 ----- C	B1-c	
総合(生産環境)	10	44	キャベツ、ねぎ等に対する各種展着剤の効果確認と有効な使用法	盛岡地域農業改良普及センター	病害虫	B1	B1-c	
総合(生産環境)	11	124	新奇病害虫の防除対策確立(果菜類ミカンキロアザミウマの防除対策)	江刺地域農業改良普及センター	病害虫	B1	B1-c	
総合(生産環境)	12	136	ミカンキロアザミウマの防除体系	J A 経済連	病害虫	B1	B1-c	
総合(生産環境)	13	45	ねぎ黄斑病の防除対策の確立	盛岡地域農業改良普及センター	営農技術 病害虫	B1 ----- C	B1-a	
総合(生産環境)	14	67	なばな「はるの輝」の保存方法	水沢地域農業改良普及センター	保鮮流通技術	B1	C	試験成績にとりまとめ指導した。
総合(生産環境)	15	99	小麦「コユキコムギ」のさび病発生動向の解明と防除対策の確立	畑作振興課	病害虫	B2 ----- C	B2	
総合(生産環境)	16	109	環境保全型土壌病害虫防除技術の確立	花巻地域農業改良普及センター	環境保全	B1 ----- C	B1-b	

区分		整理 No	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名						H 9	H 10	
総合(生産環境)	17	106	りんどう生育相と養分吸収の関係及び塩類過剰が生育に及ぼす影響	花巻地域農業改良普及センター	土壌作物栄養	A2 B1 C	A2 B1-c	
総合(生産環境)	18	52	ゆりの葉枯れ病(ボトリチス)防除	盛岡地域農業改良普及センター	病害虫	B1 C	B1-c	
総合(生産環境)	19	83	切花類の水分・肥培管理と花保ちの関係解明	花きセンター	保鮮流通技術	A2 C	A2	
総合(生産環境)	20	113	地ビール用麦芽の少量簡易生産技術と品質測定技術の開発	一関地域農業改良普及センター	保鮮流通技術	D		
総合(生産環境)	21	4	農業集落配水施設から発生する汚泥の農地還元手法の確立	農地建設課	土壌作物栄養	A2 C	A2	
総合(生産環境)	22	73	休耕田を利用した生活雑排水の簡易浄化	千厩地域農業改良普及センター	環境保全	B2 C	B2 C	
総合(生産環境)	23	28	耕種と畜産が結びついた堆肥利用システム 耕種部門への施用基準及び栽培法。米における堆肥施用のメリット	水沢地方振興局 農林部	土壌作物栄養 営農技術	A1 B1 C	B1-b B1-b	
総合(生産環境)	24	93	完熟堆肥生産マニュアル並びに成分分析の研究	久慈地域農業改良普及センター	営農技術 土壌作物栄養 飼料生産	B1 C	B1-c	
総合(生産環境)	25	119	畜産由来肥料の利用マニュアルの作成	軽米地域農業改良普及センター	営農技術 土壌作物栄養	B1 C	B1-c	
総合(生産環境)	26	6	農地開発事業地区における有機資材投入効果の実証について	農地建設課 久慈土地改良事業所	営農技術 土壌作物栄養	A1 B1	B1-c	
総合(生産環境)	27	130	有機肥料使用による農産物の安定生産技術の確立	J A 経済連	土壌作物栄養 野菜畑作 水田作 営農技術	A1 B1 C	B1-b B1-b	
総合(生産環境)	28	102	鶏糞消却灰の高度活用技術の実証	二戸地方振興局 農政部	営農技術 土壌作物栄養	B1 C	B1-b	

区分		整理 No	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名						H 9	H 10	
総合(生産環境)	29	137	家畜・家禽糞を原料とした県内産特殊肥料の利用法検討	J A 経済連	営農技術 土壌作物栄養	B1 C	B1-b	
総合(生産環境)	30	137	木酢液の利用及びその効果の検証	軽米地域農業改良普及センター	環境保全	C D		
総合(生産環境)	31	72	農薬の副次効果による効率的防除	千厩地域農業改良普及センター	病害虫	B1 C	B1-c	
総合(生産環境)	32	39	ばか苗病の後期発生のメカニズム解明とその防除方法の確立	盛岡地域農業改良普及センター	病害虫	C		
総合(生産環境)	33	42	トマト、ピーマンにおける被覆硝酸石灰肥料の使用法	盛岡地域農業改良普及センター	土壌作物栄養	C		
総合(生産環境)	34	110	大規模園芸栽培における省力防除技術の確立	花巻地域農業改良普及センター	病害虫	C		
畜産	1	62	F 1 (B × D) 肥育牛の早期産肉能力判定技術の開発	畜産会	家畜育種	A2 B1	A2 B1-C	
畜産	2	61	高泌乳牛の健康診断技術の確立	畜産会	家畜飼養	B1 C	B1-C	
畜産	3	2	草地におけるムギダニの防除法の確立	農村振興課	飼料生産 病害虫	A1 B2 C	B1-a B2	
畜産	4	28	耕種と畜産が結びついた堆肥利用システム	水沢地方振興局 農林部	飼料生産 土壌作物栄養 営農技術	B1 C	B1-b	
畜産	5	59	寒冷地における飼料生産基盤の家畜糞尿処理機能の解明と有効活用法について	久慈地域農業改良普及センター 畜産会	飼料生産	A1 C	B1-C	
畜産	6	125	本県の気象条件を考慮した低コストな粗飼料調整方法の開発	花巻地方振興局 農林部 J A 経済連	飼料生産	B1 C	B1-b	
畜産	7	63	コンバイン稲ワラの効率的収集技術の確立	花巻地方振興局 農林部	飼料生産	A2 C	A2	

区 分		整 理	要 望 課 題 名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No					H 9	H 10	
畜産	8	121	黒毛和種放牧管理システムの 確立	畜産課	外山畜産 農業経営	B1 C	B1-b	
畜産	9	126	低コストな乳牛のための防暑 対策	J A 経済連	家畜飼養	C		

4 共同研究の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア やませ常襲地帯における 水稲低コスト安定生産技術	青森農試 宮城農セ	6～10	大区画湛水直播による低コスト稲作技術体系の 確立	水田作
イ 寒冷地大規模水稲作にお ける省力・安定生産技術	宮城農セ 福島農試 山形農試	8～12	メッシュ土壌情報の高度化および稲作生産環境 評価技術の開発	土壌作物栄養
ウ 機械の汎用利用・複数作 業同時化による特用作物の 高品質畑輪作技術	山形農試 福島農試 長野中信農試	7～11	北上山系地域における新規導入作物を組み入れ た高品質機械化輪作栽培技術の実証	野菜畑作
エ 野菜の省力機械化技術を 基幹とした大規模畑輪作技 術	北海道北見農試 北海道上川農試 福島農試	9～13	岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心と した機械化畑輪作体系の確立	産地育成
オ 早期多収技術を基幹とし た高品質りんごの低コスト 生産技術	山形農試 福島農試 長野中信農試	6～10	大規模りんご栽培地帯における省力、低コスト、 高品質果実の生産技術	果樹
カ 放牧利用等による肉牛の 大規模低コスト生産	北海道新得畜試 青森畜試 福島畜試	6～10	北上山地における大規模草地の高度利用による 黒毛和種放牧牛の集団繁殖・育成管理技術の確立	外山畜産
キ 新品種の導入等を基幹と した公共草地の高度利用技 術	北海道根釧農試 北海道新得畜試 青森畜試	9～13	北上山地における公共草地の高度利用のための 貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立	飼料生産
ク 東北地域における環境保 全型農業を基幹とした重要 野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含 めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術

(2) 実用化促進研究

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 牛の省力的安全放牧管理 に関する研究開発	熊本農セ	7～11	放牧牛の位置センシング等による省力安全放牧 システムの開発	外山畜産
イ 新規地域特産作物等の大量 増殖、農地における斜面 の整備等に関する研究開発	三重農セ 山口農試 徳島果樹試 高知農セ	7～11	地域特産作物の活用等による新商材開発と法面 に適した植物の選定	産地育成

(3) 地域先端技術共同研究開発促進事業

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道新得畜試 山梨臨農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学

(4) 農業関係地域重要新技術開発促進事業

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 性フェロモンおよび天敵利用を基軸としたりんごともも害虫の減農薬防除技術の開発	福島園試 秋田果樹試 長野果樹試	8～12	りんごの主要なリン翅目害虫（キンモンホソガ等）を対象に性フェロモンによる交信攪乱技術や減農薬防除体系化での天敵の利用技術を開発する。	病害虫
イ 寒冷地施設利用花き生産のスリーシーズン化に向けた高品質安定生産技術の確立	フワ-センター 21あおり 山形園試	9～11	トルコギキョウ・スターチスの作期拡大技術の確立とストック・ゆり類の高品質化技術の確立を行う。	花き

(5) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
キチナーゼ遺伝子を導入した水稻系統のいもち病抵抗性評価	応用生物工学
いもち病抵抗性遺伝子に連鎖するDNAマーカーの検出	応用生物工学
直播用水稻品種母本の特性検定・評価	水稻育種
外国稲の低温抵抗性等品種特性の検定・評価	水稻育種 銘柄米開発
クローン増殖したスターチスの実用特性調査	応用生物工学 花き 南部園芸
エゾリンドウ系の大量増殖技術の確立	応用生物工学
りんどう病原ウイルス（CMV等）の検出・診断技術の利用	応用生物工学

課 題 名	担当研究室
トルコギキョウにおけるトマト黄化えそウイルス (T S W V) の検出・診断技術の確立及び利用	病害虫
b a r 遺伝子を導入したりんごの薬剤耐性評価	応用生物学
キチナーゼ遺伝子を導入したりんごの糸状菌病抵抗性評価	応用生物学
ピーマン病原ウイルス (P M M V) の検出・診断技術の利用	応用生物学
なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物学

(6) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア リモセン技術等によるメッシュ生産環境情報の高度化	岩手大学 知能情報 工学講座	8～12	土壌腐食マップ作成のため、土壌タイプと腐植含量の異なる土壌を採種し、水分を段階的に変えた場合の分光反射特性を検討する。	土壌作物栄養
イ バイパス油脂給与が黒毛和種去勢牛の産肉性に及ぼす影響	東北大学 生物生産 学科	9～10	飼料摂取量の停滞・減少する肥育末期におけるバイパス油脂給与が産肉性に及ぼす影響を解明する。	家畜育種
ウ ほ場整備地区における多面的効果測定法の開発	岩手大学 農林経済 学講座	10～12	ほ場整備事業の経済効果及び社会環境における効果を測定するとともに事業実施地域の営農再編のあり方を解明する。	農業経営

(7) A F R 研究会

名 称	構 成	研 究 期 間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	花き
土地改良研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	農業経営
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	蚕桑技術
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業試験場、農業研究センター	10～	水稻育種 銘柄米開発
機能性食品研究会 A	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会 B	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	10～	野菜畑作

名 称	構 成	研 究 期 間	担当研究室
農作業システムの自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
水田ほ場整備研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	病害虫
乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	家畜飼養
乳質向上対策研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	家畜飼養
家畜汚水処理実用化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、金ヶ崎町、高度技術振興協会、アクアマックスセンター中部、佐賀建設、システム・クリエイト、大町モータース	10～	家畜飼養 飼料生産

5 現地試験の実施

	内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担当研究室
1	良質・良食味米生産技術の実証	花巻市	西宮野目	水田作
2	良質・良食味米生産技術の実証	江刺市	稲瀬	水田作
3	良質・良食味米生産技術の実証	紫波町	犬吹森	水田作
4	良質・良食味米生産技術の実証	紫波町	水分	水田作
5	良質・良食味米生産技術の実証	雫石町	御所	水田作
6	良質・良食味米生産技術の実証	前沢町	古城	水田作
7	良質・良食味米生産技術の実証	滝沢村	牧野林	水田作
8	良質・良食味米生産技術の実証	胆沢町	北大畑平	水田作
9	良質・良食味米生産技術の実証	東和町	前田	水田作
10	良質・良食味米生産技術の実証	一関市	中里	水田作
11	良質・良食味米生産技術の実証	水沢市	北常磐	水田作
12	奨励品種決定現地調査(水稲)	遠野市	青笹	水田作
13	奨励品種決定現地調査(水稲)	花巻市	矢沢	水田作
14	奨励品種決定現地調査(水稲)	玉山村	好摩	水田作
15	奨励品種決定現地調査(水稲)	山田町	荒川	水田作
16	良例品種決定現地調査(水稲)	紫波町	大巻	水田作
17	奨励品種決定現地調査(水稲)	紫波町	南日詰	水田作
18	奨励品種決定現地調査(水稲)	雫石町	上野	水田作
19	奨励品種決定現地調査(水稲)	松尾村	野駄	水田作
20	奨励品種決定現地調査(水稲)	沢内村	川舟	水田作
21	奨励品種決定現地調査(水稲)	沢内村	前郷	水田作
22	奨励品種決定現地調査(水稲)	北上市	和賀	水田作
23	稲作地帯における土地利用型水田営農システム確立	胆沢町	鞍骨	水田作
24	大規模稲作経営肥培管理自動制御システムの実用化	遠野市	綾織	水田作

	内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担当研究室
25	大区画湛水直播による低コスト稲作技術の確立	花巻市	宮野目	水田作
26	雑草防除大規模試験 (適 2 試験)	紫波町	土館	水田作
27	不良環境地帯向け品種の開発	沢内村	高下	水稻育種
28	穂いもちほ場抵抗性特性検定	雫石町	鶯宿	水稻育種
29	無代かき移植栽培における機械適応性と土壌の特性	一関市	中里	生産工学
30	無代かき移植栽培における機械適応性と土壌の特性	花巻市	西宮野目	生産工学
31	泥炭層における地耐力向上技術の確立	水沢市	玉の木	生産工学
32	奨励品種決定現地調査 (水稻)	一関市	巖美町	銘柄米開発
33	奨励品種決定現地調査 (水稻)	花泉町	花泉	銘柄米開発
34	奨励品種決定現地調査 (水稻)	胆沢町	小山	銘柄米開発
35	奨励奨励決定現地調査 (水稻)	藤沢町	新沼	銘柄米開発
36	奨励品種決定現地調査 (水稻)	陸前高田市	竹駒	銘柄米開発
37	穂いもちほ場抵抗性特性検定	金ヶ崎町	六原	銘柄米開発
38	泥炭層を含む水田におけるほ場整備後の水稻生育調査	水沢市	佐倉河	銘柄米開発
39	酒造好適米品種開発に係る加工適正試験	石鳥谷町	新堀	銘柄米開発
40	酒造好適米品種開発に係る加工適正試験	石鳥谷町	八重畑	銘柄米開発
41	転作田を活用したぶどう新品種導入による高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証	花巻市	矢沢	果樹
42	ぶどう新品種の高品質安定生産技術の実証	花巻市	矢沢	果樹
43	大規模りんご園の改植法	石鳥谷町	八重畑	果樹
44	りんごの低樹高栽培体系の実証	江刺市	米里	果樹
45	りんごの低樹高栽培体系の実証	江刺市	小倉沢	果樹
46	りんご新台木の現地適応性試験	二戸市	湯田	果樹
47	りんご新台木の現地適応性試験	紫波町	矢巾	果樹
48	りんご新台木の現地適応性試験	宮古市	内の沢	果樹
49	りんご新台木の現地適応性試験	江刺市	小倉沢	果樹
50	りんご新台木の現地適応性試験	一関市	花泉中央	果樹
51	麦・豆奨励品種決定現地調査	玉山村	下田	野菜畑作
52	麦・豆奨励品種決定現地調査	前沢町	古城	野菜畑作
53	麦・豆奨励品種決定現地調査	東山町	長坂	野菜畑作
54	麦・豆奨励品種決定現地調査	藤沢町	要害	野菜畑作
55	大区画ほ場整備地区における園芸・水稻複合型集落営農モデル実証	北上市	二子	野菜畑作
56	稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証	花泉町	永井	野菜畑作
57	転作田への高収益作目の導入促進のための野菜栽培実証	遠野市	松崎町	野菜畑作
58	高品質機械化輪作栽培技術の実証	滝沢村	姥屋敷	野菜畑作
59	施設ピーマンを中心とした大規模経営構築のための技術開発実証	石鳥谷町	新堀	野菜畑作
60	いわて型養蚕の実証	花泉町	油島	蚕桑技術
61	藤崎地区における灌漑による野菜を取り入れたモデル経営の実証	川崎村	藤崎	南部園芸
62	沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証	住田町	世田米	南部園芸
63	水稻における環境保全型農業の総合組立	一関市	萩荘	環境保全
64	水稻における環境保全型農業の総合組立	雫石町	御明神	環境保全
65	水稻における環境保全型農業の総合組立	玉山村	下田	環境保全
66	水稻における環境保全型農業の総合組立	軽米町	山内	環境保全
67	水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	平泉町	平泉岸	環境保全
68	野菜における環境保全型農業の総合組立	西根町	田頭	環境保全
69	交差抵抗性誘導菌の利用技術	西根町		環境保全

	内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担当研究室
70	交差抵抗性誘導菌の利用技術	遠野市		環境保全
71	天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立	江刺市	稲瀬	環境保全
72	有機入り側条肥料の肥効確認	花巻市	宮野目	土壌作物栄養
73	わい化りんごの有機物施用量基準設定	江刺市	西部地域	土壌作物栄養
74	雨よけほうれんそうの有機物施用基準設定	岩手町		土壌作物栄養
75	雨よけほうれんそうの有機物施用基準設定	九戸村		土壌作物栄養
76	りんどうの土壌・施肥管理指針策定	水沢市		土壌作物栄養
77	りんどうの土壌・施肥管理指針策定	安代町		土壌作物栄養
78	レタス高生産性土壌管理実証	一戸町	奥中山	土壌作物栄養
79	高度情報処理によるイネいもち病の発生予察法の改善	花巻市	宮野目	病害虫
80	残効性の長い育苗箱施用剤によるいもち病防除技術	北上市	後藤野	病害虫
81	新農薬の肥効検定と防除基準作成	前沢町	要害	病害虫
82	性フェロモン及び天敵利用を機軸としたりんごとももの減農薬防除の確立	花巻市	外台	病害虫
83	りんご病害虫の省農薬防除体系の確立	花巻市		病害虫
84	新農薬の肥効検定と防除基準作成	遠野市	青笹町	病害虫
85	新農薬の肥効検定と防除基準作成	金ヶ崎町		病害虫
86	フザリウム病の発生実態の解明	遠野市		病害虫
87	フザリウム病の発生実態の解明	西根町		病害虫
88	フザリウム病の発生実態の解明	山形村		病害虫
89	トマト黄化えそウィルス病の総合防除法の確立	水沢市	佐倉河	病害虫
90	葉とらずりんごの品質評価法の開発	盛岡市		保鮮流通技術
91	葉とらずりんごの品質評価法の開発	江刺市		保鮮流通技術
92	加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証	釜石市	和山	保鮮流通技術
93	雨よけトマトの各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明	一の関市		保鮮流通技術
94	ほうれんそうの内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術	西根町		保鮮流通技術
95	ほうれんそうの内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術	軽米町		保鮮流通技術
96	砕水封入によるブロッコリー栄養成分保持技術の確立	一戸町		保鮮流通技術
97	砕水封入によるブロッコリー栄養成分保持技術の確立	松尾村		保鮮流通技術
98	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	安代町		家畜育種
99	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	釜石市		家畜育種
100	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	山形村		家畜育種
101	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	浄法寺町		家畜育種
102	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	川井村		家畜育種
103	核移植技術を活用した乳成分改良牛群の調査	千厩町	奥玉	家畜飼養
104	核移植技術を活用した乳成分改良牛群の調査	千厩町	小梨	家畜飼養
105	簡易牧草種子追播機による草生改良技術	玉山村		飼料生産
106	川井村青松牧野における褐毛和種親子放牧の放牧子牛育成技術開発	川井村	青松牧野	外山畜産
107	北上山地における黒毛和種繁殖経営の体系化現地実証	遠野市	貞任	外山畜産
108	畜産由来資源の有効活用技術の開発	軽米町	山内	営農技術
109	畜産由来資源の有効活用技術の開発	軽米町	米田	営農技術
110	土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥	軽米町	高家	営農技術
111	土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥	久慈市	大川目	営農技術
112	土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥	九戸村	山根	営農技術
113	新農薬の実用化	久慈市	横道	営農技術
114	全量育苗箱施肥法における土づくり肥料の肥効と食味の確認	軽米町	山内	営農技術

	内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担当研究室
115	畑地かんがい地帯における野菜・花き等の高収益モデルの実証	岩手町	一方井	営農技術
116	ねぎ防除体系実証試験	軽米町	山内	営農技術
117	作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	一戸町	奥中山	営農技術
118	新農薬の実用化	軽米町	円子	営農技術
119	土地利用型野菜における省力機械化体系の確立	西根町	田頭	営農技術
120	短期輪作による環境保全型根こぶ病発病抑止技術の実証	西根町	焼走	営農技術
121	県北中山間地域における園芸品目の省力・高品質生産技術の開発	九戸村	伊保内	産地育成
122	レタス優良品種の選定	一戸町	中山	産地育成
123	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術の実証	大野村	帯島	産地育成
124	やませ地帯に適応した花き品目の省力・安定生産技術の開発	久慈市	宇部	産地育成
125	県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立	一戸町	小友	産地育成
126	りんどう新肥料の肥効調査	軽米町	山内	産地育成
127	かけはしの栽培法	久慈市	大川目	やませ利用
128	水稻奨励品種決定現地調査	一戸町	奥中山	やませ利用
129	水稻奨励品種決定現地調査	種市町	宿戸	やませ利用
130	水稻奨励品種決定現地調査	浄法寺町	浄法寺	やませ利用
131	地域振興作物の特性評価	軽米町	野場	やませ利用
132	地域振興作物の特性評価	千厩町		やませ利用
133	麦・豆奨励品種決定現地調査	二戸市	福岡	やませ利用
134	革新的農業技術・経営現地実証	軽米町	野場	やませ利用
135	新規導入作物を組み入れた高品質機械化輪作栽培技術の実証	軽米町	野場	やませ利用
136	大規模野菜専作経営の実証と持続型産地育成	普代村	和野山	やませ利用

III 試験研究の成果

1 試験研究成果

区分	農産部門	園芸畑作部門	総合部門	畜産部門	計
普及	5	24	7	8	44
指導	8	21	15	7	51
行政	4	2	7	4	17
研究	10	8	13	8	39
計	27	55	42	27	151

普及（普及に移しうる成果）

農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果。

指導（技術指導に参考となる成果）

普及員等指導者の技術指導上の参考として適当と認められる成果。

行政（行政施策等に反映すべき成果）

行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの。

研究（技術開発に有効な成果）

新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの。

(1) 普及に移しうる成果

部門	No.	課 題 名	研究室
農 産 部 門	1	品種 酒造好適米「岩南酒13号」	銘柄米開発 水田作
	2	「ひとめぼれ」の生育栄養診断基準（一部改定）	銘柄米開発 土壌作物栄養 水田作
	3	平成11年度雑草防除基準に採用した水稻除草剤	水田作 銘柄米開発
	4	平成11年度雑草防除基準に採用した水田畦畔抑草剤	銘柄米開発 水田作
	5	水中拡散性に優れる水田除草剤「イマゾスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン粒剤」の省力散布法	水田作 銘柄米開発
園 芸 畑 作 部 門	6	りんごわい性樹の省力型低樹高栽培（結実部位の低下）法	果樹
	7	塗布剤がりんごせん定痕のカルス形成に及ぼす影響	果樹
	8	りんごの摘花剤・摘果剤利用による省力効果	果樹
	9	除草剤の飛散がりんご幼木の主幹に与える影響	果樹

部門	No.	課 題 名	研究室
園 芸 畑 作 部 門	10	品種 ぶどう「安芸クイーン」	果樹
	11	西洋なし「ラ・フランス」の好適受粉品種「ゼネラル・レクラーク」	果樹
	12	品種 キャベツ「夏さやか」	産地育成
	13	品種 だいこん「岩手YR春いちばん」	産地育成
	14	品種 ほうれんそう「ミストラル」	産地育成
	15	短日処理による促成いちごの前進作型（追補） — 小型ポット利用による苗養成及び短日処理期間、定植時期 —	南部園芸
	16	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS1」	花き 南部園芸
	17	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS3」	花き 南部園芸
	18	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS12」	花き 南部園芸
	19	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS14」	花き 南部園芸
	20	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NSR」	花き 南部園芸
	21	スプレーギクの再電照による品質向上技術	花き
	22	プレルーティングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術（追補） (2)カサブランカ、ルレーブ、シーウインドの好適処理条件	花き
	23	プレルーティングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術（追補） (3)プレルーティング処理時の湿度条件と簡易処理技術	花き 南部園芸
	24	スターチス・シヌアータ栄養系品種の挿し芽育成法	花き
	25	スターチス・シヌアータ栄養系品種の作型組合せ法	花き
	26	加温抑制トルコギキョウの高品質生産技術 — 夜冷短日育苗と短日処理による品質向上 —	南部園芸
	27	短日処理による10月出シトルコギキョウの品質向上技術（追補） — 育苗期における短日処理効果 —	南部園芸

部門	No.	課 題 名	研究室
	28	県北沿岸地域におけるトルコギキョウの抑制作型	産地育成
	29	座繰り生糸の製造方法	蚕桑技術
総 合 部 門	30	大規模小麦集団転作の成立条件	農業経営
	31	性フェロモンを利用したハウス栽培なばなのコナガ防除	環境保全
	32	りんごのハダニ類防除体系の改定	病害虫
	33	県北地域におけるネギコガを主としたねぎ害虫の防除法	営農技術
	34	平成11年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病害虫
	35	冷温高湿貯蔵による西洋なし「ラ・フランス」の長期貯蔵法	保鮮流通技術
	36	MA包装段ボール箱によるブロッコリーの鮮度保持法	保鮮流通技術
畜 産 部 門	37	乳牛に対する一回哺乳方法	家畜飼養
	38	ミルクングパ-ラ-排水用低コスト浄化槽の開発	家畜飼養
	39	品種 ソルゴ-型ソルガム「風立」	飼料生産
	40	品種 ソルゴ-型ソルガム「天高」	飼料生産
	41	ソルゴ-型ソルガム「風立」「天高」の混播利用	飼料生産
	42	品種 兼用型ソルガム「葉月」	飼料生産
	43	平成11年度雑草防除基準に採用した除草剤の播種同日処理による草地更新技術	飼料生産
	44	平成11年度農作物病害虫・雑草防除基準に採用した牧草用殺虫剤	飼料生産

(2) 技術指導に参考となる成果

部門	No.	課 題 名	研究室
農 産 部 門	1	「かけはし」の腹白粒軽減対策	やませ利用
	2	平成10年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 銘柄米開発 土壌作物栄養病 害虫 やませ利用

部門	No.	課 題 名	研究室
農 産 部 門	3	水稲の湛水土中直播栽培法	水田作 生産工学 土壌作物栄養病 害虫 農業経営
	4	大区画圃場における機械利用による中間管理技術	生産工学
	5	平成11年度に普及が見込まれる水稲育苗培土の実用性	水田作 やませ利用
	6	岩手県南部におけるスルホニルウレア(SU)系水田除草剤抵抗性アゼナ類の発生事例	銘柄米開発
	7	水田難防除雑草「クサネム」の発生状況	水田作
	8	野菜栽培管理ピークルの作業特性(追補) ～キャベツ現地実証における作業特性と収穫～	営農技術 産地育成 生産工学
園 芸 畑 作 部 門	9	りんごわい性台木「JM7」の挿し木繁殖法	果樹
	10	りんご「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判断	果樹
	11	平成10年度春期の異常気象がりんごの果実品質等に及ぼした影響	果樹
	12	りんごの非破壊選果機使用上の留意点	果樹
	13	県中南部における6月どりキャベツの施肥法	野菜畑作
	14	輪作及び耐病性品種の利用によるダイコン萎黄病の発生軽減	野菜畑作
	15	アスパラガス伏込み促成栽培の根株養成法	南部園芸
	16	県北地域におけるねぎの8月出荷作型	産地育成
	17	生育予測を用いた大豆の作期策定	野菜畑作
	18	県南部における小豆品質向上のための播種適期	野菜畑作
	19	平成10年における大豆冠水害被害の実態	野菜畑作
20	トルコギキョウの短日処理による品種反応	南部園芸 花き	
21	りんどう「ポラーノブルー」の最適株間及び仕立て本数	花き	

部門	No.	課 題 名	研究室
園 芸 畑 作 部 門	22	りんどうの夏播き育苗の定植期	花き
	23	りんどう栄養系鉢物品種の作型及び開花調節法	花き
	24	県北沿岸地域におけるラクスパーの春出し作型	産地育成
	25	県北沿岸地域でのお盆向け小ぎくの品種と栽培方法	産地育成
	26	県北地域におけるスプレーギクの長期継続出荷作型	産地育成
	27	スターチス・シヌアータの夏秋出し作型における播種期と収量・品質	南部園芸 花き
	28	天蚕繭の繰糸方法	蚕桑技術
	29	養蚕施設の菌床しいたけ栽培への利用事例	蚕桑技術
総 合 部 門	30	農産物直売所の展開条件	農業経営
	31	農村女性による加工部門の起業活動の実態と支援方策	農業経営
	32	りんご「さんさ」「ジョナゴールド」に対する肥効調節型肥料の施用効果	土壌作物栄養 保鮮流通技術
	33	メッシュ生産環境情報システムの開発	土壌作物栄養
	34	メッシュ生産環境情報による潜在的生産力評価法	土壌作物栄養
	35	土壌環境・作物分析の手引き	土壌作物栄養 環境保全
	36	水稻育苗期細菌病の多発判断指標	病害虫
	37	ハウレンソウ萎ちょう病に対する品種耐病性簡易検定法	病害虫
	38	りんご斑点落葉病に対する罹病性の品種間差異	応用生物学
	39	トマト黄化えそウイルスによる野菜・花き病害の発生実態と症状の特徴	病害虫
	40	粒剤のセルトレイ施用によるキャベツ害虫防除法	病害虫 営農技術
	41	岩手県におけるネギコガの発生生態	営農技術
	42	チビクロバネキノコバエのりんどう定植株への加害実態	病害虫

部門	No.	課 題 名	研究室
園芸 畑作 部門	43	鋤き込み可能マルチ資材の葉たばこ栽培への適応性	やませ利用
	44	主な加工品の製造技術	保鮮流通技術
畜 産 部 門	45	南部かしわ雌の長期（5ヶ月）肥育の経済性	家畜育種
	46	系統造成途中豚（ランドレース種、第5世代）の能力	家畜育種
	47	日本短角種産肉能力検定（直接法）成績	家畜育種
	48	日本短角種産肉能力検定（間接法）成績	家畜育種
	49	公共牧場における食餌性条件反応を利用した黒毛和種親子放牧の実証	外山畜産
	50	B I S デ - タ - による県有種雄牛の能力調査	種山畜産
	51	散水式脱臭装置におけるキノコ菌床素材の有効性	飼料生産

(3) 行政施策等に反映すべき成果

部門	No.	課 題 名	研究室
農 産 部 門	1	平成10年度水稲奨励品種決定調査本調査・現地調査結果	水田作 銘柄米開発 やませ利用
	2	水稲の登熟中期における冠水が収量・品質に及ぼす影響	水田作 銘柄米開発
	3	ほ場均平度の経年変化の実態	生産工学
	4	泥炭土層を含む水田における圃場整備直後の水稲生育	銘柄米開発 生産工学
園芸 畑作 部門	5	沖縄系小ぎく品種の栽培特性	花き
	6	平成10年度繭品質評価	蚕桑技術
総 合 部 門	7	地域農業動向把握システムの開発とその活用例	農業経営
	8	都市住民に選ばれるお米とその背景	マーケティング
	9	県内でのなばな「はるの輝」の購入意識	マーケティング
	10	盛岡市内の消費者がりんごを購入する視点	マーケティング

部門	No.	課 題 名	研究室
総合 部門	11	都市・農村交流を楽しむ都市住民のすがた	マーケティング
	12	都市・農村交流宿泊施設の運営実態と今後の方向	マーケティング
	13	いもち病防除剤の水系における残留実態	環境保全
畜 産 部 門	14	搾乳ロボット6ヶ月間の稼働成績	家畜飼養
	15	DNAマーカーを用いた日本短角種の親子判定	家畜工学
	16	ラジコントラクタによる傾斜放牧地の草地改良技術	外山畜産
	17	黒毛和種産肉能力検定(間接法)	種山畜産

(4) 研究開発に有効な成果

部門	No.	課 題 名	研究室
農 産 部 門	1	平成11年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作 銘柄米開発 やませ利用
	2	平成11年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
	3	平成11年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
	4	穂いもち圃場抵抗性の強い系統の育成	銘柄米開発
	5	耐病性遺伝子導入水稲の閉鎖系温室内におけるいもち病耐病性評価法	応用生物学
	6	水稲薬培養のためのスターラーを用いた薬大量抽出法の実用性	応用生物学
	7	水稲の耐冷性選抜における雑種第1代利用の可能性	水稲育種
	8	農業機械・施設・農作業に関する文献データベースの構築	生産工学
	9	作況試験における籾容量の解析	銘柄米開発
	10	「ひとめぼれ」のタンパク質・アミロース含有率と玄米及び白米白度の関係	銘柄米開発
園芸 畑作 部門	11	りんご「きおう」の裂果発生要因 -栽培条件による裂果発生の状況-	果樹
	12	極わい性台木M27を用いたりんごの超密植栽培	果樹

部門	No.	課 題 名	研究室
園芸畑作部門	13	発育指数を応用した大豆の生育予測	野菜畑作
	14	りんどうのジベレリン処理－散布量と処理時期及び処理2年目の生育量－	花き
	15	小ぎく品種の栽培特性	花き
	16	ラクスパーの立枯病防除技術	南部園芸
	17	主要菌床しいたけの栽培特性	蚕桑技術
	18	数種三眠蚕品種と四眠蚕品種「日202号」の交雑種の繭・糸質の特徴及び繰糸方法	蚕桑技術
総合部門	19	キチナーゼ遺伝子導入りんごの斑点落葉病に対する耐病性評価法と検定結果	応用生物学
	20	りんご褐斑病菌の接種法	応用生物学
	21	りんご褐斑病に対する殺菌剤の効果検定法	応用生物学
	22	bar遺伝子導入りんごのピアラホス(除草剤)耐性評価と培養個体を用いた早期検定法	応用生物学
	23	北上市成田(現:岩手県農業研究センター)における気象の平年値	環境保全
	24	新農耕地土壌分類による農業研究センター(本部)の土壌統	土壌作物栄養
	25	いもち病無防除栽培が可能な稲体窒素吸収量の目安	環境保全
	26	穂いもち防除用茎葉散布剤の玄米等における残留	環境保全
	27	水稻種子消毒剤の銅成分量と細菌病類に対する防除効果および薬害	病害虫
	28	イネ葉鞘褐変病の発生予測	病害虫
	29	トルコギキョウ産地に見られる発育不良株の発生実態	病害虫 花き
	30	天敵を利用した施設トマトのオンシツコナジラム防除	環境保全
	31	ほうれんそう内部品質に及ぼす土壌及び栽培要因の影響	保鮮流通技術 土壌作物栄養 営農技術
	畜産部門	32	岩手地鶏の増体性と産卵能力
33		ウシ雌雄判別胚における凍結保存後の受胎性	家畜工学

部門	No.	課 題 名	研究室
畜 産 部 門	34	豚の経済形質に関わるDNAマーカーの検出	家畜工学 家畜育種
	35	広葉樹の大径木生産を目的とした林内草地の遷移	外山畜産
	36	放牧によるシバ型草地の安定利用技術	外山畜産
	37	黒毛和種精液の希釈方法を中心とした高位凍結処理技術	種山畜産
	38	黒毛和種放牧子牛の繁殖農家における子牛発育向上技術の経営的評価	農業経営
	39	黒毛和種における放牧子牛と舎飼子牛の系統組合せによる市場評価	農業経営

2 東北農業試験研究成果

<試験研究成果情報>

- ア 大規模小麦集団転作の成立条件（農業経営研究室）
- イ 農村女性による起業活動の展開課程と支援の方向（農業経営研究室）
- ウ 岩手県における水稲湛水土中直播栽培適地マップ（水田作研究室）
- エ 水稲の登熟中期における冠水が収量・品質に及ぼす影響（水田作研究室、銘柄米開発研究室）
- オ 酒造好適米新品種「岩南酒13号」（銘柄米開発研究室、水田作研究室）
- カ 「ひとめぼれ」の幼穂形成期における生育診断指標の作成（銘柄米開発研究室、水田作研究室、土壌作物栄養研究室）
- キ 乗用管理機および農業用RCヘリコプターの導入基準（生産工学研究室）
- ク 平成10年度から見た異常気象がリンゴの果樹品質等に及ぼす影響（果樹研究室）
- ケ リンゴわい性樹の結実部位の低下による省力型低樹高栽培法（果樹研究室）
- コ 除草剤散布時の薬剤の付着がリンゴ幼木の主幹に与える影響（果樹研究室）
- サ 岩手県における生育予測を用いた大豆の作期策定とその応用（野菜畑作研究室）
- シ 岩手県南部における小豆品質向上のための播種適期（野菜畑作研究室）
- ス 秋ギクタイプスプレーギクの再電照による品質向上技術（花き研究室）
- セ イチゴ促成作型における花芽分化促進技術と小型ポット育苗の適応性（南部園芸研究室）
- ソ 夜冷育苗と短日処理による11月出しトルコギキョウの品質向上技術（南部園芸研究室）
- タ 天蚕繭の繰糸方法（蚕桑技術研究室）
- チ 養蚕施設の菌床しいたけ栽培への利用実態の事例（蚕桑技術研究室）
- ツ 三眠蚕品種を利用した細繊維繭糸素材の生産（蚕桑技術研究室）
- テ メッシュ生産環境情報システム（土壌作物栄養研究室）
- ト 水稲育苗期細菌病の多発予測の目安（病害虫研究室）
- ナ ミルクパーラー排水用低コスト浄化槽の開発（家畜飼養研究室）
- ニ 公共牧場における食餌性条件反応を利用した黒毛和種親子放牧の実証（外山畜産研究室）
- ヌ 岩手県におけるネギコガの発生生態（営農技術研究室）
- ネ 岩手県におけるネギコガの防除（営農技術研究室）
- ノ 岩手県北沿岸地方におけるトルコギキョウの抑制作型（産地育成研究室）
- ハ 「かけはし」の腹白粒発生軽減対策（やませ利用研究室）
- ヒ 生分解性マルチ資材の葉たばこ栽培への適応性（やませ利用研究室）

アンダーラインは「東北地域新しい技術シリーズ」となったものである。

IV 試験研究成果の発表

1 試験成績書等刊行物

資料番号	表題名	発行年月	ページ数
農産10 - No. 1	平成9年度試験成績書(応用生物工学研究室)	10. 4	67
農産10 - No. 2	平成10年度水稲作用除草剤第2次適用性試験成績書	10.10	71
農産10 - No. 3	水稲新配布系統成績書-岩手56,57,58号(水稲育種研究室)	11. 3	15
農産10 - No. 6	平成8年度水稲新品種育成試験成績書	11. 3	122
農産10 - No. 7	平成9年度水稲新品種育成試験成績書(銘柄米開発研究室)	11. 3	117
農産10 - No. 8	平成10年度試験成績概要書(農産部)	11. 3	230
農産10 - No. 9	平成9年度試験成績書(銘柄米開発研究室)	11. 3	118
農産10 - No.10	平成7年度試験成績書	11. 3	205
農産10 - No.11	平成8年度試験成績書	11. 3	153
農産10 - No.12	平成11年度水稲新配布系統成績書(銘柄米開発研究室)	11. 3	24
園芸9 - No. 1	平成9年度試験成績書	10. 3	227
環境10 - No. 1	平成9年度試験成績書(保鮮流通技術研究室)	10. 4	86
環境10 - No. 2	平成10年度試験成績書(環境保全研究室)	11. 3	226
畜産10 - No. 1	平成10年度試験成績書	11. 3	121
県北9 - No. 1	平成9年度試験成績概要書(営農技術研究室)	11. 1	92
県北9 - No. 2	平成9年度試験研究成績書(営農技術研究室)	11. 3	176
県北9 - No. 3	平成9年度試験成績概要書(産地育成研究室)	11. 3	85
県北9 - No. 4	平成9年度試験成績概要書(やませ利用研究室)	11. 3	83
県北10 - No. 1	平成10年度試験成績概要書(営農技術研究室)	11. 3	114
県北10 - No. 2	平成10年度試験成績概要書(産地育成研究室)	11. 3	86
県北10 - No. 3	平成10年度試験成績概要書(やませ利用研究室)	11. 3	81

2 学会等研究報告

部所・研究室名	発表者 氏名	学会 研究会名	開催 年月日	発表課題名	備考・刊行誌等
企画経営情報部 農業経営研究 室	及川 浩一 斉藤 恭	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	北上山系地域における機械化畑輪作の確立 第2報 営農計画の作成と技術体系定着の 条件	東北農業研究 第51号
	中村 勝則 斉藤 恭	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	中山間地域における農産物直売活動の展開 方向	東北農業研究 第51号
	村上 和史	第34回東北農 業経済学会仙 台大会	10. 8.21	中山間地域における起業活動の成立条件の 解明 -本県の起業活動の実態と問題点の把握-	東北農業経済研 究 通巻36号
	中村 勝則	平成10年度日 本農業経営学 会研究大会	10.10.31	水田地帯における大規模転作営農の定着条 件-岩手県における小麦集団転作の事例か ら-	農業経営研究 通巻99号

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
農業経営研究室	村上 和史	平成10年度日本農業経営学会研究大会	10.10.31	岩手県における水稲直播栽培技術の導入条件について	農業経営研究通巻99号
マーケティング研究室	菅原 豊司 佐々木健治	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	切り花りんどうの市場動向分析	東北農業研究第51号
農産部 水田作研究室	高橋 政夫 日影 勝幸 伊五沢正光	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	比重選別機による水稲種子の精選精度について	東北農業研究第51号
水稲育種研究室	小綿 寿志 畠山 均 他	日本育種学会第94回講演会	10. 9.28	水稲の雑種第一代の冷水処理による後代の耐冷性—第1報 F 2、F 3の穂ばらみ期耐冷性について—	育種学会誌第48巻別冊2号
応用生物工学研究室	多田 徹 他	日本育種学会第94回講演会	10. 9.28 ~9.29	日本型イネに由来するいもち病真性抵抗性に連鎖するAFLPマーカーの検索	育種学雑誌第48巻別冊2号
	漆原 昌二 他	日本育種学会第94回講演会	10. 9.28 ~9.29	イネ懸濁培養細胞を用いたアグロバクテリウム感染法による形質転換	育種学雑誌第48巻別冊2号
	星 伸枝 仲谷 房治 他	日本育種学会第94回講演会	10. 9.28 ~ 9.29	キチナーゼ遺伝子導入リンゴの斑点落葉病に対する抵抗性の検定	育種学雑誌第48巻別冊2号
	仲谷 房治 星 伸枝	北日本病害虫研究発表会	11. 2. 9 ~2.10	リンゴ褐斑病の発病に及ぼす諸要因の影響	北日本病害虫研究会報 第50号
生産工学研究室	伊藤 勝浩 鶴田 正明	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	3ha区画ほ場での省力技術体系の実証	東北農業研究第51号
	鶴田 正明 他	農業機械学会東北支部会	10. 8.18	りんどう施肥管理機の開発	農業機械学会東北支部報45
	小野寺忠夫 鶴田 正明 丹内 利彦 他	農業土木学会東北支部	10.10.13	むらのない水田をめざして	農業土木学会東北支部第43回研究発表会要旨
銘柄米開発研究室	尾形 茂 扇 良明 神山 芳典	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	水稲品種「ひとめぼれ」の食味関連成分と刈取時期が米の白度に及ぼす影響	東北農業研究第51号

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
銘柄米開発研究室	照井 儀明 中村 英明 多田 勝郎 佐藤 喬 高橋 正樹 扇 良明 小田中浩哉 神山 芳典	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	岩手県における水稲品種「ひとめぼれ」の食味関連成分と変動要因	東北農業研究第51号
	小田中浩哉 他	日本育種学会 第94回講演会	10. 9.27 ~9.30	アジ化ナトリウムの種子浸漬処理によって得られたイネの種子タンパク質突然変異体	育種学雑誌第48巻別冊2号
	扇 良明 他	日本作物学会 第207回講演会	11. 4. 2 ~4. 3	直播水稲における耐ころび型倒伏性の品種間差とその評価方法	日本作物学会紀事68巻(別1号)
	扇 良明 他	日本作物学会 第207回講演会	11. 4. 2 ~4. 3	低温苗立性の異なるイネ品種間における幼苗期クロロフィル含量の比較	日本作物学会紀事68巻(別1号)
	鈴木 哲	第41回東北農業試験研究発表会	98. 7.16	岩手県におけるブドウ「紅伊豆」の着果基準	東北農業研究第51号
園芸畑作部 果樹研究室	新田 優子	第41回東北農業試験研究発表会	98. 7.16	リンゴ樹のせん定切り口のカルス形成に及ぼす塗布剤の影響	東北農業研究第51号
野菜畑作研究室	高橋 智宏 作山 一夫	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	岩手県南部における小豆の作期と生育	東北農業研究第51号
	深澤 明子 作山 一夫 高橋 正広	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7.16	ハウスキュウリの遅出し作型における不耕起連続栽培法	東北農業研究第51号
	高橋 智宏 作山 一夫	日本作物学会 東北支部第41回講演会	10. 8.20	岩手県における大豆の生育予測と作期策定 1 大豆の生育予測	日本作物学会東北支部会報第41号
	高橋 智宏 作山 一夫	日本作物学会 東北支部第41回講演会	10. 8.20	岩手県における大豆の生育予測と作期策定 2 大豆の作期策定	日本作物学会東北支部会報第41号

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
花き研究室	阿部 潤 内藤 善美 高橋 寿一	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7. 16	プレル - ティングによるユリの品質向上技術	東北農業研究第51号
蚕桑技術研究室	橋元 進 阿部 信治 土佐 明夫 鈴木 繁実	日本蚕糸学会東北支部第52回研究発表会	10. 11. 5 ~ 11. 6	数種三眠蚕と四眠蚕の交雑種の飼育・繰糸成績	東北蚕糸研究報告 第23号
南部園芸研究室	佐藤 弘 吉田 達夫	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7. 16	10月出しトルコギキョウの短日処理による品質向上技術	東北農業研究第51号
生産環境部 環境保全研究室	伊藤 美穂 他	日本土壤肥料学会東北支部大会	10. 9. 9 ~ 9. 10	イネいもち病の発生回避を前提とした稲体窒素吸収量と収量水準	日本土壤肥料学会講演要旨集第45集
土壤作物栄養研究室	佐藤 喬 新毛 晴夫 島 輝夫 多田 勝郎 田村 和彦	第41回東北農業試験研究発表会	10. 7. 16	肥効調節型肥料によるリンドウの基肥一回施肥	東北農業研究第51号
	佐藤 喬 新毛 晴夫	日本土壤肥料学会東北支部大会	10. 9. 9 ~ 9. 10	高生産性リンドウ生産基盤の土壤理化学性に関する研究 (第1報)生育に対するpH,石灰,土壤硬度の影響	日本土壤肥料学会講演要旨集第45集
病害虫研究室	勝部 和則	北日本病害虫研究発表会	11. 2. 9 ~ 2. 10	ハウレンソウ萎ちょう病菌に対する品種の抵抗性評価	北日本病害虫研究会報 第50号
	勝部 和則	日本植物病理学会	10. 8	ハウレンソウ萎ちょう病感受性に及ぼす宿主の生育ステージと品種の影響	日本植物病理学会報 第64巻4号
	勝部 和則 他	日本植物病理学会	10. 8	トルコギキョウに発生したTomato spotted wilt virusによる黄化えそ病(新称)	日本植物病理学会報 第64巻4号
	勝部 和則 武田 真一	北日本病害虫研究会	10. 11	イネもみ枯細菌病苗腐敗症およびイネ苗立枯細菌病に対する種子消毒剤の防除効果に及ぼす銅分量の影響	北日本病害虫研究会報 第49号

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
病害虫研究室	勝部 和則 武田 眞一	北日本病害虫 研究会	10.11	糸状菌対象土壌処理剤によるイネ苗立枯細菌病の発病助長	北日本病害虫研究会報 第49号
	勝部 和則	日本植物病理 学会	10.12	岩手県のハウレンソウ栽培ハウスにおける Fusarium oxysporum f.sp. spinaciae の単純な個体群構造	日本植物病理学会報 第64巻6号
保鮮流通技術 研究室	佐藤美佳子 八重樫誠次 武藤 和夫	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	芭蕉菜の栽培条件と漬物加工適性	東北農業研究 第51号
	佐藤 博実 武藤 和夫	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	M A 包装段ボール箱によるサヤエンドウの鮮度保持法	東北農業研究 第51号
畜産研究所 家畜育種研究 室	大田原健二	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	高品質肉用鶏の長期安定出荷技術	東北農業研究 第51号
	西田 清	東北畜産学会 大会	10. 8.20 ~8.21	日本短角種の遺伝的産肉能力の推移	東北畜産学会誌 第49回大会号
家畜飼養研究 室	川村 輝雄	東北畜産学会 大会	10. 8.20 ~8.21	乳牛に対する1回哺乳の発育成績	東北畜産学会誌 第49回大会号
	川村 輝雄	Dutch-Japan ese - Worksho p on Preci sion Dairy Fa rming	10.10. 8 ~10.11	Robotic milking in Japan—a case in Iwate	
家畜工学研究 室	川村 輝雄	第95回日本畜 産学会大会	11. 3.29 ~3.30	L社製搾乳ロボットの稼働成績	第95回日本畜産 学会大会講演要 旨集
	鈴木 暁之	東北畜産学会 大会	10. 8.20 ~8.21	日本短角種における成長ホルモン遺伝子の多型と産肉能力との比較	東北畜産学会誌 第49回大会号
飼料生産研究 室	鈴木 暁之	第95回日本畜 産学会大会	11. 3.29 ~3.30	日本短角種におけるウシ筋肉肥大 (Double-muscling : DM) 原因遺伝子の解析	第95回日本畜産 学会大会講演要 旨集
	落合 昭吾	第95回日本畜 産学会大会	11. 3.29 ~3.30	リードカナリーグラスの利用技術	第95回日本畜産 学会大会講演要 旨集

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
外山畜産研究室	小梨 茂	獣医畜産業績 発表会	11. 3.18	ミルクパーラー排水用低コスト浄化槽 の開発	H10年度岩手県 家畜衛生年報
	村上 勝郎	日本草地学会 第54回発表会	11. 3.31 ～ 4. 2	広葉樹の大径木生産を目的とした林内草地 の遷移	日本草地学会第 54回発表会講演 要旨集
県北農業研究所	千葉 武勝	第52回北日本 病害虫研究会	11. 2. 9 ～ 2.10	アワを中心とした雑穀類の主要害虫発生生 態及び被害対策	北日本病害虫研 究会報 第50号
	千葉 武勝	日本植物協会 現地検討会	10. 9.24 ～ 9.25	東北地方における主要害虫の発生動向	日本植物協会現 地検討会講演要 旨集
営農技術研究室	大里 達朗	農業機械学会 東北支部シンポ ジウム	10. 8.18	雑穀の栽培と作業技術	農業機械学会要 東北支部シンポ ジウム要旨集
	高橋 好範 柏原 一成 石山 伸悦	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	水稻新品種「ユメコガネ」の栽培法	東北農業研究 第51号
	大里 達朗 高橋 昭喜 新田 政司 他	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	アマランサス用コンバインの開発 第2報 収穫作業体系と汎用性について	東北農業研究 第51号
	大里 達朗 遠藤 征彦 他	第41回東北農 業試験研究発 表会	10. 7.16	傾斜地に対応可能な野菜栽培管理ビークル の開発	東北農業研究 第51号
	大友 令史	北日本病害虫 研究発表会	11. 2. 9 ～ 2.10	ネギコガの発生生態と防除	北日本病害虫研 究会報 第50号

3 雑誌等投稿

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲 載 年 月	
農産部	鶴田 正明	岩手県農業の現状と将来の方向、機械化の対応策	農村ニュース	10. 8	
	一守 貴志	岩手県における水田雑草の発生動向と大区画圃場に 対応した新防除技術	米麦改良	10. 8	
	荻原 武雄	省力低コスト稲作り	農業技術新報	11. 1	
	扇 良明	ひとめぼれの簡易栄養診断と追肥	農業普及	11. 3	
	一守 貴志	大区画水田における省力雑草防除技術	今月の農業	11. 3	
園芸畑作部	小原 繁	ポット育苗による養成苗木の管理法と経営への利点	りんご技術 Vol.1	10. 4	
	小原 繁	結実確保で省力を	リンゴタイムス	10. 4	
	石川 勝規	今年の開花予測と結実確保	果樹だより	10. 4	
	小原 繁	新しい摘花剤の使い方、摘果の基準	果樹だより	10. 5	
	菅原 和仁	前作床利用不耕起連続栽培での生育・収量	農業技術体系	10. 5	
	鈴木 哲	仕上げ摘果	果樹だより	10. 6	
	小野田和夫	初心者のためのりんご栽培の基礎技術	農耕と園芸	10. 6	
	佐藤 弘	秋出しスタ - チスの収穫および品質向上技術	農耕と園芸	10. 6	
	新田 優子	りんご樹の夏期管理と除草剤の使い方	果樹だより	10. 7	
	佐藤 秀継	今年の早生種の収穫	リンゴタイムス	10. 8	
	佐藤 秀継	つがる、きおうの落果防止剤の散布	果樹だより	10. 8	
	小原 繁	さんさ、つがる、きおうの収穫前管理	果樹だより	10. 9	
	鈴木 哲	りんご中・晩生種の着色手入れと適期収穫	果樹だより	10.10	
	新田 優子	晩生種りんごの収穫、秋期除草剤の効果的使用法	果樹だより	10.11	
	佐藤 秀継	りんごわい性樹の新、改植のポイント	果樹だより	10.12	
	小野田和夫	平成11年度のりんご栽培	果樹だより	11. 1	
	深澤 明子	ハウスきゅうりの遅出し作型における不耕起栽培法	農耕と園芸	11. 1	
	高橋 寿一	水田を利用した花き栽培と圃場管理(りんどうを中 心として)	農業技術体系作物編 追録20号	11. 1	
	小野田和夫	「きおう」	果樹主要品種解説(逐次)	11. 2	
	小原 繁	県内の花芽調査からみた今年のりんご栽培	果樹だより	11. 2	
	新田 優子	西洋なし	農業普及	11. 2	
	小原 繁	新・改植の推進と結実安定のための品種構成	リンゴタイムス	11. 3	
	小原 繁	JM台木の挿し木繁殖について	リンゴタイムス	11. 3	
	石川 勝規	りんごの発芽予想と作業の準備	果樹だより	11. 3	
	作山 一夫	岩手県における夏秋トマトの品種選定	タキイ園芸新知識 / 野菜号	11. 3	
	生産環境部	勝部 和則	岩手県における夏取りほうれんそう～土壌病害の発 生実態と対策	園芸通信1998増刊号	10. 5
		藤沢 巧	ダニ剤の散布適期と効果的使用法	果樹だより	10. 6
藤沢 巧		ダニ剤の使い方について	リンゴタイムス	10. 6	
石川 佳子		斑点落葉病と褐斑病	リンゴタイムス	10. 6	

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲 載 年 月
畜産研究所	勝部 和則	ブール育苗によるイネもみ枯細菌病苗腐敗症およびイネ苗立枯細菌病の発病抑制	今月の農業	10. 6
	石川 佳子	斑点落葉病の防除法	果樹だより	10. 8
	藤沢 巧	りんどう害虫の発生生態と防除法	花き病虫害診断防除編第3巻	10. 8
	勝部 和則	非病原性フザリウム菌によるハウレンソウ萎ちょう病の防除	農業技術体系作物編編 追録9号	10. 8
	平淵 英利	スイートコーン	食品保蔵・流通技術ハンド ブック	10. 9
	藤沢 巧	平成11年度岩手県病虫害防除基準の改正点について	リンゴタイムス	10.12
	藤沢 巧	今年の病虫害防除対策	果樹だより	11. 1
	武藤 和夫	西洋ナシ「ラ・フランス」の高品質果実出荷のための品質管理	今月の農業	11. 1
	平淵 英利	MA包装段ボール箱によるさやえんどうの鮮度保持法	今月の農業	11. 3
	菊地 雄	種雄牛の造成	岩手の畜産	10. 6
	大宮 元	精液の生産・供給	岩手の畜産	10. 7
	野口 龍生	胚移植技術による育種・改良	岩手の畜産	10. 8
	鈴木 暁之	DNAによる育種改良	岩手の畜産	10. 9
	杉若 輝夫	岩手県農業研究センタ - 畜産研究所の本館が完成・移転しました	農業普及	10.10
	増田 隆晴	黒毛和種放牧子牛発育向上技術	岩手の畜産	10.10
	木村 和博	北上山地シバ型草地の長期安定利用技術の確立	岩手の畜産	10.11
	大田原健二	放牧子牛のその後の産肉性	岩手の畜産	10.12
	川村 輝雄	ロボット搾乳と超省力管理	岩手の畜産	11. 1
	小梨 茂	ミルクングパ - ラ - 排水用低コスト浄化槽の開発	岩手の畜産	11. 3
	県北農業研究所	菊地 淑子	岩手県北部のアワ、ヒエ、キビの優良系統	グリーンレポートN o 311 全農
	菊地 淑子	「雑穀 つくり方・生かし方」 ヒエ主産地の雑穀づくりを軌道にのせて	創森社	11. 2

4 新聞等掲載

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
総務部	農業見て触れて「ふれあい公園」6月完成 体験農園や博物館整備 北上・県研究センター隣接	岩手日報	10. 4.24
	農業学んで親しんで 北上ふれあい公園1日開園	岩手日報	10. 5.27
	県立農業ふれあい公園 6月1日オープン 農業科学博物館	岩日リビング	10. 5.30
	ふれあい公園が開園 農業への理解深める場に 北上児童ら記念の田植え	岩手日日	10. 6. 2
	身近に農業を体験 北上「ふれあい公園」開園	岩手日報	10. 6. 2
	「体験し理解を深めて」 北上・県立農業ふれあい公園開園 ミニ棚田や科学博物館	河北新報	10. 6. 2
	県立農業ふれあい公園北上にオープン れきし館 農具など140点展示 かがく館 クイズ形式で学ぶ	朝日新聞	10. 6. 5
	水と緑 ゆったり満喫 北上農業ふれあい公園 広場や博物館、工房も 親子連れでにぎわう	日報(夕刊)	10. 6.10
	農業への理解深めて 北上「ふれあい公園」が人気	読売新聞	10. 6.19
	入館1万5千人達成 北上・農業科学博物館	岩手日報	10.11.13
県立農業科学博物館 入館者が1万5000人 4ヶ月早く目標達成	岩手日日	10.11.13	
企画経営情報部	農業わかりやすく紹介 北上の県研究センター あすから一般公開	岩手日報	10. 4.12
	農業情報多彩に提供 北上・県研究センター 17日まで一般公開	日報(夕刊)	10. 4.14
	農林研究成果、地元へ還元 産学官連携組織(AFR)発足	岩手日報	10. 4.16
	論説 農林の産学官に期待	岩手日報	10. 5. 4
	農産物直売所 品ぞろえ豊富にして 利用経験7割 調理の助言求める声も 岩手県農研センターが消費者アンケート	日本農業新聞	10. 5.10
	加工事業の規模拡大 実需者との連携必要 「仲間で取り組み楽しむ」57%	日本農業新聞	10. 7. 4
	ホームページで研究成果を公開 県農業研究センター	岩手日報	10. 7.29

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
企画経営情報部	研究レポートコーナー うけてます新技術紹介 岩手県農研センター	日本農業新聞	10. 7.29
	農業の最新技術紹介 28日から県農研センターで参観デー	岩手日報	10. 8.20
	岩手の花 色とりどり 北上で「メッセ」開幕 リンゴ試食も人気	岩手日報	10. 9. 5
	相談コーナーも人気 北上の農業研究センター 参観デーにぎわう	岩手日日	10. 9. 5
	いわて花メッセ北上 色彩と香りの競演 17品種、361点を一堂に	岩手日日	10. 9. 6
	参観デーで研究成果展示	日本農業新聞	10. 9. 8
	アングル 北上でいわて花メッセ 県産の彩りをたっぷり楽しむ	河北新報	10. 9. 9
	19日から5カ所で 技術相談や講演会 県農研センターなど	日本農業新聞	10.11.13
	「現地ふれあいセンター」 千厩を皮切りに始まる 県の農林研究機関	岩手日報	10.11.20
	生産者らが意見交換 「現地ふれあい農研センター」あす沢内で	岩手日日	10.11.25
	農業に関心深めて！ 北上の県農業研究センター 小学生41人 一日研究員に任命	岩手日日	11. 1.15
日報アンテナ 一日子供研究員	岩手日報	11. 1.17	
農産部	マット水耕苗を田植え 北上・県農業センター	岩手日報	10. 5.28
	大区画水田での省力化目指す マット水耕苗を田植え 県農業研究センターで試験 北上12年度実用化に向け	岩手日日	10. 5.28
	苗補給を大幅省力 「ロングマット」田植え試験	日本農業新聞	10. 5.29
	岩手県農業の現状と将来の方向、機械化の対応策	農村ニュース	10. 8.24
	小学生百人が稲刈りを体験	朝日新聞	10.10.13
	泥まみれで収穫喜ぶ 飯豊小児童が稲刈り体験	岩手日報	10.10.14
	収穫の喜び味わう 飯豊小児童が稲刈り	岩手日日	10.10.14

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
農産部	自慢のコメできたよ 北上・農業ふれあい公園 小学生らが稲刈り体験	河北新報	10.10.18
	ひと ふれあい 酒造好適米の研究進む 畠山均氏	醸界協力新聞	10.11.11
	県独自の酒米いける 12年早々 新酒デビュー	岩手日報	10.12.28
	岩手のバイオ習得へ意欲 インドネシアの研修員	日報(夕刊)	11. 1.19
	最先端のバイテク農業技術 北上の県農業研究センター インドネシア青年が学ぶ	岩手日日	11. 1.24
	バイオを母国に インドネシアの研修生2人 先端技術学ぶ	岩手日報	11. 1.28
	岩手オリジナル酒米「岩南酒13号」に 県奨励品種候補に絞る	岩手日報	11. 2. 5
	県オリジナル酒造好適米候補に「岩南酒13号」確認 名称を公募、品種登録へ	岩手日報	11. 2. 9
	「岩南酒13号」奨励品種に 県の審査委決める 県民から名称募集	岩手日報	11. 2.16
	岩手の奨励品種 酒米とスタ-チス5品種	岩手日報	11. 2.16
	初の純県内産「岩南酒13号」待望の酒造米誕生	朝日新聞	11. 2.18
水稲の直播手引き配布 コスト削減、省力化に向け	読売新聞	11. 2.23	
園芸畑作部	キュウリ育苗高い評価 松島財団の振興奨励賞に輝く 阿部隆部長	岩手日報	10. 4. 1
	人 園芸振興松島財団の振興奨励賞を受けた阿部隆さん	岩手日報	10. 4. 2
	リンゴ早期成園に目処	農業機械新聞	10. 4. 9
	純北上産の地ビール 「わっかの春」限定販売	産経新聞	10. 4.14
	リンゴきおう期待の新顔 東北の農林園芸品種 甘みと酸味が程よく	河北新報	10. 4.21
	濃いピンクのスターチス 大量増殖にめど	日本農業新聞	10. 4.28
	せん定枝リサイクル 県農地管理開発公社 粉碎処理し発酵させる たい肥に再利用	岩手日日	10. 5. 1
	キャベツ省力栽培へ 移植機の実証試験 遠野市の展示ほ場	日本農業新聞	10. 5. 1

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
園芸畑作部	転作田でキャベツ栽培 遠野でモデル事業 収入の拡大目指す	岩手日報	10. 5.14
	リンゴ定植の年から結実可能 大苗移植栽培法を確立 布のポットごと移植 短い周期での品種更新に対応	農業共済新聞	10. 6. 3
	花いっぱい別世界 初の公開研究会 県農業研究センター	朝日新聞	10. 6.10
	鉢物用りんどう品種「あおこりん」「ももこりん」の品種特性について	岩手日報	10. 7.30
	鉢物リンドウ期待の新顔 「こりん」来年にも出荷 県の試験栽培続く	岩手日報	10. 8. 4
	鉢物用りんどう品種の開花状態の紹介	岩手日報	10.10.15
	岩手新リンドウ「こりん」満開	岩手日報	10.10.16
	鉢物リンドウ ピンク・青が売り物 来年秋にもお目見え	朝日新聞	10.10.21
	リンゴ収穫を体験 成田小児童	岩手日日	10.10.21
	秋出しイチゴ新栽培法確立 陸前高田・県の園芸研究室	日報(夕刊)	10.10.27
	リンゴもぎ楽しい! 北上・成田小児童が収穫を体験	岩手日報	10.10.29
	東北の農林園芸品種 鉢物リンドウ あおこりん・ももこりん	河北新報	10.11.17
	クロ-ン利用によるスターチスの新品種開発	農政経済研究所	10.12. 1
	リンドウ生産に弾み 施肥管理機を開発	日本農業新聞	10.12.15
	期待の新顔 東北の農林園芸品種 「あおこりん」「ももこりん」鉢物リンドウ新品種に期待	河北新報 日本農業新聞	10.12.29 11. 1.21
	スターチス本県初のオリジナル品種 県農研センターが開発	岩手日日	11. 3. 8
出合いが待ち遠しい 新しい花たち	読売新聞	11. 3.10	
生産環境部	岩手県における農業生産と病害虫発生実態について	農林技術新報	10.10. 5
	今年のリンゴ病害虫の発生と来年の防除方針	農林技術新報	10.10. 5

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
生産環境部	にくい土壌病害 カニ殻発酵資材が効く	日本農業新聞	10.12.17
	トルコギキョウ黄化えそ病 原因はTSWV	日本農業新聞	10.12.25
	病害虫防除法など研究成果紹介 県農研センター	岩手日報	11. 3.12
畜産研究所	おがくずでたい肥無臭に 散水で効果アップ 新素材ロックウールも有効 公害防止に期待	日報(夕刊)	10. 4.27
	優良種雄牛を早期選抜へ 分割受精卵の子牛活用 検定、2年半に半減	岩手日報	10. 6.14
	自動搾乳システム 実用化試験成果は上々 乳量10-15%増加 作業省力化放し飼い牛舎も効果	岩手日報	10. 7.19
	搾乳口が普及めざす 超省力化へ 自動給飼やたい肥化も計画 1日3回乳量増えさ目当てに牛が自ら	日本農業新聞	10. 7.28
	畜産技術開発の拠点完成 県農研センター研究所 発展誓い落成式典	岩手日報	10. 7.29
	7月死亡の名種牛「菊谷号」後継 双子の雄牛 元気に育て	読売新聞	10.12. 3
	新しい県優種雄牛 3頭を認定 肉質肉量は全国トップ水準	岩手日報	11. 1.14
県北農業研究所	永年勤続384人 業績顕著4人 県が職員表彰式	岩手日報	10.10.27
	リンゴの病害虫防除確立 千葉さん(軽米)功労者表彰 農業技術協会	岩手日報	10.11.17

5 テレビ、ラジオ放送等

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日	
企画経営情報部	高橋 安夫	「みんなのひろば」	テレビ岩手	10. 6.28	
	他	岩手県立農業ふれあい公園オープン 「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	中村 勝則	中山間地の活性化方策について		10. 6.26	
	町屋 宜亨	農業研究センターの参観デーの開催について		10. 8.28	
	星野 圭樹	首都圏の量販店における現状		10.11. 6	
	細田 耕平	農業複式簿記記帳の留意点		11. 1.15	
	中村 勝則	第3セクターによる農産物加工活動について 「農業最前線」	I B C ラジオ	11. 3.26	
	町屋 宜亨	農業研究センター春期一般公開について		10. 4.13	
	渋谷昌二郎	生産者への農業情報サービスについて		10. 4.14	
	及川 浩一	畜産アンケート結果の紹介		10. 6. 1	
	及川 浩一	畜産アンケート結果の紹介		10. 6. 2	
	細田 耕平	ほ場整備地区における組織の効果		10. 8. 6	
	町屋 宜亨	農業研究センター参観デーの開催について		10. 8.24	
	古川 末三	農業ふれあい公園のご活用について		10. 8.25	
	村上 和史	中山間地における起業活動の取り組み		10. 9. 9	
	村上 和史	中山間地における起業活動の取り組み		10. 9.10	
	菅原 豊司	農産物の需給動向について		10.10.12	
	菅原 豊司	農産物の需給動向について		10.10.13	
	岡田 利之	公共牧場の運営について		10.10.14	
	岡田 利之	公共牧場の運営について		10.10.15	
	村上 和史	農業の公益的機能について		10.11.11	
	村上 和史	農業の公益的機能について		10.11.12	
	菅原 豊司	農産物の市場とターゲット		10.12.10	
	菅原 豊司	農産物の「商品化」戦略		10.12.31	
	及川 浩一	子牛市場価格にみる放牧の効果		11. 2. 4	
	及川 浩一	公共草地粗飼料供給基地としての役割		11. 3. 3	
	佐々木健治	都市農村交流と宿泊施設		11. 3. 4	
	農産部		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ	
		吉田 宏	水稻育苗のポイントと本田準備		10. 5. 1
		星 伸枝	りんどうの組織培養について		10. 6. 5
小野寺忠夫		水管理の自動化		10. 7.10	
小綿 寿志		寒さに強い水稻品種の開発		10. 8.14	
工藤 佳徳		水稻の刈り取り適期について		10. 9.18	
八重樫耕一		重量作物の収穫と労働強度		10.10.23	
多田 徹		スターチス・シヌアータの組織培養について		10.11.20	
畠山 均		酒用の米の育種		11. 1.29	
伊藤 勝浩		田植え作業の省力化技術の開発について		11. 2.19	
日影 勝幸		水稻の種子予措について		11. 3. 5	
日影 勝幸		「農業最前線」 水稻育苗のポイント	I B C ラジオ	10. 4.27	

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日	
農産部	日影 勝幸	水稲育苗のポイント		10. 4.28	
	伊藤 勝浩	水稲育苗の新しい技術(プール育苗)		10. 4.29	
	伊藤 勝浩	水稲育苗の新しい技術(ロングマット)		10. 4.30	
	一守 貴志	本田初期管理と雑草防除		10. 5.25	
	一守 貴志	本田初期管理と雑草防除		10. 5.26	
	多田 徹	遺伝子組み替え作物について		10. 5.27	
	多田 徹	遺伝子組み替え作物について		10. 5.28	
	八重樫耕一	乗用管理ピークルについて		10. 6.22	
	八重樫耕一	乗用管理ピークルについて		10. 6.23	
	菅原 浩視	稲のいもち病抵抗性について		10. 6.24	
	菅原 浩視	稲のいもち病防除		10. 6.25	
	小野寺郁夫	稲の刈り取り適期について		10. 9.14	
	小野寺郁夫	稲の刈り取り適期について		10. 9.15	
	丹内 利彦	水管理の自動化		10. 9.16	
	丹内 利彦	水管理の自動化		10. 9.17	
	鶴田 正明	米の乾燥調製について		10.10.19	
	鶴田 正明	米の乾燥調製について		10.10.20	
	仲條 眞介	米の食味とは		10.10.21	
	仲條 眞介	米の食味とは		10.10.22	
	鶴田 正明	畦畔や法面の草刈りの省力化		10.11.30	
	小野寺忠夫	レーザー光線利用によるほ場均平技術の紹介		10.12. 1	
	八重樫耕一	新しく開発された野菜生産機械について		10.12. 2	
	伊藤 勝治	農作業事故の発生状況とその防止について		10.12. 3	
	佐々木 力	米の食味とは		11. 1.11	
	佐々木 力	米の食味とは		11. 1.12	
	星 伸枝	りんごのウイルスフリーについて		11. 1.13	
	星 伸枝	りんごのウイルスフリーについて		11. 1.14	
	一守 貴志	昨年の稲作をふりかえって		11. 2.15	
	一守 貴志	昨年の稲作をふりかえって		11. 2.16	
	小野寺郁夫	今年の稲作の計画について		11. 2.17	
	小野寺郁夫	今年の稲作の計画について		11. 2.18	
	工藤 佳徳	水稲の種子予措と育苗管理		11. 3.22	
	工藤 佳徳	水稲の種子予措と育苗管理		11. 3.23	
	工藤 佳徳	水稲の種子予措と育苗管理		11. 3.24	
	工藤 佳徳	水稲の種子予措と育苗管理		11. 3.25	
	園芸畑作部	深澤 明子	農業技術情報「ハウスきゅうりの遅出し作型における不耕起栽培法」 「おはよう今日も元気で」	日本短波放送 IBCラジオ	10. 7. 6
		中野 俊成	りんごの管理について		10. 4. 3
		石川 勝規	りんごの摘花及び摘果		10. 5. 8
		深澤 明子	ハウスきゅうりの不耕起連続栽培		10. 6.12
		内藤 善美	夏の鉢花管理技術		10. 7.17
鈴木 哲		りんご早生品種の収穫前管理		10. 8.21	

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日
園芸畑作部	高橋 智宏	転換畑における作付体系	I B C ラジオ	10. 9.25
	有馬 宏	ハウス休閑期利用の軟弱野菜栽培		10.11.27
	高橋 寿一	オリジナル品種の開発について		11. 1. 1
	佐藤 秀継	りんごの剪定と今年の実管理計画		11. 2. 5
	阿部 信治	蚕と絹の新しい利用法 「農業最前線」		11. 3.12
	深澤 明子	果菜類の定植後の管理について		10. 4. 8
	輪達 公重	トルコギキョウの育苗・定植技術		10. 4. 9
	鈴木 哲	りんごの結実対策		10. 4.20
	深澤 明子	果菜類の定植後の管理		10. 4.21
	高橋 昭喜	醸造用二条大麦の春まき栽培技術		10. 4.22
	輪達 公重	りんどうの育苗管理と株管理技術		10. 4.23
	小原 繁	りんごの仕上げ摘果		10. 6.15
	深澤 明子	ハウスきゅうりの不耕起連続栽培技術		10. 6.16
	高橋 昭喜	麦の高品質収穫・乾燥技術		10. 6.17
	輪達 公重	りんどうの定植後の管理		10. 6.18
	新田 優子	りんご等の夏期管理		10. 7.13
	有馬 宏	果菜類の生育中後期の栽培管理		10. 7.14
	高橋 寿一	秋冬切りスターチスの栽培管理		10. 7.15
	阿部 潤	抑制ゆりの栽培技術		10. 7.16
	佐藤 秀継	りんご早稲種の収穫前管理		10. 8.17
	有馬 宏	短日処理による促成いちごの前進作型		10. 8.18
	深澤 明子	なばな「はるの輝」の早春穫り作型		10. 8.19
	阿部 潤	ストックの定植後の管理		10. 8.20
	石川 勝規	りんご中・晩生種の収穫前管理		10. 9.28
	高橋 智宏	大豆の高品質収穫・調製技術		10. 9.29
	内藤 善美	りんどうの秋じまい		10. 9.30
	内藤 善美	小ぎくの親株管理		10.10. 1
	石川 勝規	りんご晩生種の着色手入れと収穫		10.10.26
	高橋 拓也	なばな「はるの輝」の定植後の管理		10.10.27
	阿部 潤	2、3月切り球根切花の栽培について		10.10.28
	阿部 弘	養蚕施設を利用した菌床しいたけ栽培		10.10.29
	新田 優子	りんご園の改植		10.12.14
	高橋 昭喜	麦類の越冬前後の管理		10.12.15
	内藤 善美	小ぎくの株管理技術について		11. 1.18
	小原 繁	今年のりんご生産計画		11. 1.19
	有馬 宏	ピーマンの育苗管理		11. 1.20
	輪達 公重	トルコギキョウの育苗について		11. 1.21
	阿部 信治	春先の桑園管理		11. 3. 8
	石川 勝規	りんごの仕上げ剪定と発芽期に向けた管理作業		11. 3. 9
	深澤 明子	トマトの育苗管理		11. 3.10
輪達 公重	りんどうの育苗管理について	11. 3.11		

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日
生産環境部		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ	
	飯村 茂之	水稻初期害虫の効率的防除		10. 4.24
	築地 邦晃	環境保全型農業技術		10. 5.29
	佐藤 喬	野菜畑の土づくり		10. 7. 3
	勝部 和則	出穂期の水稻病害防除		10. 8. 7
	平淵 英利	野菜の栄養成分		10. 9.11
	伊藤 美穂	いもち病軽減をねらいとした土壤施肥管理		10.10.16
	築地 邦晃	環境保全型の水稲栽培技術		10.11.13
	高橋 正樹	土壤診断による土づくり		10.12.18
	藤沢 巧	平成11年度の防除基準について		11. 1.22
	八重樫誠次	農産物加工について		11. 2.26
		「農業最前線」	I B C ラジオ	
	伊藤 美穂	いもち病軽減をねらいとした土壤施肥管理		10. 4.15
	高城 保志	非病原性フザリウムの利用		10. 4.16
	島 輝夫	高度機能性肥料の利用		10. 5.18
	島 輝夫	土壤養分の蓄積と利用		10. 5.19
	佐藤 喬	野菜畑の土づくり		10. 5.20
	佐藤 喬	畜産由来肥料の利用法		10. 5.21
	石川 佳子	りんごの病害防除		10. 6.10
	藤沢 巧	キャベツの害虫防除		10. 6.11
	池田 昌晃	ライシメーターによる肥料成分の動態調査		10. 7. 9
	福士 敬子	いもち病防除		10. 7.20
	藤沢 巧	りんごのハダニ防除		10. 7.21
	石川 佳子	きゅうりの病害防除		10. 7.22
	川村 亮二	りんご斑点落葉病の防除		10. 7.23
	八重樫誠次	りんご果実の鮮度保持		10. 8.31
	八重樫誠次	りんご果実の鮮度保持		10. 9. 1
	平淵 英利	野菜の鮮度保持		10. 9. 2
	平淵 英利	野菜の鮮度保持		10. 9. 3
	平淵 英利	りんごの貯蔵と出荷		10.11.16
	平淵 英利	りんごの貯蔵と出荷		10.11.17
	池田 昌晃	いもち病の多発地域と少発地域の気象特性について		10.11.18
	伊藤 美穂	水稻の有機栽培が可能な地域		10.11.19
勝部 和則	近年の小麦病害の発生動向	11. 1.25		
後藤 純子	りんどう育苗中のチビクロバネキノコバエの被害について	11. 1.26		
川村 亮二	育苗期発生の病害とその対策について	11. 1.27		
石川 佳子	りんご腐らん病について	11. 1.28		
高橋 良学	畑地の土壤管理	11. 3.29		
高橋 良学	有機物の有効利用	11. 3.30		
高橋 正樹	野菜・花きの生理障害と診断	11. 3.31		
畜産研究所	下 弘明 他	ウィークリーいわて 21世紀型の畜産岩手を拓く畜産研究所	岩手朝日テレビ	10. 9.26

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日	
畜産研究所		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	鈴木 暁之	DNA解析による新しい育種法の開発		10. 4.10	
	川村 輝雄	搾乳ロボットの実用化について		10. 5.15	
	木村 和博	芝型草地の長期安定利用技術		10. 6.19	
	仁昌寺 博	南部かしわ		10. 7.24	
	斉藤 節男	とうもろこしの硝酸態窒素の判定		10. 9. 4	
	大宮 元	県有種雄牛産子の状況		10.10. 2	
	千葉 伸	受精卵による雌雄産み分け技術		10.10.30	
	小梨 茂	酪農汚水の簡易処理方法		10.12. 4	
	太田原健二	最新の食肉の評価方法		11. 1. 8	
	橘 千太郎	黒毛和種の放牧促進		11. 2.12	
	佐藤 直人	堆肥化施設の悪臭防止		11. 3.19	
		「農業最前線」		I B C ラジオ	
	橘 千太郎	黒毛和種の放牧促進			10. 5. 6
	橘 千太郎	黒毛和種の放牧促進	10. 5. 7		
	谷藤 隆志	乳牛における分娩前後の飼養管理	10. 6. 3		
	谷藤 隆志	乳牛における分娩前後の飼養管理	10. 6. 4		
	野口 龍生	受精卵移植技術の現状	10. 6.29		
	野口 龍生	受卵牛の選定	10. 6.30		
	野口 龍生	受胎率向上に向けて	10. 7. 1		
	野口 龍生	受精卵移植技術の今後の展望	10. 7. 2		
	木村 和博	山地畜産について	10. 7.27		
	木村 和博	山地畜産について	10. 7.28		
	木村 和博	山地畜産について	10. 7.29		
	木村 和博	山地畜産について	10. 7.30		
	遠藤 明人	牧草地の造成・更新	10. 8.26		
	遠藤 明人	牧草地の造成・更新	10. 8.27		
	西田 清	日本短角種の育種価を用いた改良技術	10. 9.21		
	西田 清	日本短角種の育種価を用いた改良技術	10. 9.22		
	西田 清	日本短角種の育種価を用いた改良技術	10. 9.23		
	西田 清	日本短角種の育種価を用いた改良技術	10. 9.24		
	川村 輝雄	酪農における省力管理技術	10.11.23		
	川村 輝雄	酪農における省力管理技術	10.11.24		
	川村 輝雄	酪農における省力管理技術	10.11.25		
	川村 輝雄	酪農における省力管理技術	10.11.26		
	大宮 元	県有種雄牛の造成	10.12.16		
	大宮 元	県有種雄牛の造成	10.12.17		
	藤原 哲雄	豚の系統造成経過と組合せ検定	11. 1. 4		
	藤原 哲雄	豚の系統造成経過と組合せ検定	11. 1. 5		
	藤原 哲雄	豚の系統造成経過と組合せ検定	11. 1. 6		
	藤原 哲雄	豚の系統造成経過と組合せ検定	11. 1. 7		
	鈴木 暁之	豚DNAにおける優良遺伝子の検索	11. 2. 8		
鈴木 暁之	豚DNAにおける優良遺伝子の検索	11. 2. 9			
鈴木 暁之	豚DNAにおける優良遺伝子の検索	11. 2.10			

部 所 名	出演者氏名	番 組 名 (内 容)	放 送 局 名	放送年月日
畜産研究所	鈴木 暁之	豚DNAにおける優良遺伝子の検索		11. 2.11
	遠藤 明人	ラップサイレージの品質評価		11. 3.15
	遠藤 明人	ラップサイレージの品質評価		11. 3.16
	遠藤 明人	ラップサイレージの品質評価		11. 3.17
	遠藤 明人	ラップサイレージの品質評価		11. 3.18
県北農業研究所		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ	
	大里 達朗	最近の農業機械の研究開発状況について		10. 4.17
	佐藤 正昭	グランドカバープランツについて		10. 5.22
	菊地 淑子	岩手の雑穀について		10. 7.31
	高橋 好範	収穫後に考える農業と環境		10.10. 9
	菅原 英範	花壇苗の生産について		10.12.11
	柏原 一成	「かけはし」の品質向上のための栽培法 「農業最前線」	I B C ラジオ	11. 2.19
	菅野 史拓	県北高冷地向け野菜品種		10. 4. 1
	菊地 淑子	雑穀の栄養と食品機能性について		10. 4. 2
	大友 令史	コナガの防除開始時期について		10. 5.11
	菅野 史拓	だいこんの品種について		10. 5.12
	菊地 淑子	雑穀の栽培		10. 5.13
	高橋 好範	ユメコガネの栽培法について		10. 5.14
	本田 孝子	ねぎの管理の要点		10. 8.10
	柏原 一成	「かけはし」を用いた岩手県北地域における稚苗移植 栽培の適応性について		10. 8.11
	大里 達朗	豆、そばのコンバイン収穫		10. 8.12
	菅原 英範	秋出しパンジーの管理について		10. 8.13
	和野 重美	マルチ資材の処分方法について		10.10. 5
	高橋 好範	稲わら腐熟資材の利用法		10.10. 6
	菅野 史拓	冬期間のハウスを利用した葉菜の栽培		10.10. 7
	柏原 一成	「かけはし」の穂発芽防止対策について		10.10. 8
	高橋 好範	畜産由来肥料の種類と使用法		10.11. 2
	菅原 英範	春花壇苗の生産について		10.11. 3
	菊地 淑子	小麦の越冬前管理について		10.11. 4
	大里 達朗	冬場の農業機械の保守管理		10.11. 5
	佐藤 正昭	グランドカバープランツについて		10.12.21
	柏原 一成	今年の「かけはし」の作柄について		10.12.22
	大友 令史	作物収穫後の病害虫対策について		10.12.23
	本田 孝子	デルフィニウムの栽培について		10.12.24
	菊地 淑子	小麦の越冬後管理について		11. 2.22
	大友 令史	総合的害虫防除について		11. 2.23
	菅野 史拓	キャベツセル成形苗の育苗管理		11. 2.24
	和野 重美	大豆栽培の要点について		11. 2.25

6 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
企画経営情報部 農業経営研究室	及川 浩一	平成10年度 酪農基本方針啓発普及事業 肉用牛生産農家の意向等に関するアンケート調査 結果報告書（黒毛和種における放牧利用の実態）	同左 （畜産会）	11. 3
農業経営研究室	村上 和史 斉藤 恭	平成10年度地域課題分析調査事業 農業・農村の多面的機能の評価	同左	11. 3
農産部 水田作研究室 水稻育種研究室 生産工学研究室 銘柄米開発研究室		平成11年度稲作指導指針	同左	11. 2
生産工学研究室	小野寺忠夫	平成10年度地域課題分析調査事業 農業・農村の多面的機能の評価	同左	11. 3
園芸畑作部 野菜畑作研究室	有馬 宏	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
野菜畑作研究室	深澤 明子	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
野菜畑作研究室	高橋 昭喜	そば“なるほど”栽培ごよみ	そば栽培暦	11. 3
蚕桑技術研究室	阿部 弘	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
生産環境部 土壌作物栄養 研究室	新毛 晴夫 高橋 正樹	平成11年度稲作指導指針	同左	11. 2
病虫害研究室	後藤 純子 川村 亮二 福士 敬子	平成11年度稲作指導指針	同左	11. 2

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
土壌作物栄養 研究室	新毛 晴夫 佐藤 喬 島 輝夫 高橋 正樹 高橋 良学	土壌環境・作物分析の手引き - 土壌・作物・水質 ・有機物 -	同左	11. 2
環境保全研究 室	池田 昌晃			
土壌作物栄養 研究室	佐藤 喬	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
病害虫研究室	藤沢 巧 石川 佳子	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
保鮮流通技術 研究室	八重樫誠次	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
病害虫研究室	藤沢 巧 石川 佳子	農家ができる病害虫発生予察と防除の目安 - りんご編 - の改訂	同左 (農業共済発行)	11. 3
畜産研究所				
飼料生産研究 室	斎藤 節男	草種別生態と被害ならびに防除法(シバムギ、ア レチウリ)	東北地域で注意を要 する草地飼料畑の強 害雑草	10.12
家畜工学研究 室	野口 龍生	胚の分割移植を用いた種雄牛造成 受胎牛の選定法	受精卵移植等新技術 指導資料	11. 3
飼料生産研究 室	遠藤 明人	耕種的雑草防除技術	環境にやさしい飼料 生産の手引き	11. 3
飼料生産研究 室	遠藤 明人	乳質改善飼料生産技術	乳質改善のための飼 料生産の手引き	11. 3
県北農業研究所				
産地育成研究 室	佐藤 正昭 本田 孝子 菅原 英範 菅野 史拓	平成11年度野菜・花き栽培技術指針	同左	11. 3
やませ利用研 究室	石山 伸悦 柏原 一成	平成11年度稲作指導指針	同左	11. 2

V 指導・啓発活動

1 技術伝達研修等の実施

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
企画経営情報部	10.11.19	千厩町	現地ふれあい農業研究センター 講演会、分科会	208
	10.11.20	大迫町	現地ふれあい農業研究センター 講演会、分科会	174
	10.11.26	沢内村	現地ふれあい農業研究センター 講演会、分科会	121
	10.11.27	釜石市	現地ふれあい農業研究センター 講演会、分科会	111
	10.12.11	紫波町	現地ふれあい農業研究センター 講演会、分科会	187
園芸畑作部	10. 6. 9	南部園芸研究室	南部園芸研究室の公開研究会	50
	10.10.22	南部園芸研究室	いちご新作型栽培技術研究会	40
	11. 1.13 ~1.14	農業大学校	新技術普及検討会	30
生産環境部	10.10.23	農業研究センター 加工工房	りんごジュース高品質加工技術意見交換会	20
畜産研究所	10. 6.26	畜産研究所	哺育・育成技術研修	8
	11. 1.18	畜産研究所	新技術普及指導検討会（研究成果の伝達）	28
	11. 2.26	産業文化センタ -	第10回南部かしわ研究会（11年度雛配布計画、飼養管理技術、販売対策、情報交換）	45
	11. 3.23	畜産研究所	酪農セミナー 1.搾乳ロボットの稼働実績 2.岩手県内の放牧酪農実態 3.高能力牛の放牧飼養	40
県北農業研究所	10. 6.16	西根町	ほうれんそう調整機の実演実証	50
	10. 8.18	西根町	ほうれんそう収穫機の実演実証	40
	11. 2.16	県北農業研究所	農産物（雑穀）の検査規格手法研修会	50
	11. 3.17 ~3.19	埼玉県鴻巣市 (株)鴻巣園芸センター	花壇苗・切花新品種等研修 (21世紀型農業経営モデル農家対象)	5

2 現地指導等への派遣

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内容
企画経営情報部	10. 6.19	西根町	盛岡地方振興局農政部	フルーツロード駅長会議 (農産物直売に関する消費者の意識と施設運営について)
	10. 7.22 8.19	滝沢村	J A岩手学園	J A職員視覚認証試験研修会 中級:農業経営 上級:農業経済
	10.11.10 10.12. 3 11. 1.11	滝沢村	J A中央会	J A岩手県営農指導士養成講習会 (農業経営論)(農業経済論) (稲作低コスト論)
	10.11.26 10.12. 9	花巻市 千厩町	J A中央会	広域合併J A営農指導員研修会(農業経営)
	10.12. 8	盛岡市	盛岡農業改良普及センター	盛岡地方営農指導研究会(生活部会) (農産物直売施設の実態と運営の方向)
	11. 1.21	盛岡市	農村建設課	圃場整備地区における農地流動化研修会 (圃場整備地区における営農再編)
	11. 1.26 11. 3.25	一戸町 二戸市	畑地農業振興会	馬淵川沿岸地区畑地灌漑検討会 (畑地灌漑導入による営農再編)
	11. 1.26	盛岡市	いわてむらづくり塾	平成10年度地域連携支援推進研究会 (農業構造改善事業を契機とした営農再編)
	11. 1.27	玉山村	盛岡地方振興局農政部	フルーツロード助役会議 (農産物直売活動の意義と施設の運営)
	11. 2.21	紫波町	紫波町	生産組織研修 (圃場整備を契機とした営農再編)
農産部	10. 6. 8	銘柄米開発研究室	J Aみやぎ仙南良質米部会	稲作研修
	10. 7. 23	銘柄米開発研究室	J A岩手ふるさと金ヶ崎地域営農センター	研究センターの研究体制、品種開発
	10. 7. 28	銘柄米開発研究室	江刺市立江刺第一中学校	職場体験学習
	10. 8. 28	銘柄米開発研究室	岩手県高等学校教育研究会農業部会	岩手県における水稻品種育成の取り組み

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	主 催 者	内 容
農産部	10. 8.28	銘柄米開発研究室	稔の会	新品種の開発と育成、栽培技術
	10. 9.18	水沢市	J A岩手ふるさと 水沢地域事業本部	水沢「減農薬栽培米」栽培技術
	10. 9.18	水沢市	J A岩手ふるさと 水沢地域事業本部	品質食味を向上させる収穫乾燥調製
	10. 9.22	銘柄米開発研究室	岩手県普及職員O B 会水沢支部等	銘柄米等に係わる開発研究の取り組み
	11. 1.11 ~1.12	J A岩手学園	J A中央会	J A岩手県営農指導士養成講習会
	11. 1.18	石鳥谷町	農業大学校	農業機械導入計画について他
	11. 1.20	盛岡市	農業技術普及課	平成10年度岩手県農薬管理指導士養成研修
	11. 1.28	江刺市	J A江刺市	J A江刺市りんご部会冬期講習会 (平成10年度研究成果等について)
	11. 1.29	盛岡市	農薬卸商組合	平成11年度岩手県農作物・雑草防除基準説明会
	11. 2.16 ~2.17	雫石町	農業会議	平成10年度岩手県農業経営者セミナー
	11. 3. 1	岩手町	農業大学校	農業機械導入計画について他
	11. 3.11	札幌市	北海道農業試験場	「地域総合研究」研究会講演 芽だし播種技術開発
	11. 3.17	大迫町	花巻地方低コスト稲 作研究会	プール育苗について
	11. 3.27	花巻市	花巻市水稻直播研究 会	直播研究について
園芸畑作部	10. 4.15	安代町	J A新岩手	りんどうをめぐる情勢と栽培技術
	10. 5.15	農業研究センター	果樹協会	りんご基礎講座
	10. 5.29	農業研究センター	きおう研究会	きおう栽培研修
	10. 6.19	紫波町	J A経済連	ぶどう栽培技術研修会

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内容
園芸畑作部	10. 6.19	花巻市	J Aいわて花巻鉢花生産部会	鉢物春物販売検討、H10いわて乙女の栽培技術、販売対策
	10. 7.10	福島県下郷	福島県会津農業センター	岩手県の花き生産の現状と栽培技術
	10. 7.28	農業研究センター	きおう研究会	きおう栽培研修
	10. 8. 4	矢巾町	盛岡地方振興局農政部	りんご栽培技術セミナー
	10. 8.10	釜石合庁	釜石農業改良普及センター	ハマユリの栽培研究化指導
	10. 8.18	農業研究センター	J A経済連	りんご目揃い会(早生種)
	10. 8.25	紫波町	J A経済連	ぶどう栽培技術研修会
	10. 9.30	農業研究センター	農産園芸課	栄養系鉢物品種「こりん」の栽培技術(こりん研究会)
	10.10. 6	農業研究センター	J A経済連	りんご目揃い会(中生種)
	10.10. 9	胆沢町	水沢農村整備事務所	胆江地方担い手育成農地集積事業等支援チーム会議
	10.10.20	農業研究センター	農産園芸課	鉢物りんどうの流通検討会(こりん研究会)
	10.10.21	花巻市	J Aいわて花巻鉢花生産部会	いわて乙女の欠株等現地調査
	10.10.30	金ヶ崎町	指導農業士会	果樹研修会
	10.11. 6	江刺市	J A江刺市	江刺地区果実品評会審査
	10.11.10	農業研究センター	J A経済連	りんご目揃い会(晩生種)
	10.11.16	千厩町	J Aいわい東	千厩地区果実品評会審査
	10.11.18	北上市	N O S A I 岩手	園芸施設共済施設内農作物損害評価研修会
	10.11.18	農業研究センター	N O S A I 岩手	野菜・花きの栽培管理と病虫害について
10.12.22 ~12.23	気仙沼市	J Aいわい東室根花き生産部	花き販売額1億円達成記念大会	

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	主 催 者	内 容
園芸畑作部	11. 1.14	一関市	一関農業改良普及センター	西磐井地方果菜類産地力パワーアップ大作戦セミナー
	11. 1.19	盛岡市	果樹協会	りんご冬期講習会
	11. 1.26	石鳥谷町	花巻農業改良普及センター	トルコギキョウの栽培反省会
	11. 1.29	盛岡市	農薬卸売組合	11年度病害虫・雑草防除基準説明会
	11. 2. 3	農業研究センター	J A 経済連	菌床しいたけ栽培技術研修会
	11. 2. 8	東山町	東山町	東山町営農大学講座
	11. 2. 8	大東町	千厩農業改良普及センター	天蚕実績検討会
	11. 2.10	大東町	大東町	花き全般 最新技術について
	11. 2.17	紫波町	J A 岩手紫波町	ぶどうセミナー
	11. 2.17	農業研究センター	花きセンター	トルコギキョウの作期拡大技術
	11. 2.19	農業研究センター	北上市小ギク生産振興協議会	小ぎく栽培管理、病害虫防除技術
	11. 2.24	衣川村	水沢農業改良普及センター	りんどう圃場の土壌管理技術
	11. 2.25	沢内村	J A 西和賀	ゆり専門部会第6回定期総会
	11. 3.10	農業研究センター	東磐井地方農林業振興協議会	スタ・チス・シヌア・タ栽培技術研修会
	11. 3.10	二戸市	J A 二戸市	機織り研修
	11. 3.23	石鳥谷町	石鳥谷町	りんごJ M台木現地指導会
生産環境部	10. 5.29	花きセンター	花きセンター	農業者技術研修(最近話題の花き類の害虫)
	10. 5.29	農業研究センター	農産園芸課・経済連	りんご研修会
	10. 6.9	大東町	千厩農業改良普及センター	シンクイコンによるりんご害虫防除

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	主 催 者	内 容
生産環境部	10. 6.30 ~7. 1	花巻市	農業普及技術課	平成10年度農薬展示圃現地検討会（ミカンキイロアザミウマの簡易同定法）
	10. 7.28	農研センター	農産園芸課・経済連	りんご病害虫防除研修会
	10.10. 2	県民生活センター	農産園芸課	第12回岩手県ふるさと食品コンクール審査
	10.11.27	東和町	花巻教育事務所	管内学校栄養職員研修会（食品の残留農薬他）
	10.12. 8 ~12. 9	花巻市	病害虫防除所・経済連	平成10年度植物防疫事業実績検討会（果樹部会） - 平成11年度防除暦説明 -
	10.12.14 ~12.15	盛岡市	病害虫防除所	平成10年度植物防疫事業実績検討会（水稻部会）
	10.12.17	北上市	北上農産物加工開発研究会	インターハイ用開発加工品の講評
	11. 1.12 ~1.15	金ヶ崎町	病害虫防除所	平成10年度植物防疫事業実績検討会（野菜部会）
	11. 1.20	県庁	農業普及技術課	農薬管理指導士養成研修（病害虫防除概論）
	11. 2.18	紫波町	盛岡農業改良普及センター	環境保全型農業推進事業実績検討会（きゅうり病害虫の診断と防除）
	11. 2.22	花巻市	病害虫防除所	植物防疫実績検討会（農薬の安全使用）
	11. 2.23	水沢市	JA岩手ふるさと	限定純情米生産研修会（環境保全型農業の現状）
	11. 3.16	湯田町	湯田地域普及所	加工品開発新技術について（講義）
畜産研究所	10. 4.30	安代町	安代町	受精卵移植技術研修会（受精卵移植技術実演）
	10. 6.15	岩泉町	岩泉酪農研究会	乳牛受精卵活用技術向上研修会（採卵・検卵・凍結技術の実演）
	11. 2. 8	大野村	久慈家畜畜産物衛生指導協会	超音波肉質測定講習会（超音波肉質測定装置を活用して肥育牛の適期出荷を励行する）
	11. 2.22 ~2.23	葛巻町	二戸家畜畜産物衛生指導協会	放牧研修会（肉用牛の放牧管理技術）

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	主 催 者	内 容
畜産研究所	11. 3.12	紫波町	農産物流通課	いわて短角和牛枝肉講習会（岩手県における日本短角種の研究内容について）
	11. 3.15	二戸市	二戸地区受精卵移植研究会	二戸地区受精卵移植研修会（受胎牛の選定及び発情同期化技術講習会）
県北農業研究所	10. 5.13	軽米町	J A 軽米	転作ひえ栽培講習会
	10.12.15	二戸市	J A 経済連二戸駐在	キャベツ「W-4214」栽培技術講習会
	11. 1.12 ～1.14	農業大学校	農業普及技術課	平成10年度新技術普及指導検討会
	11. 1.18	二戸市	二戸地域銘柄米栽培研究会	「かけはし」栽培講習会
	11. 1.26	岩手町	J A 新岩手	東部地域野菜品目別講習会
	11. 2. 8	県北農業研究所	二戸農業改良普及センター等	第1回カシオペアフラワーテクニカルスクール
	11. 2. 9	久慈市	久慈地方かけはし研究会	「かけはし」栽培講習会
	11. 2.19	県北農業研究所	J A 二戸市青年部	二戸地域に適した野菜・花きの品目と栽培法

3 視察者、見学者の受入状況(平成10年4月～平成11年3月)

区 分	公式来所者数	非公式来所者数	合 計	備 考
本 部	7,005 人	17,676 人	24,681 人	非公式来所者数には、春期一般公開及び参観デー来所者を含む。
畜産研究所	2,763	905	3,668	
県北農業研究所	974	867	1,841	
計	10,742	19,448	30,190	

4 研修生の受入れ

(1) 海外研修員

受入れ部所	氏名	所属	研修目的	期間
<県海外技術研修員>				
農産部 水田作研究室	金正勲	中国 東北農業大学	水稲良質多収栽培技術	10. 6. 9 ~ 11. 3. 19
園芸畑作部 果樹研究室	謝 国民	中国 阜新市種子公司	りんごの栽培管理	10. 6. 9 ~ 11. 3. 19
蚕桑技術研究室	Rosma Massalangka	インドネシア 自営	養蚕	10. 6. 9 ~ 11. 3. 19
畜産研究所 飼料生産研究室	Basant Kumar Shrestha	ネパ - ル農業研究評議会 家畜栄養部	家畜飼料のサンプリング・分析・データ管理	10. 6. 9 ~ 11. 3. 19
<JICA地方枠>				
農産部 応用生物工学研究室	Minaldi Heru Purwanta	インドネシア技術・評価適用事業団	農作物や園芸作物のバイオテクノロジー技術の修得	11. 1. 18 ~ 11. 3. 31

(2) 短期研修生

受入れ部所	氏名	所属	研修目的	期間
農産部 水田作研究室	大石 学 佐々木 雅彦	N O S A I 胆江 N O S A I 岩手	水稲栽培技術研修	10. 5. 11 ~ 10. 5. 15 10. 7. 13 ~ 10. 7. 17 10. 9. 21 ~ 10. 9. 25 10. 10. 12 ~ 10. 10. 16 10. 11. 16 ~ 10. 11. 20
水稲育種研究室	山崎 礼二	岩手大学農学部 農業生産環境工学科 農産工学研究室	オートアナライザー による精白米のアミロース含量の分析	10. 12. 7 ~ 10. 12. 14
園芸畑作部 果樹研究室	山口 忍	自営	りんごの栽培管理	10. 4. 16 ~ 11. 3. 31
	及川 功一 吉田 健一	N O S A I 盛岡 N O S A I 胆江	りんごの栽培管理	10. 5. 25 ~ 10. 5. 29 10. 9. 7 ~ 10. 9. 11 10. 11. 9 ~ 10. 11. 13 11. 1. 18 ~ 11. 1. 22
	秋庭 孝嗣	農水省農業者大学校	りんごの栽培管理	10. 7. 6 ~ 10. 11. 30

5 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
新しい農業計画策定委員会	委員 幹事	所長 企画情報室長	農政企画課
一戸町農業振興協議会	委員	産地育成研究室長	一戸町
岩手県園芸産地づくりコンクール	審査員長	園芸畑作部長	農産園芸課
岩手県花き産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 マーケティング研究室長 花き研究室長	農産園芸課
岩手県牛乳普及協会	行事開催実行委員	家畜飼養研究室長	牛乳普及協会
岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会	幹事	農業経営研究室長	農業会議
岩手県主要農作物奨励品種審査委員会	委員 幹事 幹事 幹事	所長 水田作研究室長 水稲育種研究室長 野菜畑作研究室長	農産園芸課
岩手県植物防疫協会	運営幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事	生産環境部長 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 病虫害研究室長 飼料生産研究室長	植物防疫協会
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	副所長 畜産研究所長 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 営農技術研究室長	J A 経済連
岩手県畜産会	理事 非常勤コンサルタント	畜産研究所長 家畜育種研究室長 家畜飼養研究室長 家畜工学研究室長 飼料生産研究室長 外山畜産研究室長	畜産会
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	所長 農業経営研究室長 野菜畑作研究室長 やませ利用研究室長	農産園芸課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手県園芸作物奨励品種審査委員会	委員 幹事 幹事	所長 園芸畑作部長 県北農業研究所次長	農産園芸課
岩手県特定農山村地域活性化対策連絡協議会	委員 幹事	企画経営情報部長 農業経営研究室長	地域農業振興課
岩手県特定分野選定委員会	委員	企画経営情報部長	工業振興課
岩手県乳質改善協議会	酪農経営指導団員	家畜飼養研究室長	J A 経済連
岩手県農業気象協議会	委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	企画経営情報部長 水田作研究室長 果樹研究室長 環境保全研究室長 飼料生産研究室長 やませ利用研究室長	農業普及技術課
岩手県農業気象協議会冷害防止緊急技術会議	構成員	水田作研究室長	農業普及技術課
岩手県農業構造改善事業等推進連絡会議	委員	企画経営情報部長	農業普及技術課
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産部長	農産園芸課
岩手県農業共済組合連合会損害評価会			N O S A I 岩手
(農作物)	委員	水田作研究室長	
	委員	病虫害研究室長	
(畑作物)	委員	野菜畑作研究室長	
	委員	環境保全研究室長	
(蚕 繭)	委員	蚕桑技術研究室長	
	委員	病虫害研究室長	
(果 樹)	部会長	果樹研究室長	
(園芸施設)	委員	南部園芸研究室長	
(任 意)	委員	生産工学研究室長	
岩手県農業共済保険審査会	委員	農産部長	農業経済課
岩手県農業士選考委員会	委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業賞審査委員会	審査委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業担い手懇談会調査検討部会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課
岩手県農作業安全対策協議会	委員 委員 幹事 幹事	副所長 畜産研究所長 生産工学研究室長 飼料生産研究室長	農産園芸課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員 委員	水田作研究室長 野菜畑作研究室長	農産物改良種苗センター
岩手県農薬管理士認定委員会	委員	環境保全研究室長	農産園芸課
岩手県農林統計協会	理事	所長	岩手統計情報事務所
岩手県ふるさと食品コンクール	審査員	生産環境部長	農産園芸課
岩手県りんご産地づくりコンクール	審査員長	園芸畑作部長	農産園芸課
岩手県わさび品評会	審査員	野菜畑作研究室長	宮守村
いわて純情園芸産地拡大研究会	会員	園芸畑作部長	J A 経済連
いわて純情米推進協議会	幹事	農産部長	農産園芸課
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	農産部長	J A 経済連
いわて純情米良質・良食味生産コンクール	審査委員長	農産部長	J A 経済連
岩手農林研究協議会（A F F）運営協議会	委員	農産部長	岩手農林研究協議会
いわて麦・豆・そば等高度生産対策協議会	豆部会長	野菜畑作研究室長	農産園芸課
江刺市新稲作運動推進協議会	理事	銘柄米開発研究室長	江刺市
江刺市農業賞審査委員会	委員	銘柄米開発研究室長	江刺市
江刺市農業振興協議会	理事	銘柄米開発研究室長	江刺市
大船渡地方農業振興協議会	構成員	南部園芸研究室長	大船渡市
果実生産出荷安定対策協議会	幹事	病虫害研究室長	農産園芸課
「果実流通改善事業」に関する委員会	委員	果樹研究室長	日本園芸農協連
家畜改良増殖推進協議会	委員	畜産研究所長	畜産課
家畜導入事業資金供給事業県協議会	委員	家畜育種研究室長	畜産課
活力ある我がむらづくりコンクール	審査委員	所長	農政企画課
きおう研究会	副委員長 幹事	園芸畑作部長 果樹研究室長	農産園芸課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
技術研究会	委員	園芸畑作部長	生研機構
北上市小ギク生産振興協議会	役員会構成員 推進専門班構成員	花き研究室長 専門研究員	J A 北上市、J A 和賀中央、北上農業改良普及センター
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	園芸畑作部長	北上市
緊急技術開発委員会	委員	所長	生研機構
黒毛和種牛群育種改良推進事業県協議会	委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長	畜産課
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員	飼料生産研究室長	新農業機械実用促進(株)
高度土づくり技術確立推進協議会	構成員 構成員	土壌作物栄養研究室長 営農技術研究室長	農産園芸課
国営八戸平原地区、軽米地区畑地かんがい実証展示園運営委員会	幹事 幹事	県北農業研究所次長 営農技術研究室長	軽米地域普及所
国営馬淵川沿岸地区畑地かんがい実証展示園運営委員会	幹事	営農技術研究室長	二戸農業改良普及センター
地ビール推進懇話会	構成委員	所長	農産園芸課
出願品種現地調査員	調査員	園芸畑作部長	農産園芸局種苗課
全国和牛登録協会	参与	畜産研究所長	全国和牛登録協会
全国和牛登録協会産肉能力検定委員会	参与	種山畜産研究室長	全国和牛登録協会
玉山村村営牧野運営委員会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
玉山村畜産振興協議会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	飼料生産研究室長	畜産課
畜産技術連盟	世話人	外山畜産研究室長	畜産課
中山間地域総合整備事業釜石地区推進委員会	委員	県北農業研究所長	二戸農村整備事務所
中山間地域総合整備事業釜石地区推進委員会試験園運営検討会	委員	営農技術研究室長	二戸農村整備事務所
東北草地研究会	運営委員 幹事	畜産研究所長 飼料生産研究室長	東北大学農学部

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
東北地域直播推進会議	構成員	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進連絡協議会	委員	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進協議会ワーキンググループ	グループ員	水田作研究室長	東北農政局農産普及課
東北畜産学会	評議員	畜産研究所長	東北畜産学会
東北畜産学会学会賞候補者選考委員会	選考委員	畜産研究所長	東北畜産学会
東北農業経済学会	理事	農業経営研究室長	東北大学農学部
東北農村生活研究会	理事	農業経営研究室長	東北農業試験場
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 中央幹事	所長 生産工学研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 産地育成研究室長	農村計画課
土地改良事業営農対策推進委員会久慈地方幹事会	幹事 幹事	県北農業研究所次長 営農技術研究室長	久慈農業改良普及センター
土地改良事業営農対策推進委員会二戸地方幹事会	幹事 幹事	県北農業研究所次長 営農技術研究室長	二戸農業改良普及センター
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員	水田作研究室長	日本植物調節剤研究協会東北支部
日本農業賞岩手県代表審査委員	委員長	所長	J A 中央会
農業共済地域対応強化対策協議会地域集団引受推進専門部会	委員 委員	水田作研究室長 果樹研究室長 病虫害研究室長	N O S A I 岩手
農業振興地域整備促進連絡会議	構成員	所長	農村計画課
農産物加工指導センター運営委員会	委員	生産環境部長	農産園芸課
農村女性起業評価指標作成委員会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課
農林統計協会二戸支部	会員	県北農業研究所次長	岩手農林統計情報事務所 二戸出張所
バイオテクノロジー研究調整会議	委員	所長	農政企画課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
花の国づくり推進協議会	委員	園芸畑作部長	農産園芸課
花の国づくり岩手県協議会	会員 幹事	園芸畑作部長 花き研究室長	農産物流通課
東日本受精卵移植技術研究会	審査員	家畜工学研究室長	農水省畜産試験場
平成11年度全国高等学校総合体育大会実行委員会	常任委員	所長	北上市教育委員会
馬淵川沿岸営農推進技術実証調査委員会	委員	県北農業研究所長	二戸農業改良普及センター
馬淵川沿岸地区畑地かんがい水質検討委員会	委員	生産環境部長	(社)畑地農業振興会
馬淵川沿岸地区農業開発促進協議会	構成員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
馬淵川沿岸土地改良事業検討委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
水沢市農政審議会	委員	銘柄米開発研究室長	水沢市
盛岡地域公共牧場再編協議会	理事 幹事	外山畜産研究室長 外山畜産研究室長補佐	盛岡地方振興局農政部
酪農経営研究会	審査長	畜産研究所長	J A 経済連
陸前高田市総合農政推進協議会	構成員	南部園芸研究室長	陸前高田市
和牛改良専門委員会	委員	家畜育種研究室長	J A 経済連
花と野菜の郷づくり産地育成試験地運営協議会 (西根町)	委員	営農技術研究室長	盛岡農業改良普及センター
(久慈市)	委員	産地育成研究室長	久慈農業改良普及センター
(九戸村)	委員	産地育成研究室長	二戸農業改良普及センター
二戸地方農業振興協議会	構成員 幹事 園芸リッポ部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 産地育成研究室長	二戸地方振興局農政部
久慈地方農業振興協議会	構成員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	久慈地方振興局農政部
軽米町新需要穀類種子生産協議会	幹事	やませ利用研究室長	軽米町

VI 職員研修

1 大学院派遣研修

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
岩手大学大学院連合農学研究科	農産部	専門研究員 小田中 浩哉	水稲オリジナル新品種開発のための種子貯蔵タンパク質の質的・量的改良に関する研究	H 8～H10
岩手大学大学院連合農学研究科	生産環境部	専門研究員 勝部 和則	ハウレンソウ萎ちょう病の疫学的研究	H 9～H11
岩手大学大学院連合農学研究科	農産部	主任専門研究員 佐々木 力	水稲品種の品質・食味の保持限界の解明及び簡易・迅速判定に関する研究	H10～H12

2 海外研修

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
研究発表	生産環境部	専門研究員 勝部 和則	非病原生フザリウムによるハウレンソウ萎ちょう病の防除（国際植物病理学会、スコットランド）	10. 8. 7 ～8.18
シーズ調査	畜産研究所	主任専門研究員 川村 輝雄	ヨーロッパにおける乳牛改良と搾乳ロボットシーズ調査（オランダ農業環境工学研究所）	10. 8.25 ～9.14

3 国内研修への派遣

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
農林水産省依頼研究員研修	農産部	主任専門研究員 伊藤 勝浩	水稲の省力化機械技術の開発	10. 6. 1 ～8.31
	農産部	主任専門研究員 扇 良明	直播水稲品種の評価選抜手法に関する研究	10. 6.15 ～9.15
	農産部	専門研究員 荻内 謙吾	有機物投入による土壌腐食の形態・動態解析と作物栄養的評価に関する研究	10.10. 1 ～12.28
	園芸畑作部	専門研究員 石川 勝則	りんごの生育・品種に対する樹冠内光環境の影響解析	10. 6. 1 ～8.31
	生産環境部	専門研究員 高城 保志	畑作物土壌病害の診断法に関する研究	10.10. 1 ～12.31

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
農林水産省依頼研究員研修	生産環境部	専門研究員 佐藤 喬	土壌窒素栄養分等の簡易・迅速分析手法や評価手法の修得	10. 9.14 ～12.11
	生産環境部	専門研究員 島 輝夫	土壌中の蓄積栄養分量を踏まえた診断・評価手法の修得	10. 6. 1 ～8.31
	畜産研究所	専門研究員 大田原 健二	食肉の品質評価法の開発	10. 9.21 ～12.18
	県北農業研究所	専門研究員 大友 令史	天敵生物を利用した防除に関する研究	10. 9. 1 ～11.30
短期集合研修	企画経営情報部	主任 渋谷 昌二郎	農林水産試験研究のための情報処理技術	10. 6. 8 ～6.12
農業中核研究員養成研究	園芸畑作部	主任専門研究員 阿部 潤	試験研究の企画・立案及び進行管理並びに研究精化の普及への伝達	10.12. 7 ～12.11
	県北農業研究所	主任専門研究員 高橋 良範	試験研究の企画・立案及び進行管理並びに研究成果の普及への伝達	10.12. 7 ～12.11
農業機械化研修	畜産研究所	技能員 細野 貴樹	飼料作機械化研修	10. 8.18 ～8.26
	県北農業研究所	技能員 清水 賢一	農業機械整備教育研修	10. 9. 7 ～9.11
	総務部	技能員 小黒沢 清人	高性能農業機械整備技術研修	10.11.16 ～12. 8
	農産部	専門研究員 丹内 利彦	無人ヘリコプター技能研修	10.11.16 ～12.17
その他の研修	畜産研究所	技師 木村 和博	中央畜産技術研修会（畜産統計処理）	10. 6. 8 ～6.19

4 所内セミナー等の開催

名 称	開 催 期 日	内 容	参集人員
〔本部〕 第4回公開セミナー	10. 4.17	「農業におけるバイオテクノロジー利用～ここまでのバイオテクノロジー～」 仲谷房治(農産部応用生物工学研究室室長)	72
第5回公開セミナー	10. 6.24	「新技術の普及定着について」 木村伸男(岩手大学農学部教授)	92
先端技術開発ワークショップ	11. 2.15	「地域における研究開発の現状と今後の方向」 高橋浩進(科学技術庁技術振興局地域科学技術振興室)	20
第6回公開セミナー	11. 3. 1	「外食産業から農業への提言」 庄司昭夫(株)アフレ代表取締役)	80
第7回公開セミナー	11. 3.11	「研究成果発表会」	34
専門セミナー	11. 3.30	「新しい農業基本法制定に向けた検討経過」 大泉一貫(東北大学農学部助教授)	95
〔畜産研究所〕 所内セミナー	10. 7. 7	東北農業試験研究発表会予演会	20
所内セミナー	10. 8.18	東北畜産学会予演会	18
公開セミナー	10. 8.28	「畜産を活かした地域活性化」 吉田修(農事組合法人モクモク手作りファーム専務理事)	136
所内セミナー	11. 3.25	日本畜産学会予演会	15
〔県北農業研究所〕 第1回職員セミナー	10. 6.16	総合農業情報ネットワーク利用法	11
第2回職員セミナー	10. 6.30	東北農業研究発表会事前発表研修	21
第3回職員セミナー	10. 8.10～11	現地試験等巡回研修	11
第4回職員セミナー	11. 1.14	統計手法と成績書作成	4
所内特別ゼミナール	11. 3.15	「りんどう育種研究に携わって」 吉池貞蔵(安代町花卉開発センター所長)	28

VII 人事、予算、財産

1 農業研究センター予算(2月補正現計)

(単位 千円)

区 分	予 算 額
(農業振興費)	
人件費(本部・県北)	1,178,257
庁舎管理費(本部)	148,695
ほ場管理費(本部)	81,099
繭品質評価業務費	13,381
庁舎管理費(県北)	33,828
ほ場管理費(県北)	6,069
試験研究費	118,716
(1)特定研究開発等促進事業	42,840
(2)地域先端技術等研究開発促進事業	5,700
(3)植物防疫研究費	25,120
(4)土壌対策研究費	9,562
(5)農業関係試験研究委託事業	8,801
(6)民間委託試験研究費	26,693
高生産性農業新技術開発促進事業	107,051
(1)基盤的・先導的農業技術開発研究事業	34,936
(2)バイオテクノロジー実用化事業	15,864
(3)先端的農業技術実用化研究事業	35,771
(4)中山間地域活性化戦略研究事業	4,163
(5)農業新技術緊急開発実用化推進研究事業	8,826
(6)農業新技術現地実用化開発・実証研究事業	7,491
令達事業(本部)	202,236
令達事業(県北)	30,148
合 計	2,145,247
(畜産業費)	
人件費(畜産)	531,014
庁舎管理費	58,610
飼育管理費	98,905
種山畜産研究室管理費	99,814
外山畜産研究室隔障物整備事業	16,664
試験研究費	36,152
(1)特定研究開発促進事業	19,400
(2)地域先端技術共同研究開発促進事業	8,940
(3)農業関係試験研究委託事業	712
(4)委託試験研究費	7,100
高生産性畜産新技術開発促進研究費	19,993
(1)基盤的・先導的畜産技術開発研究事業	12,615
(2)バイオテクノロジー実用化研究事業	4,296
(3)先進的畜産技術実用化研究事業	2,487
(4)畜産新技術現地実用化・実証研究事業	595
令達事業	195,876
合 計	1,113,173
全 体 計	3,258,420

2 建物、用地

	用 地 (ha)							建 物 (m ²)		
	耕 地					林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地	小 計					
本 部	30.2	20.3	21.3		71.8		39.5	111.3	69	24,546
北 上	25.8	18.0	21.3		65.1		36.2	101.3	31	18,809
主な施設面積(内数)										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査実験棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	26	4,805
南部園芸研究室		1.6			1.6		1.1	2.7	12	932
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
畜産研究所		159.2		1,670.8	1,830.0	526.2	37.8	2,394.0	156	39,227
滝 沢		67.7		23.1	90.8	41.2	32.9	164.9	98	24,963
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	35	5,972
種山畜産研究室		85.7		177.0	262.7	243.7	0.4	506.8	23	8,292
合 計	31.2	190.2	21.6	1,670.8	1,913.8	526.2	85.5	2,525.5	241	70,519

3 種苗登録、特許等

(1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544号	S59. 3.19
りんどう	ジョバンニ	第1,101号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第1,100号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第2,517号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第2,516号	H 2.12. 5
りんどう	アルビレオ	第2,553号	H 2.12. 5
りんどう	マシリィ	第3,073号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第3,074号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第3,404号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第3,947号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第4,085号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第4,410号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第4,411号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第4,999号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	出願番号第8,531号	出願 (H8. 1.30)
りんどう	ももこりん	出願番号第8,532号	出願 (H8. 1.30)
りんどう	ポラーノ ブルー	出願番号第8,533号	出願 (H8. 1.30)
大豆	星めぐり	出願番号第8,652号	出願 (H8. 3.25)

(2) 特許、実用新案

名 称	出願番号・年月日	登録番号・年月日
米を原料とした飲料の製造方法	2- 71571(H 2. 3.19)	1990534(H7.11.8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	9-344679(H 9. 4. 9)	(出願中)
マクロシードペレットの散布装置	9-106758(H 9. 4. 9)	(出願中)
遺伝子組み替えりんご及びその作出法	11- 83985(H11. 3.26)	(出願中)

4 表彰

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年月日
第54回農業技術功労者表彰(財団法人農業技術協会)	東北農業研究所次長 千葉 武勝	りんご主要害虫の発生生態の解明と合理的防除体系の確立	10.11.6
事績顕著表彰（岩手県）	東北農業研究所 次長 千葉 武勝 病虫害防除所 予察係長 鈴木 敏男	りんごの主要害虫モモシクイガ及びハダニ類の防除技術の確立	10.10.26
(内部表彰) 最優秀研究成果賞	東北農業研究所 専門研究員 大友 令史	岩手県におけるネギコガの発生生態と東北地域におけるネギコガを主としたネギ害虫の防除法	11.2.19
優秀研究成果賞	企画経営情報部 専門研究員 中村 勝則	大規模小麦集団転作の成立条件	11.2.19
	生産環境部 専門研究員 島 輝夫	メッシュ生産環境情報システムの開発	11.2.19
	畜産研究所 専門研究員 小梨 茂	ミルクングパーラー排水用低コスト浄化槽の開発	11.2.19
研究成果賞	企画経営情報部 主任専門研究員 菅原 豊司	盛岡市内の消費者がりんごを購入する視点	11.2.19
	農産部 専門研究員 星 伸枝	斑点落葉病に対するりんご品種の抵抗性検定及び遺伝子導入りんごの耐病性評価	11.2.19
	農産部 主任専門研究員 一守 貴志	水稻の湛水土中直播栽培法	11.2.19
	園芸畑作部 主任専門研究員 阿部 信治 繭品質評価主任 土佐 明夫 上席専門研究員 境田謙一郎	天蚕繭の繰糸方法	11.2.19
	園芸畑作部 主任専門研究員 小原 繁	りんごわい性樹の省力型低樹高栽培（結実部位の低下）法	11.2.19
	生産環境部 主任専門研究員 藤沢 巧	りんごのハダニ類防除体系の改定	11.2.19
	生産環境部 専門研究員 平淵 英利	冷温高湿貯蔵による西洋なし「ラ・フランス」の長期貯蔵法	11.2.19

表彰内容（表彰団体）	表彰の対象者（組織）	表彰の対象となった研究成果等	年 月 日
特別研究功労賞	畜産研究所 専門研究員 遠藤 明人	ソルゴー型ソルガム「風立」「天高」の混播利用	11. 2. 19
	畜産研究所 専門研究員 村上 勝郎 専門研究員 増田 隆晴	公共牧場における食餌性条件反応を利用した黒毛和種親子放牧の実証	11. 2. 19
	東北農業研究所 主任専門研究員 佐藤 正昭	やませ地帯に適応した花き品目の省力安定生産技術の開発	11. 2. 19
	農産部 主任専門研究員 扇 良明 専門研究員 小田中浩哉	酒造好適米「岩南酒13号」の育成	11. 2. 19
研究功労賞	園芸畑作部 専門研究員 内藤 善美	スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS1」「NS3」「NS12」「NS14」「NSR」の育成	11. 2. 19
	企画経営情報部 専門研究員 村上 和史 農産部 主任専門研究員 小野寺忠夫	本県農業・農村の公益的機能評価	11. 2. 19
	生産環境部 技 師 池田 昌晃	岩手県農業研究センターにおける気象値のデータベース化	11. 2. 19
	畜産研究所 主任技能員 藤原 昭義	高標高における肉用牛の省力的繁殖管理技術の確立と研究補助員としての業績	11. 2. 19

5 職員名簿(平成10年4月1日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
所 長	菊池 宏司	専門技術員室	
副 所 長	高橋 安夫	首席専門技術員	佐々木忠勝
総務部		上席専門技術員	菊池美喜子
部 長	八重樫 茂	上席専門技術員	高橋 英子
総務課長	金崎 義久	上席専門技術員	橋本 信一
副主任兼課長補佐	山口 孝志	上席専門技術員	笹田 昭市
主 任	小笠原 智	上席専門技術員	山田 和明
主 事	菊池 泉	上席専門技術員	及川 一也
主 事	日脇香奈恵	上席専門技術員	木内 豊
主 事	高橋 義博	専門技術員	三浦 正弘
管理課長	小笠原 勉	専門技術員	工藤 英夫
課長補佐	菊池 芳孝	専門技術員	高橋 英明
主 任	吉田 直人	専門技術員	鈴木 良則
主 事	菊地 由樹	農産部	
運転技士兼技能員	砂子沢 武	部 長	荻原 武雄
運転技士兼技能員	佐藤 栄恒	水田作研究室長	伊五沢正光
運転技士兼技能員	中島 秋人	主任専門研究員	小野寺郁夫
主任技能員	杉澤 竹雄	主任専門研究員	一守 貴志
主任技能員兼運転技士	浅沼 達也	専門研究員	吉田 宏
主任技能員	駒場正一郎	専門研究員	日影 勝幸
技能員	佐藤 広昭	専門研究員	工藤 佳徳
技能員	西野 哲仁	水稻育種研究室長	畠山 均
技能員	小黒沢清人	主任専門研究員	佐々木 力
企画経営情報部		主任専門研究員	菅原 浩視
部 長	馬場 明雄	専門研究員	小綿 寿志
企画情報室長	宮下慶一郎	専門研究員	仲條 眞介
上席専門研究員	折坂 光臣	応用生物学研究室長	仲谷 房治
主任専門研究員	長内 幸一	主任専門研究員	多田 徹
主 任	渋谷昌二郎	専門研究員	漆原 昌二
専門研究員	中森 忠義	専門研究員	星 伸枝
専門研究員	町屋 宜亨	生産工学研究室長	鶴田 正明
農業経営研究室長	斉藤 恭	主任専門研究員	小野寺忠夫
主任専門研究員	細田 耕平	主任専門研究員	伊藤 勝浩
主任専門研究員	及川 浩一	専門研究員	八重樫耕一
専門研究員	村上 和史	専門研究員	丹内 利彦
技 師	中村 勝則	銘柄米開発研究室長	神山 芳典
マーケティング研究室長	佐々木健治	主任専門研究員	扇 良明
主任専門研究員	星野 圭樹	専門研究員	小田中浩哉
主任専門研究員	菅原 豊司	専門研究員	荻内 謙吾
専門研究員	岡田 利之	専門研究員	尾形 茂
		技能員	照井 儀明
		技能員	菊地 徳章
			菅野 輝彦

職 名	氏 名	職 名	氏 名
園芸畑作部		専門研究員	高橋 正樹
部 長	藤根 勝栄	技 師	高橋 良学
果樹研究室長	小野田和夫	病虫害研究室長	穴戸 貢
主任専門研究員	小原 繁	主任専門研究員	藤澤 巧
主任専門研究員	鈴木 哲	専門研究員	勝部 和則
専門研究員	石川 勝視	専門研究員	後藤 純子
専門研究員	新田 優子	専門研究員	川村 亮二
技 師	佐藤 秀継	専門研究員	石川 佳子
野菜畑作研究室長	作山 一夫	技 師	福士 敬子
専門研究員	有馬 宏	保鮮流通技術研究室長	武藤 和夫
専門研究員	高橋 昭喜	上席専門研究員	八重樫誠次
専門研究員	深澤 明子	専門研究員	平淵 英利
専門研究員	高橋 智宏	専門研究員	佐藤美佳子
技 師	高橋 拓也		
花き研究室長	高橋 寿一	畜産研究所	
主任専門研究員	阿部 潤	所 長	下 弘明
専門研究員	輪達 公重	次 長	杉若 輝夫
専門研究員	内藤 善美	総務課長	柏原 守雄
技 師	渡辺 愛美	副主幹兼課長補佐	三国 義雄
蚕桑技術研究室長	橋元 進	主 事	千葉 浩
上席専門研究員	佐藤 新平	主 事	福士 成幸
主任専門研究員	阿部 信治	運転技士技能員	中村 長三
専門研究員	阿部 弘	運転技士技能員	吉田 正弘
薬品質評価主任	土佐 明夫	主任技能員	伊藤 仁吉
上席専門研究員	境田謙一郎	主任技能員	佐々木紀好
ポイラー技士	高橋 守	主任技能員	白澤 重男
主任技能員	鈴木 宮子	主任技能員	室坂 光榮
主任技能員	菅原 光子	主任技能員	小笠原幸一郎
主任技能員	柏葉 妙子	主任技能員	関村 武志
主任技能員	米澤 英子	技能員	岩崎 春見
主任技能員	小原 早苗	技能員	石川 勝美
主任技能員	川村美知子	技能員	米沢 健治
南部園芸研究室長	吉田 達夫	技能員	三上 宏
上席専門研究員	菅原 和仁	技能員	小林 雄二
主任専門研究員	佐藤 弘	技能員	右京 隆二
		技能員	荒木田俊一
生産環境部		技能員	上野 由克
部 長	小川 勝美	技能員	竹田 政則
環境保全研究室長	諏訪 正義	技能員	中村 健
上席専門研究員	築地 邦晃	技能員	菅原 薫
専門研究員	伊藤 美穂	技能員	永洞 俊司
専門研究員	高城 保志	技能員	水澤 博征
技 師	池田 昌晃	技能員	細野 貴樹
土壌作物栄養研究室長	新毛 晴夫	技能員	鷺見 義信
専門研究員	佐藤 喬	技能員	鳴海 茂揮
専門研究員	島 輝夫	技能員	上澤 賢輝

職 名	氏 名	職 名	氏 名
家畜育種研究室長	小野寺 勉	運転技師兼技能員	小滝 一男
上席専門研究員	仁昌寺 博	運転技師兼技能員	日山千代司
専門研究員	藤原 哲雄	技能員	清水 賢一
専門研究員	西田 清	営農技術研究室長	遠藤 征彦
専門研究員	太田原健二	主任専門研究員	高橋 好範
家畜飼養研究室長	高橋 達典	主任専門研究員	大里 達朗
上席専門研究員	谷藤 隆志	専門研究員	大友 令史
主任専門研究員	川村 輝雄	産地育成研究室長	児玉 勝雄
専門研究員	小梨 茂	主任専門研究員	佐藤 正昭
家畜工学研究室長	田中 修一	主任専門研究員	本田 孝子
主任専門研究員	千葉 伸	主任専門研究員	菅原 英範
専門研究員	鈴木 暁之	技 師	菅野 史拓
専門研究員	野口 龍生	やませ利用研究室長	石山 伸悦
飼料生産研究室長	落合 昭吾	専門研究員	和野 重美
上席専門研究員	齋藤 節男	専門研究員	柏原 一成
主任専門研究員	佐藤 直人	専門研究員	菊地 淑子
専門研究員	遠藤 明人	上席専門技術員	菊池 利行
外山畜産研究室長	佐藤 彰芳	専門技術員	高橋 晋
上席専門研究員兼室長補佐	菊池 正		
専門研究員	三浦賢一郎		
専門研究員	村上 勝郎		
専門研究員	増田 隆晴		
技 師	木村 和博		
主任技能員	藤原 昭義		
技能員	中村 長悦		
技能員	藤原 時夫		
技能員	工藤 明彦		
技能員	畠山 博文		
種山畜産研究室長	谷地 仁		
上席専門研究員兼室長補佐	及川 稜郎		
主任	梅津 順一		
上席専門研究員	橘 千太郎		
主任専門研究員	菊池 雄		
主任専門研究員	大宮 元		
専門研究員	大和 貢		
主任技能員	菊池 敬郎		
技能員	齊藤 和一		
技能員	佐藤 洋貴		
技能員	松本 徹		
技能員	後藤 克明		
県北農業研究所			
所 長	岡島 正昭		
首席専門研究員兼次長	千葉 武勝		
主幹兼総務課長	及川 邦雄		
主 事	千葉 寛満		

沿 革

- 明治31年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治34年 農事試験場（3部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治35年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治36年 農事試験場に園芸部（4部制）を新設。
- 大正 2年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現水沢市）に設置。
- 大正 8年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現江刺市）に設置。
- 大正11年 原蚕種製造所を蚕業試験場（4係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正12年 農事試験場に病虫害部（5部制）を新設。
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村に移転。（滝沢は支場となる。）
- 昭和 2年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現玉山村）に設置。
- 昭和 5年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和10年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村（現遠野市）に設置。
- 昭和12年 種畜場本場を滝沢村に移転。玉山は外山支場となる。
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和13年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和15年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和21年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和22年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和23年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和25年 農事試験場を農業試験場（4部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。
農業試験場畜産部を種畜場と併設。
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町に設置。
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和26年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。
農業試験場に遠野試験地が国から移管。
農業試験場に農業経営研究部門設置。
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和18年 蚕業試験場を水沢市柳馬場に移転。
- 昭和30年 農業試験場本場機構改革。（8部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫害・経営・農機具・畜産）
蚕業試験場本場機構改革。（4部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）
- 昭和32年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和36年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和37年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場（3部制：庶務・果樹・蔬菜花卉）を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫ほ場と改称。
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。
農業試験場遠野試験地及び沿岸試験地を廃止。
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和38年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 昭和39年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和41年 農業試験場本場機構改革。（4部制：庶務2係・技術・環境・経営）
- 昭和44年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和46年 農業試験場本場機構改革。（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・土壌改良科、病虫害科、経営部：経営科・流通経済科）
農業試験場県南分場および県北分場に分場次長を設置。

- 農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場とする。
園芸試験場に環境部を設置。
園芸試験場大迫ほ場を大迫試験地と改称。
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。
- 昭和48年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
昭和51年 農業試験場作業機械科を農業機械科に改称。
昭和53年 蚕業試験場六原試験地を廃止。
蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
昭和56年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改組。
昭和57年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和58年）
平成 3年 農業試験場に水稻育種科を設置。
平成 8年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
平成 9年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。
畜産試験場を畜産研究所に改組。
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成10年 園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置。（繭検定所を廃止）
センター本部に専門技術員を配置。

<所 在>

(本 部)	〒024-0003	岩手県北上市成田20-1 0197-68-2331 FAX0197-68-2361 ホムヱ-ジ http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込737-1 019-688-4326 FAX019-688-4327
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内23-9-1 0195-47-1070 FAX0195-49-3011
(農産部) 銘柄米開発研究室	〒023-1131	岩手県江刺市愛宕字八日市69-4 0197-35-1411 FAX0197-35-1617
(園芸畑作部) 南部園芸研究室	〒029-2205	岩手県陸前高田市高田町字大隅8-9 0192-55-3733 FAX0192-55-3733
繭品質評価分室	〒020-0865	岩手県盛岡市本宮2-10-1 019-636-1528 FAX019-635-0173
(畜産研究所) 外山畜産研究室	〒028-2711	岩手県岩手郡玉山村藪川字大の平40 019-681-5011 FAX019-681-5012
(畜産研究所) 種山畜産研究室	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字子飼沢30 0197-38-2312 FAX0197-38-2177